月刊ニュータイプ7月号付録　第9巻第7号　1993年7月1日発行

THE TELEVISION FAMILY

Newtype

THE MOVING PICTURES MAGAZINE

月刊ニュータイプ

百号記念特別編集

Newtype THE MOVING PICTURES MAGAZINE

SPECIAL ISSUE

100th

PERFECT FILE

COVERS 101
POSTERS 94
100%COLLECTION etc. 34
INTERVIEWS
SPECIALS
and many many DATA



Newtype

THE MOVING PICTURES MAGAZINE

PERFECT FILE

CONTENTS

※掲載データに関しては、記録として社名、人名などは掲載当時のままを記載しています。また文中の敬称は略させて頂きました。ご了承ください。
またバックナンバーの在庫はありません、お問合せはご容赦ください。



0 チャム・ファウ 1985

NO.00

Ⓐ聖戦士ダンバインⒷ湖川友謙Ⓒ日本サンライズ●この0号は、創刊準備号として'85年2月につくられたもの。誌面のテスト版。ニュータイプの歴史はここから始まった

Newtype
THE MOVING PICTURES MAGAZINE

COVERS 101



7 VガンダムLM312V04 1993

NO.100

Ⓐ機動戦士VガンダムⒷカトキハジメⒸアートミック●記念すべき通巻100号。創刊号のMK－Ⅱと同じポーズのVガンダム。「初心にもどって」の意を表現しました

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル　Ⓑ原画イラスト　Ⓒセルワーク

1985

4 ガンダムMK・II



NO.01

Ⓐ機動戦士Ｚガンダム Ⓑ梅津泰臣 Ⓒ日本サンライズ●記念すべき創刊号。特集は「Ｚガンダム」のスタッフインタビュー。別冊付録に「カムイの剣」ＢＯＯＫが付いた

5 メモル



NO.02

Ⓐとんがり帽子のメモル Ⓑ名倉靖博 Ⓒ東映動画●創刊号のムードから一変してＴＶ放映終了直後のメルヘン作品「メモル」が巻頭特集に。名倉靖博が描いた貴重な一枚

6 チャム・ファウ



NO.03

Ⓐ聖戦士ダンバイン Ⓑ湖川友謙 Ⓒ高島清子●富野由悠季のオリジナルワールド「バイストン・ウェル」をビジュアル化した特集が話題に。斉藤由貴の「スケバン刑事」も

7 ＺガンダムＭＳＺ-００６



NO.04

Ⓐ機動戦士Ｚガンダム Ⓑ梅津泰臣 Ⓒ日本サンライズ●極秘にされていたＺガンダムのデザインがついに公開された。この号からＮＴ名物のＢ２大判ポスターが付録に

8 ミンキーモモ



NO.05

Ⓐ魔法のプリンセス　ミンキーモモ Ⓑわたなべひろし Ⓒ葦プロ●太田貴子、川村万梨阿、岡本麻弥、日高のり子、小幡洋子ら人気ＣＶを沖縄で特写。懐かしいカラー企画

9 シャア・アズナブル



NO.06

Ⓐ機動戦士Ｚガンダム Ⓑ北爪宏幸 Ⓒ日本サンライズ●意外にもシャアが表紙を飾ったのはこの一枚きり。巻頭はいわずもがなの「Ｚガンダム」100%大特集というわけだ

10 アーナス



NO.07

Ⓐウィンダリア Ⓑいのまたむつみ Ⓒカナメプロ●藤川桂介シナリオ、いのまたむつみキャラクターデザインという元祖「宇宙皇子」的作品「ウィンダリア」をスクープ

11 サイコガンダム



NO.08

Ⓐ機動戦士Ｚガンダム Ⓑ梅津泰臣 Ⓒ高島清子●表紙は３回目の登場となった梅津泰臣によるガンダム・シリーズ。この号の付録に初めてカセットレーベルがお目見えした

12 ラキシス（当時はファティマ表記のみ）



NO.09

Ⓐファイブスター物語 Ⓑ永野護 Ⓒ高島清子●なんと「F.S.S.」の連載を待たずに永野ファティマが表紙に。正月映画特集には「バック・トゥ・ザ・フューチャー」などが登場

1986

1 サイコガンダムMK-Ⅲ



NO.10

Ⓐ機動戦士Ζガンダム Ⓑ内田順久 Ⓒアートミック●「Ζガンダム」のラストを完全ビジュアル化。その後名物企画となる「アニメ大予言」や橋本正枝の「マハラジャ」も開始

2 時祭イブ



NO.11

Ⓐメガゾーン23Ⓑ美樹本晴彦Ⓒアートランド●オリジナルビデオアニメ…（長い！）をＯＶＡと命名したのがこの号。さらにブレイクする前の南野陽子をいちはやく特写

3 アリオン



NO.12

ⒶアリオンⒷ安彦良和Ⓒ日本サンライズ●当時のキャッチコピー「楽しくなければテレビじゃない」のフジテレビ（ＣＸ）特集。「フール・フォー・ザ・シティ」が最終回

4 ガンダムZZ MSZ-010



NO.13

Ⓐ機動戦士ガンダムＺＺⒷ佐野浩敏Ⓒアートミック●栄光の創刊１周年記念号は「ＺＺ」の特集。そして永野護の「ファイブスター物語」がスタートした記念碑的な号だ

5 マシュマー・セロ



NO.14

Ⓐ機動戦士ガンダムＺＺⒷ北爪宏幸Ⓒアートミック●ロボット・アニメにカツを入れるためのロボット大特集。美樹本晴彦原画の「鉄腕アトム」なども登場し、楽しい

6 ニューレイズナー



NO.15

Ⓐ蒼き流星ＳＴＰレイズナーⒷ吉田徹Ⓒアートミック●ファンの支持を集めつつあった「ＳＴＰレイズナー」が突然の放送終了。ＲＰＧブームをいちはやくキャッチした号

7 マリーン



NO.16

ⒶウィンダリアⒷいのまたむつみⒸカナメプロ●夏の劇場作品「天空の城ラピュタ」や表紙の「ウィンダリア」を特集。角川アニメ「火の鳥」「時空の旅人」が製作発表された

8 ジュドー・アーシタ



NO.17

Ⓐ機動戦士ガンダムＺＺⒷ北爪宏幸Ⓒアートミック●「ガンダムを再び劇場アニメに！」というキャンペーンを開始。ファミコンブームを反映してＴＶゲーム特集も掲載

9 ナイト・オブ・ゴールド



NO.18

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒマジックバス●巻頭は「ラピュタ」「ＺＺ」と原田知世の1stコンサート。別冊付録には今や伝説となった「F.S.S.」設定資料集Vol.1が付いた

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル　Ⓑ原画イラスト　Ⓒセルワーク

10 早坂哲子（テコ）



NO.19

Ⓐ時空の旅人Ⓑ竹井正樹Ⓒマッドハウス●ヒーローのあり方を考える特集「激突／スーパーヒーローズ」は賛否両論。あのJ・キャメロン監督の「エイリアン2」も速報

11 火の鳥



NO.20

Ⓐ火の鳥Ⓑさかいあきおⓒマッドハウス●実写映画の公開に合わせて「めぞん一刻」の特集。「ガンダム再映画化」キャンペーンの読者投票集計も反響を。発行部数上昇へ

12 エルピー・プル



NO.21

Ⓐ機動戦士ガンダムＺＺⒷ北爪宏幸Ⓒアートミック●プルの死をモチーフにした「ＺＺ」には涙。富野由悠季の「ファウ・ファウ物語」が終了。付録ポスター（P54）が大反響

1 火の鳥

1987



NO.22

Ⓐ火の鳥Ⓑさかいあきおⓒマッドハウス●「火の鳥」「時空の旅人」公開直前特集号。まだ手塚先生ご存命のときでした。ファンクラブ「ニュータイプKids」第1期会員募集も

2 エルガイムMK・Ⅱ



NO.23

Ⓐ重戦機エルガイムⒷ仲盛文Ⓒアートミック●サンライズ・アニメの大特集。好評だったが、サンライズ作品の特集が多すぎると批判も。あの「王立宇宙軍」も姿を見せる

3 ドラグナー1



NO.24

Ⓐ機甲戦記ドラグナーⒷ大張正己Ⓒアートミック●「ドラグナー」ＴＶ放映スタート。大張正己＆大貫健一のメカ＆キャラが支持を得た。「マシンロボ」も元気に登場した

4 ガンダムRX・78



NO.25

Ⓐ機動戦士ガンダムⒷ仲盛文Ⓒアートミック●創刊2周年記念号。「ＺＺ」終了をうけて第1作から最新作まで一挙に特集。富野由悠季の小説「ガイア・ギア」が連載開始

5 ケーン・ワカバ



NO.26

Ⓐ機甲戦記ドラグナーⒷ大貫健一Ⓒ中山久美子●「ドラグナー」の大特集。映画「王立宇宙軍」もヒットする。アニメ関連雑誌でトップを走りはじめたＮＴがさらなる飛躍へ

6 ジュノーン



NO.27

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒ中山久美子●初めて「F.S.S.」が巻頭カラーに登場。そしてアニメ化へのファンの期待が高まる。美樹本晴彦らが描くファティマも必見だ／

7 リンダ・プラート



NO.28

Ⓐ機甲戦記ドラグナーⒷ大貫健一Ⓒ中山久美子●ＮＴの特集記事で人気上昇したアニメヒロイン、レイナ・ストール。彼女が活躍した「マシンロボ」第１部終了特集が

8 νガンダムRX-93



NO.29

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ佐山善則Ⓒ中山久美子●キャンペーン開始から１年、「ガンダム」再映画化決定。デザイン極秘のため表紙は装甲板をとったνガンダム

9 アフランシ・シャア



NO.30

Ⓐガイア・ギアⒷ北爪宏幸Ⓒ中山久美子●「逆襲のシャア」の定期レポートが始まる。このころから「F.S.S.」をはじめＮＴ掲載作品がガレージキットになるケースが急増

10 νガンダムRX-93



NO.31

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ佐山善則Ⓒ中山久美子●やっとこさ装甲板が付いたνガンダムが表紙を飾る。'88年２月に劇場公開が決定した「めぞん一刻」特集も

11 アラニア・シャンカール



NO.32

Ⓐフール・フォー・ザ・シティⒷ永野護Ⓒダーム●「逆襲のシャア」「ドラグナー」の２本立てにＯＶＡ「デビルマン・誕生編」が華をそえる。バラエティに富んだ巻頭

12 サザビー



NO.33

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ出渕裕・西井正典Ⓒ中山久美子●「機動警察パトレイバー」など注目作を発表。「逆襲のシャア」効果により発行部数は上昇の一途を

1988

1 α・アジール



NO.34

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ出渕裕・西井正典Ⓒ中山久美子●「宇宙皇子」のイラストにあのマイケル・ジャクソンがひと目ぼれ。いのまたむつみとの対面が実現

2 音無響子



NO.35

Ⓐめぞん一刻Ⓑ森山雄二Ⓒグッズ●映画公開直前の「めぞん一刻」の響子さんを表紙に迎える。アニメ以外に「ロボコップ」「帝都物語」などＳＦＸ大作がめじろ押しの号

3 アムロ・レイ



NO.36

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ大貫健一Ⓒ中山久美子●「逆襲のシャア」公開を１か月後に控え鑑賞券1000名プレゼント。当時人気のＴＭネットワークも登場した

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル　Ⓑ原画イラスト　Ⓒセルワーク

10 ボーグマン・アニス



NO.43

Ⓐ超音戦士ボーグマンⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●'88年の女性キャラクター人気No.1のアニスが表紙に。「きまぐれオレンジ・ロード」がＬＤ化、映画化で巻頭特集に登場

7 各務



NO.40

Ⓐ宇宙皇子Ⓑいのまたむつみ Ⓒ中山久美子●特集も「宇宙皇子」速報。「F.S.S.」のピンチヒッターに、当時新進漫画家の麻宮騎亜が参入。前後編で「ダークエンジェル」を熱筆

4 νガンダムRX-93



NO.37

Ⓐ機動戦士ガンダム・逆襲のシャアⒷ西井正典Ⓒ中山久美子●「逆襲のシャア」いよいよ公開。そして創刊3周年記念号だ。この号から「コミックＧＥＮＫｉ」が定期付録に

11 クリス



NO.44

Ⓐ機動戦士ガンダム0080・ポケットの中の戦争Ⓑ美樹本晴彦Ⓒアートランド●ガンダム10周年に向けてＯＶＡ「ポケットの中の戦争」を発表。G初の女性パイロットが表紙

8 ガイア・ギアα



NO.41

Ⓐガイア・ギアⒷ西井正典Ⓒ中山久美子●連載１年半にして「ガイア・ギア」文庫版１巻発売記念。この夏には、あのアニメ大作「ＡＫＩＲＡ」が堂々公開！ スゴかった

5 レッド・ミラージュ



NO.38

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●「F.S.S.」ついにアニメ映画化決定！ 表紙はアイシャ仕様のレッド。別冊付録には、ゆうきまさみの「パトレイバー」番外編が登場

12 ロジャー・ラビット&エディ・バリアント



NO.45

Ⓐロジャー・ラビット●ＮＴ初の実写の表紙。この作品、実写・アニメ合成洋画として話題となった。再び「F.S.S.」が休載に。そして高河ゆんの「Ｂ型同盟」がスタート！

9 コーラスⅥ世



NO.42

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●４か月ぶりに「F.S.S.」が帰還。'89年が「ガンダム放映10周年」にあたり、その記念企画を発表。「閃光のハサウェイ」の予告も掲載

6 ボーグマン・リョウ



NO.39

Ⓐ超音戦士ボーグマンⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●表紙&巻頭を「ボーグマン」が飾る。「ガンダム」を総括した富野由悠季特集も。前号を休載した「F.S.S.」以後３か月戻らず

1989

1 ナイト・オブ・ゴールド



NO.46

Ⓐファイブスター物語Ⓑ森川定美Ⓒ中山久美子●映画版「F.S.S.」も完成直前。フィルムが誌面で公開されるや、期待も発行部数も急上昇。表紙は本編の原画マン・森川作

2 ラキシス



NO.47

Ⓐファイブスター物語Ⓑ結城信輝Ⓒ中山久美子●「F.S.S.」の全国5大都市での試写イベントを発表。結城版ラキシスもかわゆくおみごと。フィルムストーリーがスタート

3 宇宙皇子



NO.48

Ⓐ宇宙皇子Ⓑいのまたむつみ Ⓒ中山久美子●もちろん映画「宇宙皇子」大特集。原作をもとに星暦年表を掲載。また「とんねるずのみなさんのおかげです」も解剖したんだよ

4 ナイト・オブ・ゴールド&ラキシス



NO.49

Ⓐファイブスター物語Ⓑ結城信輝Ⓒ中山久美子●結城信輝入魂の表紙がスゴイ！　創刊4周年記念号。夏公開のＳＦＸ大作「ガンヘッド」の漫画版（麻宮騎亜・絵）も短期連載

5 AV-98イングラム



NO.50

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ出渕裕・西井正典Ⓒ中山久美子●「パトレイバー」が表紙に初登場した通巻50号。特集も「劇場版」速報。別冊付録は追悼！「手塚治虫メモリアル」

6 ガンダムRX78 NT-1アレックス



NO.51

Ⓐ機動戦士ガンダム0080・ポケットの中の戦争　CGワーク＝ＡＸＩＳ・松野美茂●初のコンピュータ・グラフィックスによる表紙。ＯＶＡ「ポケットの中の戦争」特集

7 ニム伍長



NO.52

ⒶガンヘッドⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●ＳＦＸ劇場大作「ガンヘッド」特報と菊池通隆大全集が巻頭特集に。「サイレントメビウス」ＯＶＡ化（のちに劇場に変更）速報も

8 ガンヘッド&ブルックリン



NO.53

ⒶガンヘッドⒷ西井正典Ⓒ中山久美子　モデル＝高嶋政宏●「ガンヘッド」をはじめ「パトレイバー」「魔女の宅急便」「インディ・ジョーンズ最後の聖戦」など夏の映画特集

9 修羅王シュラト



NO.54

Ⓐ天空戦記シュラトⒷ松尾慎ⒸＩ＆Ｇ竜の子●「グランゾート」「悪魔くん」をモチーフに魔法大全と「ファイブスター物語」カラー予告が巻頭に。漫画版「妖刀伝」新連載

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル　Ⓑ原画イラスト　Ⓒセルワーク

10 シルバーナイト ダグラス・カイエン



NO.55

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●なんと10か月ぶりに「F.S.S.」が連載再開しトラフィックス１へ突入。巻頭は「ポケットの中の戦争」「閃光のハサウェイ」のＧ特集

11 泉野明



NO.56

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷゆうきまさみ・西井正典Ⓒ I ＆Ｇ竜の子●ＴＶ版「パトレイバー」放送開始、「アッセンブル・インサート」ＯＶＡ化。ゆうきまさみ大特集号！

12 那羅王エレンゲ



NO.57

Ⓐ天空戦記シュラトⒷ奥田万つ里Ⓒ I ＆Ｇ竜の子●アスラ神族編に突入した「シュラト」の天空界をクローズアップ。全米で大ヒットした「バットマン」など正月映画も

1990

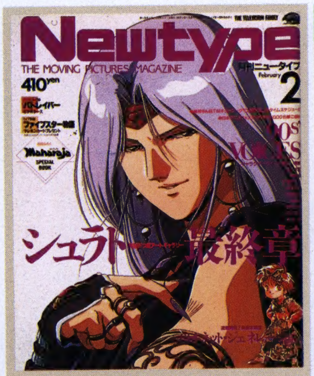
1 泉野明&AV・98イングラム



NO.58

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ出渕裕・西井正典Ⓒ大月結里枝●「パトレイバー」キャラクター＆レイバー人気ベスト10発表。公開直前の「ゴジラVSビオランテ」も堂々登場

2 夜叉王ガイ



NO.59

Ⓐ天空戦記シュラトⒷ青木哲郎Ⓒ中山久美子●「シュラト」最終回を記念して奥田万つ里イラスト集掲載。佐々木望、草尾毅らＮＴ久々の巻頭キャラクターボイス特集も

3 ファティマ・静



NO.60

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●ファンをやきもきさせたＴＶ版「パトレイバー」放送延長or終了問題をピックアップ。ＯＶＡ注目作「ロードス島戦記」巻頭初登場

4 騎士（ナイト）ガンダム（リアルバージョン）



NO.61

Ⓐなしⓑ森川定美Ⓒ中山久美子●創刊５周年記念号。過去５年間ＮＴを飾ったスターたちが巻頭に集合。放送直前の「ふしぎの海のナディア」が貞本義行描き下ろしで初登場

5 ナディア



NO.62

Ⓐふしぎの海のナディアⒷ貞本義行Ⓒガイナックス●表紙にナディアが初登場（その後４回カバーガールに）。特集は、もちろん「ナディア」に放映１周年の「らんま½」が

6 TYPE J9グリフォン



NO.63

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ出渕裕Ⓒ竹田雄介●表紙から巻頭ぶっちぎりで〝黒い魔神〟グリフォンが暴れた号。別々の道を選択した藤子不二雄Ⓐ、藤子・Ｆ・不二雄大研究も

1991

1 ガンダムF91



NO.70

Ⓐ機動戦士ガンダムF91Ⓑ佐山善則Ⓒ大月結里枝・I&G竜の子●「F91」「ナディア」「サイレントメビウス」「アルスラーン戦記」「おもひでぽろぽろ」「老人Z」と'91劇場特集

2 セシリー・フェアチャイルド（ベラ・ロナ）



NO.71

Ⓐ機動戦士ガンダムF91Ⓑ安彦良和Ⓒスタジオ K●巻頭を飾ったのは前年に引き続きCV大特集。TARAKO、井上喜久子、山口勝平ら。「F91」のフィルムストーリーも

3 ナディア



NO.72

Ⓐふしぎの海のナディアⒷ本田雄Ⓒガイナックス●スキーウェア(?)のナディアが表紙を飾り大反響を呼んだ。またNTがイラストギャラリー〝夢幻回廊〟を企画した号だ

10 泉野明



NO.67

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ高田明美Ⓒ大月結里枝●TV最終回直前のパト総決算特集。出渕裕インタビューも必読。「サイレントメビウス」劇場化第1報に「F.S.S.」も再開だ

11 シーブック・アノー



NO.68

Ⓐ機動戦士ガンダムF91Ⓑ安彦良和Ⓒスタジオ K●久々の安彦良和によるガンダム・キャラクターの表紙。巻頭は「F91」「ナディア」。初のF1カラー特集が載った号だ

12 バーン



NO.69

Ⓐロードス島戦記Ⓑ結城信輝Ⓒ中山久美子●「らんま½」「めぞん一刻」「うる星やつら」「人魚の森」とズラリ並んだ画期的な高橋留美子特集に「ロードス」が華をそえた号

7 ディードリット



NO.64

ⒶロードスⒷ島戦記Ⓑ結城信輝Ⓒ中山久美子●大ヒットOVA「ロードス島戦記」発売直前特集号。プラモデルシリーズ「ガンダムF90」もお目見え。「F.S.S.」またも休載

8 ガンダムF90



NO.65

Ⓐオリジナルプラモデル Ⓑ明貴美加Ⓒ中山久美子●劇場版「機動戦士ガンダムF91」の第1報を掲載。同時にガンダムの軌跡を振り返る。「ダイ・ハード2」など夏映画も

9 ナディア



NO.66

Ⓐふしぎの海のナディアⒷ鈴木俊二Ⓒガイナックス●「ナディア」中盤戦速報に、日豪合作の「ウルトラマンG」が登場。麻宮騎亜の「聖獣伝承ダークエンジェル」新連載

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル Ⓑ原画イラスト Ⓒセルワーク

4 ガンダムF91&シーブック&セシリー



NO.73

Ⓐ機動戦士ガンダムF91Ⓑ小林利充Ⓒ中山久美子●創刊6周年記念号。公開直前の「F91」を巻頭10ページで特報。「ナディア」最終回特集に庵野秀明vs島本和彦対談も掲載

5 ナディア



NO.74

Ⓐふしぎの海のナディアⒷ本田雄Ⓒガイナックス●「ナディア」表紙シリーズ第4弾はテニスルック。そして劇場化の第1報を伝えた。湾岸戦争特集はなかなかの反響を

6 レビア・マーベリック



NO.75

ⒶサイレントメビウスⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●サイレント軍団1番手はレビア。「サイレント」「アルスラーン戦記」「おもひでぽろぽろ」と'91年夏映画の強力3本を巻頭で

7 ナディア



NO.76

Ⓐふしぎの海のナディアⒷ高田耕一Ⓒグループタック●5回目のナディアは劇場版。TVから3年後の彼女を巻頭で。「アルスラーン戦記」をメーンに田中芳樹作品も特集

8 アルスラーン



NO.77

Ⓐアルスラーン戦記Ⓑ神村幸子Ⓒ水田信子●キャラクターデザインの神村原画による視線がリリしい表紙。巻頭も「アルスラーン」のCV・山口勝平らをフィーチャーした

9 香津美・リキュール



NO.78

ⒶサイレントメビウスⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●劇場公開直前で香津美がご登場。巻頭も「サイレント」を総力特集。デザイナー、シド・ミードvs富野由悠季対談にも注目を

10 オルソン



NO.79

Ⓐロードス島戦記Ⓑ結城信輝Ⓒ鈴木孝子●「ロードス島」のバーサーカー・オルソンとともにクライマックス特集。大友克洋&江口寿史による異色作品「老人Z」公開速報も

11 早乙女乱馬&らんま



NO.80

Ⓐらんま1/2Ⓑ中島敦子Ⓒスタジオ・ディーン●「らんま」「うる星」が劇場公開／るーみっくわーるどが久々の巻頭に。F1鈴鹿特集は中島悟の日本ラストラン、お疲れ様

12 濁&妾



NO.81

Ⓐ聖獣伝承ダークエンジェルⒷ菊池通隆Ⓒ中山久美子●「ダーク」初表紙。ガイナックス特集&貞本義行の「R20」集中連載。巨編「ガイア・ギア」が完結し「F.S.S.」…休載

1992

1 破烈の人形



NO.82

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●3年半ぶりに永野メカが表紙を飾る。「F.S.S.」休載中にオメデタニュースもありインタビュー掲載。巻頭は'92アニメ大作先取り

2 ガンダムRX-78GP01



NO.83

Ⓐ機動戦士ガンダム0083Ⓑ河森正治Ⓒ中山久美子●「ガンダム」「パトレイバー」「ジャイアントロボ」など巨大ロボットが集結。別冊付録「F.S.S.」設定資料集Vol.2大反響

3 彩弧由貴



NO.84

Ⓐサイレントメビウス2Ⓑ菊池通隆Ⓒ中山久美子●菊池作の由貴の表紙は大評判。巻頭では「サイレント」「ダーク」「コンパイラ」など漫画家・麻宮騎亜にズームアップした

4 アトロポス&すえぞう



NO.85

Ⓐファイブスター物語Ⓑ永野護Ⓒダーム●創刊〝ラッキー〟7周年記念号。巻頭は7年間の人気キャラを振り返り、'92年のニューヒーローを占った。「F.S.S.」無事帰る！

5 泉野明&AV-98イングラム



NO.86

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ出渕裕Ⓒスタジオ・ファンタジア●「パトレイバー」OVA版完結。各キャラの若かりしころが登場。「ガイア・ギア」のラジオドラマ・スタート

6 ガンダムRX-78GP03S



NO.87

Ⓐ機動戦士ガンダム0083Ⓑカトキハジメ Ⓒ中山久美子・谷藤薫児●初の透過光（撮影・中島秋則）によるスゴ味のあるステイメン。「美少女戦士セーラームーン」初登場の号

7 ラクシ



NO.88

Ⓐ風の大陸Ⓑ結城信輝Ⓒ鈴木孝子●まだ記憶に新しいNEO英雄伝説。まずは「風の大陸」と「アルスラーン戦記II」から。実写では「バットマンリターンズ」もあった

8 香津美・リキュール



NO.89

Ⓐサイレントメビウス2Ⓑ菊池通隆Ⓒ中山久美子●大胆なビスチェ姿の香津美は大反響。巻頭はもちろん「サイレント2」総力取材。「紅の豚」「エイリアン³」も元気あった

9 猪熊柔



NO.90

ⒶYAWARA！Ⓑ兼森義則Ⓒ中村美和子●世はバルセロナ五輪真っただ中！田村亮子選手とシンクロしてアニメもがんばる。「遠い海から来たCOO」アニメ映画化も

Ⓐ＝番組、映画、ソフトタイトル　Ⓑ原画イラスト　Ⓒセルワーク

1993



10 ガンダムRX-78GP03デンドロビーム

NO.91

Ⓐ機動戦士ガンダム0083Ⓑカトキハジメⓒアートミック・谷藤薫児●人気ＯＶＡシリーズ「0083」もいよいよ完結。そして富野由悠季が新作構想（後のＶガンダム）を語る



11 泉野明

NO.92

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ高田明美ⓒ鈴木孝子・谷藤薫児●「パトレイバー」劇場版2を速報。また「セーラームーン」「無責任艦長タイラー」など新勢力も台頭してきた



12 ブラスターテッカマンブレード

NO.93

Ⓐ宇宙の騎士テッカマンブレードⒷ佐山善則ⓒＩＧタツノコ・谷藤薫児●パワーアップしたブラスター見参。「F.S.S.」休載を受けて草彅琢仁の「上海汚人賊」短期集中連載



1 AV-98イングラム+攻撃ヘリ

NO.94

Ⓐ機動警察パトレイバーⒷ出渕裕・河森正治ⓒＩＧタツノコ●劇場版「パトレイバー」、ＴＶ版「タイラー」、ＯＶＡ版「ああっ女神さまっ」など'93アニメ注目作を先取りした号



2 アザリン

NO.95

Ⓐ無責任艦長タイラーⒷ平田智浩ⓒタツノコプロ●けなげに登場のアザリン。高橋良輔の新ＳＦノベル「equalガネシス」スタート。「F.S.S.」の扉絵別冊付録も大好評！



3 水野亜美

NO.96

Ⓐ美少女戦士セーラームーンⒷ伊藤郁子ⓒ東映動画●お待たせしました。満を持して放った「セーラームーン」大特集！「Ｖガンダム」発表＆「F.S.S.」再開…万々歳の号



4 ＶガンダムLM312V04

NO.97

Ⓐ機動戦士ＶガンダムⒷカトキハジメⓒアートミック●感謝、感謝の創刊8周年記念号。「Ｖガンダム」いよいよ腰をすえて特集。なんと「セーラームーン」もドッキング



5 ウッソ・エヴィン&ＶガンダムLM312V04

NO.98

Ⓐ機動戦士ＶガンダムⒷ中沢数宣・逢坂浩司ⓒサンライズ●得意技の「Ｖガンダム」2連投。「セーラームーン」も"R"に突入し、「タイラー」も元気。ＮＴのＴＶ-ＣＭ開始



6 ベルダンディー

NO.99

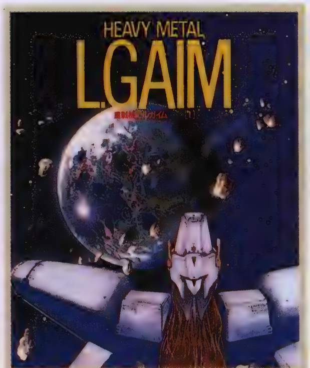
Ⓐああっ女神さまっⒷ藤島康介ⓒ上谷秀夫●原作者自身が原画を手掛けた、まさに"女神"。ＯＶＡシリーズも人気急上昇。あのカールスモーキー石井がＲＥＸ同伴でポーズ

ニュータイプ別冊シリーズコレクション

◆THE TELEVISION ANIME SERIES
◆NEWTYPE 100%COLLECTION
◆NEWTYPE Illustrated COLLECTION
◆NEWTYPE GARDEN STORIES
◆ETC.

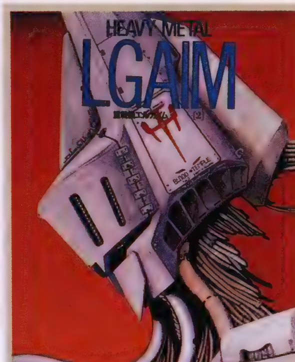
▼THE TELEVISION ANIME SERIES

1 重戦機エルガイム 1



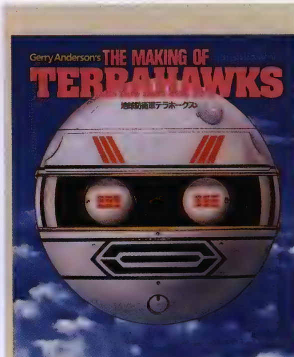
ⒶBLUE and WHITE ONEⒹ永野護Ⓔ1984.12.5 ●月刊ニュータイプの誕生以前に発行されたアニメ・ムック本。これこそがニュータイプ誌の性格を決定づけた聖典なンである(う〜む!?)。もってる人、大切にしてネ

2 重戦機エルガイム 2



ⒶSUNSETⒹ永野護Ⓔ1985.4.1 ●"遊び心満載の活気的"。第2弾。フィルムストーリー、設定資料集、インタビュー記事は当然。裏設定もここだけの話も何でもアリ！永野護描き下ろしイラストはF.S.S.世界へと通じる

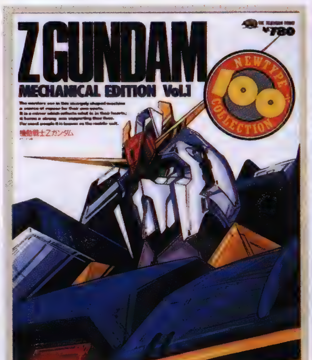
3 地球防衛軍テラホークス



Ⓐゼロイド Ⓓ永野護・島倉二千六Ⓔ1985.8.20 ●ジェリー・"サンダーバード"・アンダーソンの、知る人ぞ知る作品のメーキング本。米国版と日本版の対比や、安彦良和キャラ&メカデザの、幻のアニメ版企画も公開

▼NEWTYPE 100% COLLECTION

1 機動戦士Zガンダム メカニカル編1



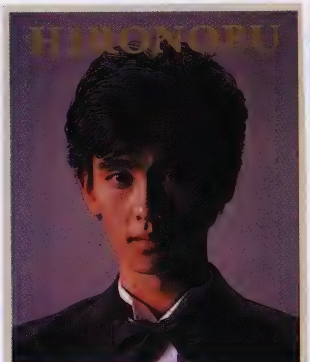
ⒶMSZ-006 ZガンダムⒷ内田順久Ⓒ日本サンライズⒺ1985.10.31 ●100%コレクションの第1はZガンダム！アーガマの"あ"からワークスエレカの"わ"まで、内田順久・佐野浩敏描き下ろしと写真&設定資料で徹底ご紹介

2 機動戦士Zガンダム キャラクター編1



Ⓐカミーユ・ビダンⒷ北爪宏幸Ⓒ日本サンライズⒺ1985.11.15 ●あムロ・レイからろザミア・バダムまで、キャラ全百科。北爪宏幸のフォウ♡、シャア、ロザミア、小林利充のライラ、ジェリドなど描き下ろしがうれしい

3 野村宏伸写真集



表紙=野村宏伸　撮影=吉田茂一Ⓔ1986.3.20 ●メ○コンEXのCMでおなじみ野村宏伸、オンリー本。初主演の角川映画「キャバレー」のショット他、'85年の彼のいろんな顔が、1ページ13コマの写真に止まってる

4 機動戦士Zガンダム メカニカル編2



ⒶMSZ-006 ZガンダムⒷ佐野浩敏Ⓒアートミック Ⓔ1986.11.20 ●恩田尚之、仲盛文、藤田一己が描き下ろしたガンダムシリーズ掲載。でも派手さでキュベレイとハンブラビに一歩譲る!?内田順久の描くシャアもナイス

Ⓐ=表紙キャラクター名（イラストタイトル）、Ⓑ=原画、Ⓒ=セルワーク、Ⓓ=イラスト、Ⓔ=発行年月日、E=EXTRA

11　マシンロボ



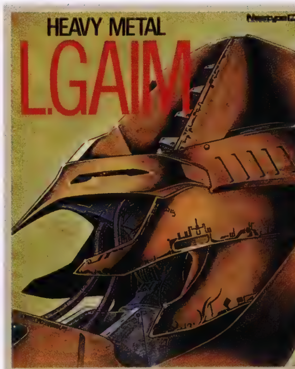
Ⓐロム・ストールⒷ羽原信義Ⓒ中山久美子Ⓔ1988.7.1●出てくる出てくるたくさんのマシンロボ軍団は設定資料に封じ込め、後は煩悩にひた走る。転生シーンのほか、羽原信義自らレイナのコスチューム図解しマス

8　機甲戦記ドラグナー　2



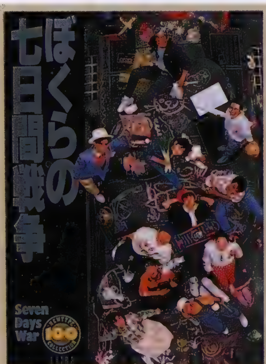
Ⓐケーン・ワカバⒷ大貫健一Ⓒ中山久美子Ⓔ1988.1.20●今回は、マイヨ＆ミンのダンスと、ヒロイン3人の水着姿を。ラフ画は羽原信義、原画は大貫健一。小林誠のジオラマフォトに、ボードゲームも付いて遊べる

5　重戦機エルガイム　3



ⒶGOLD KINGⒹ永野護Ⓔ1987.4.30●OVA「エルガイムⅢ」本。仲盛文描き下ろし「HEAVY METAL列伝」で、バッシュ、オージェ、パゴータ、サロンズが勇姿を競う。永野護と大森英敏の化粧対談等怪しい企画も

E　ぼくらの七日間戦争



表紙＝菊地英治(菊池健一郎)、中山ひとみ(宮沢りえ)ほか　撮影＝小林淳Ⓔ1988.8.1●宗田理原作小説の映画化。宮沢りえのPin-upから始まって、映像解説、ロケ地ごとのショットまで少年少女のパワーがいっぱい

9　帝都物語



表紙＝加藤保憲（嶋田久作）Ⓔ1988.2.20●荒俣宏の同名小説の映画化。怪人・加藤に扮した嶋田久作の怪演が話題を集めた。映画のストーリーを追いつつ映像を紹介。大震災前後の東京のセット等メーキングも収録

6　機甲戦記ドラグナー



ⒶD-1カスタムタイプⒷ大張正己Ⓒ中山久美子Ⓔ1987.8.20●キャラは大貫健一、メカは大河原邦彦デザインの番組。TV以上にカッコいい描き下ろしでは、マイヨがバンドで歌い、ヒロイン3人は下着姿で、くらっ

13　花のあすか組！　TVバージョン



表紙＝九楽あすか(小高恵美)、堂本ミコ(小沢なつき)、香月はるみ(石田ひかり)　撮影＝大塚俊一Ⓔ1988.8.1●闘う中学生を演じる3人。当然カメラは彼女たちを追う！役の顔と素顔とが見られるゾの三つ巴写真集

10　機動戦士ガンダム　逆襲のシャア



Ⓐシャア・アズナブルⒷ北爪宏幸Ⓒ中山久美子・アートミックⒺ1988.5.1●ララァを挟んだシャアとアムロの14年間の戦いが決着する。その全編をフィルムストーリーで詳しく解説。ガンダム世界用語集が大好評

7　機動戦士ガンダムZZ



ⒶMSZ-010ZZガンダムⒷ内田順久Ⓒアートミック Ⓔ1987.10.20●ストーリーやキャラクターより、メカを中心に編集。でも忘れちゃいけない悲劇のニュータイプ部隊。プル、プルツー、マシュマーらをチェック

14 ファイブスター物語



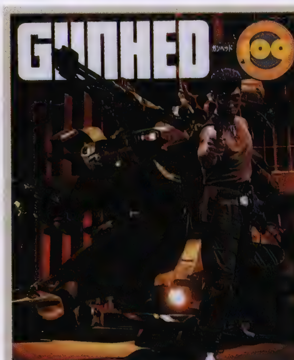
Ⓐレディオス・ソープ&ファティマ三姉妹Ⓑ結城信輝Ⓒ中山久美子・アートミックⒺ1989.3.10●フィルムストーリー、シナリオ全収録。またファティマ、モーターヘッド等のキーワードを映像たっぷりに解説する

15 コボット スペースマジカルショー「光と闇の伝説」より



ⒶコボットⒹ野原幸夫Ⓔ1989.3.25●横浜博YES'89松下館で上演されたショーを2次元映像化。田村英樹がキャラデザしたノアとアイを中心に、特殊撮影やCGでイラストをつくり出す。ショー自体の舞台裏も取材

16 ガンヘッド



表紙＝ガンヘッド&ブルックリン（高嶋政宏）撮影＝相川明・柏岡裕之Ⓔ1989.8.1●史上最強の大型戦車ガンヘッド。可変するこの巨大兵器について、設定から造形過程、実際の映像等、あらゆる方面から説明する

17 帝都大戦



表紙＝加藤保憲（嶋田久作）Ⓔ1989.10.1●加藤再び。加藤昌也が演じる霊能力青年・中村雄昂と激突する。本書では、原作者・荒俣宏インタビュー、俳優インタビュー&ショット、漫画版の紹介等、映画外縁部を特集

18 機動戦士ガンダムF91



ⒶガンダムF91Ⓓ橘田幸雄Ⓔ1991.5.1●ガンダム新シリーズの幕開けともいうべき作品。新しい世界観と、新生のメカを描き下ろして説明。詳細なフィルムストーリーで"読む映画"をめざした。設定資料集も特別仕様

19 劇場版 ふしぎの海のナディア



Ⓐナディア、ジャン&ファジーⒹ鈴木俊二Ⓔ1991.8.1●イメージボード、美術ボード、初期設定資料等、表には出ないワークを追求。スタッフインタビューにページをさいた。裏設定がおもしろいナディアでこその一冊

E 天と地と



Ⓐ戦国武将Ⓓ天野喜孝Ⓔ1990.6.23●海音寺潮五郎原作小説の映画化。映像美の誌上公開とともに、物語のクライマックス"川中島の合戦"を図でシミュレート。天野喜孝描く、華麗な「天と地と」イラストも一挙公開

火の鳥



Ⓐ火の鳥&我王ⒹさかいあきおⒺ1986.12.20●手塚治虫のコミック「火の鳥 鳳凰編」のアニメ化。安彦良和、天野喜孝、美樹本晴彦がイラストで"火の鳥"へオマージュを寄せている。毛利彰の描く「火の鳥」も収録

時空の旅人



Ⓐ早坂哲子(テコ)Ⓑ竹井正樹ⒸマッドハウスⒺ1987.1.10●眉村卓の小説から萩尾望都がキャラデザし、話題になったアニメ映画。モトサマのインタビューや、タイム・トラベル・ムービーの一覧と読みごたえあり

Ⓐ＝表紙キャラクター名（イラストタイトル）、Ⓑ＝原画、Ⓒ＝セルワーク、Ⓓ＝イラスト、Ⓔ＝発行年月日、E＝EXTRA

NEWTYPE GARDEN STORIES

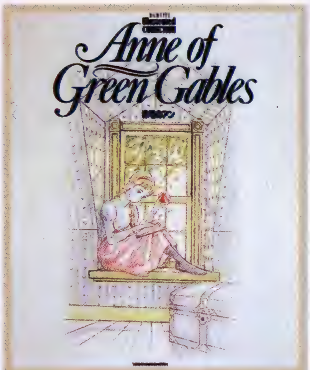
パフスのふしぎな生活



名倉靖博・著　Ⓐパフスⓓ名倉靖博Ⓔ1991.8.1●子供にも大人にも受け入れられる絵本をめざした第1集。キャベツから生まれた緑の不思議猫パフスの生活を、淡く落ち着いた色調でファンタジックに綴っていく

NEWTYPE Illustrated COLLECTION

赤毛のアン



Ⓐアン・シャーリーⓓ近藤喜文Ⓔ1992.3.25●名作アニメのムック第2弾。プリンス・エドワード島を実際に訪れ、取材した事実を交えつつ、フィルム、美術、原画等を展覧する。映像の質の高さをダイレクトに見せる

母をたずねて三千里



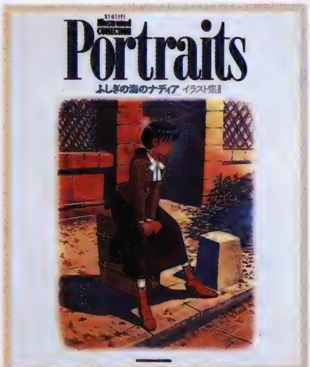
Ⓐマルコ、アメデオ＆フィオリーナⓓ小田部羊一Ⓔ1991.3.1●名作アニメのムック第1弾。物語に沿ってフィルムを紹介、美術ボードや原画、設定等、貴重な資料を大公開。高畑勲、小田部羊一、深沢一夫の声も読める

REX―四季



関修一・著　Ⓐレックス＆千恵ⓓ関修一Ⓔ1993.5.21●7月3日全国松竹系公開の映画「ＲＥＸ」の絵本化。名作アニメのキャラデザイナーが、現代に生まれた仔恐竜と少女千恵の交流を、北海道の四季を通し描く

ふしぎの海のナディア　イラスト集II



Ⓐナディアⓓ鶴巻和哉Ⓔ1992.7.10.●ＣＤやＬＤ全集からのイラストや三鷹市水道局のポスター等、番組周辺部の作品も網羅。スタッフが描くアートなナディアの世界も見ごたえたっぷり。イラストだけで魅せます

ふしぎの海のナディア　メモワール



Ⓐナディア＆キングⓓ鶴巻和哉Ⓔ1991.5.1●人気アニメの描き下ろしイラストを一挙収集。発売するや売り切れ続出に㊙呆然の愛の金字塔(!?)。大衆にバカウケしたガイナックス語録、スタッフ落書き原画付き♡

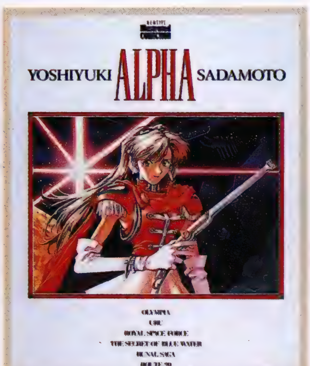
ET CETERA

虹のカプリチオ



土田勇・著　ⒶCAPRICCIOⓓ土田勇Ⓔ1990.1.1●月刊ニュータイプに連載した「虹の魔法使い」のイラストを修整し収録。色鉛筆で生み出された個性的なキャラクターと、歌のようなキャラ紹介文が魅力の絵本

貞本義行画集　アルファ

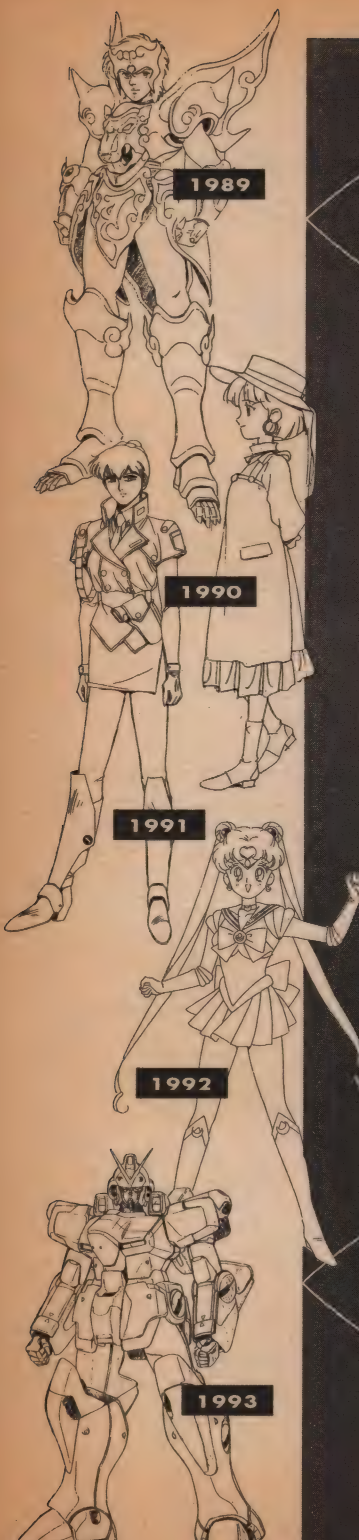


Ⓐオリンピアⓓ貞本義行Ⓔ1993.4.1●大判でキミを圧倒する／画集。「ナディア」の描き下ろしイラストを中心に、幻の企画「オリンピア」や、完成が待たれる「王立宇宙軍」の続編「蒼きウル」他、愛蔵したい作品を収める

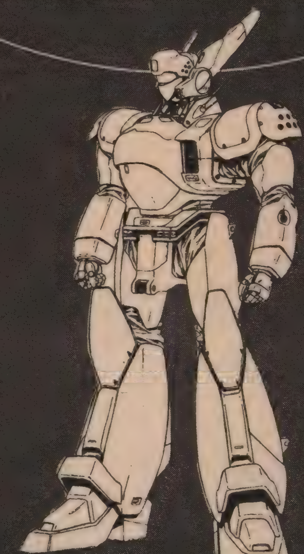
TINA 7DAYS DREAM



表紙＝具志堅ティナ　撮影＝島隆志(LEG ROOM)Ⓔ1991.8.1●「ぼくらの七日間戦争２」で映画デビューしたティナの初写真集。ハワイ撮り下ろしのエキサイティングなショットから、女の子の野性がチラッと覗く



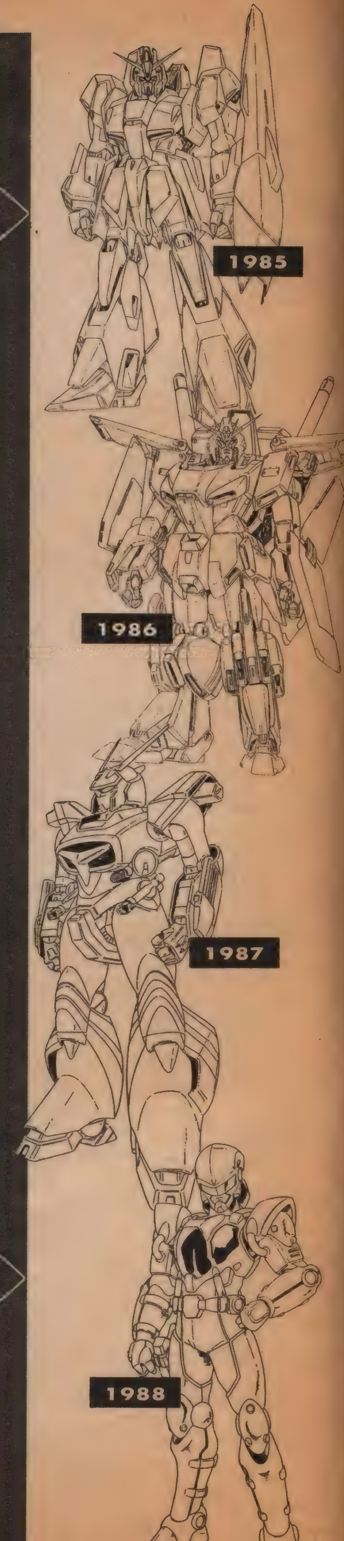
NT DATA
1985→1993



100号分のニュータイプの歴史がひと目でわかる〝作品別年間紹介ページランキング〟を中心に、連載陣、別冊付録におもしろ企画などを年度別に紹介するスペシャルデータ集。さあ、その年の顔となったアニメは何だ!?

NT TALK to TALK

ニュータイプ100号を記念してアニメ業界とその周辺で活躍するオピニオンリーダーのみなさんに特別におことばをいただきました。これからのニュータイプは？そしてアニメは？21世紀へ向けて発する9人のメッセージ集！



1985→1986

NT DATA from '85年4月号～'86年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 機動戦士Zガンダム ……………………90p
2 聖戦士ダンバイン ……………………14p
3 タッチ ……………………………………13p
4 とんがり帽子のメモル …………………12p
5 SPTレイズナー…………………………11p
6 うる星やつら ……………………………10p
7 超獣機神ダンクーガ ……………………9.5p
8 重戦機エルガイム ………………………9p
8 巨獣特捜ジャスピオン …………………9p
8 ペンギンズメモリー　幸福物語 …………9p

NT誌上の巻頭および巻中のカラーページで取り上げたアニメを、作品別に1年分の総ページ数を集計。さて、その年度を代表するアニメはいかに!?

富野監督を師匠のひとりと仰ぎ「ガンダム」支援マガジンの一面ももってスタートしたNT、「Z」「ダンバイン」が多いのはいわば当然。で、3位。NTが視聴率データを扱いだして初めて「サザエさん」を抜いたのが「タッチ」で、記憶違いでなければこれ以降は「ちびまる子」までなし。そのへんを反映してのランキング入りね。意外な感じの「メモル」は初代編集長の趣味か？　創刊2号でグレイスの下着姿が出てるんじゃフォウも納得だすね

◆連載コミック・小説

PINK CROWS星より愛をこめて
作・たかや健二（4～6月号㊚）
FOOL FOR THE CITY
作・永野護with FATIMA(4～3月号㊚)
Maharaja
作・橋本正枝（1～3月号）
ファウ・ファウ物語
文・富野由悠季／絵・藤井勉　大森英敏
（4～3月号）

みなさんはわずか3号、計6pで終わったこの「PINK」を覚えているだろうか？　NTだって創刊当時はいろいろ試行錯誤があって、そこから成長したんだよね

◆なんだこの企画!?

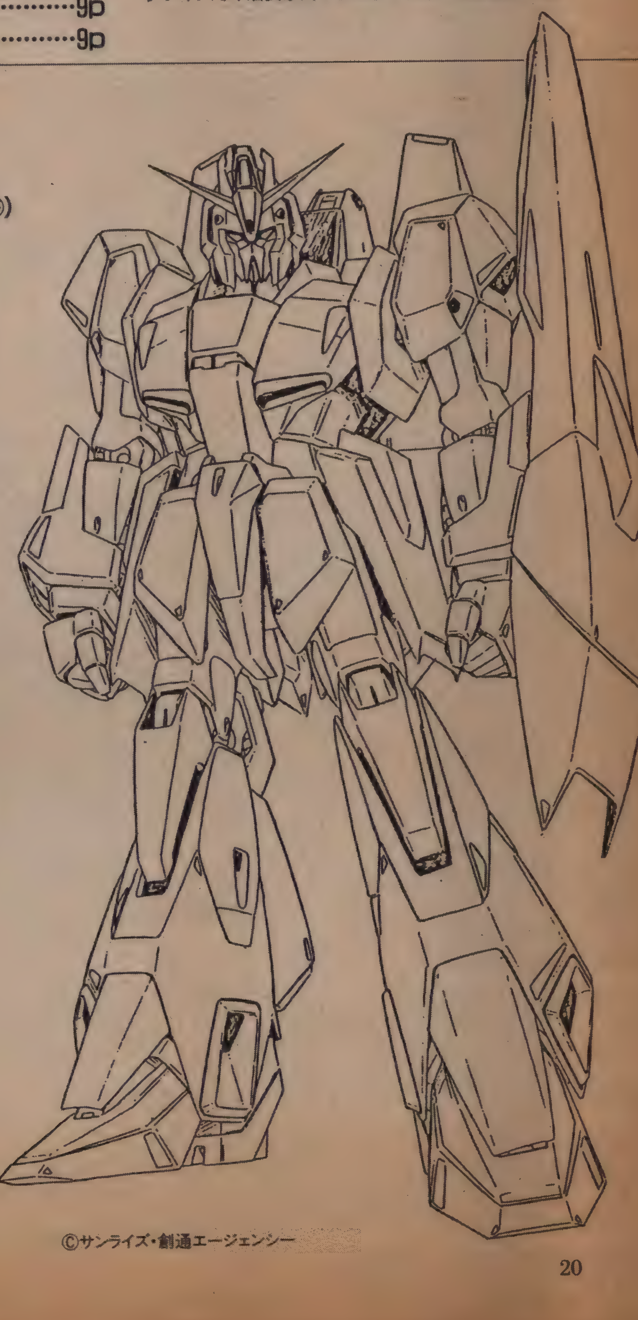
きらめきのキャラクターボイス
とびっきりの夏！

その1年間で取り上げた企画、特集の中から歴史に残る(!?)ものをpick up！さて昔はけっこう外出も多かったNT。きわめつけがこの女性CV5人の沖縄水着ロケ。なんだというより誰だこんなおいしい企画やったの？

◆別冊付録

カムイの剣（4月号・20p）
カレンダーノート'86
（ニュータイプ手帳・1月号・100p）

角川アニメのPRもNTの重要なお仕事。その第1弾が「カムイ」だった。本誌に原田知世の連載ページがあったのもNTならでは



富野由悠季

ふたたびTVアニメーションに挑戦。NT生みの親が語る現在と未来

今、アニメーションをつくっていて感じるのは、世の中が単純でなくなってきてしまった分、あらゆる面で難しくなってきてしまったなぁ、ということです。特に、今回久しぶりにTVアニメーションをやってみて、やはり難しいなぁ、と。

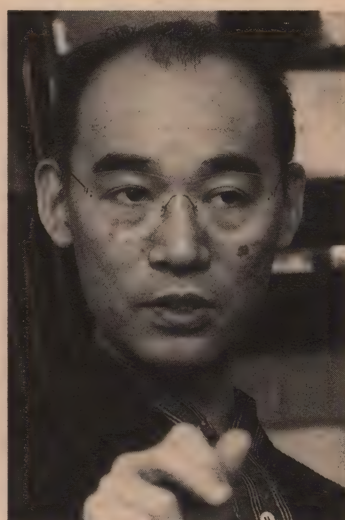
それはもう社会自体が単純でないからなんです。たとえばこれがもう何年か前だったら、ベルリンの壁の崩壊とか、民主化の波とか、社会全体が明るい方向に向かっていたので、ある程度方向性とかテーマなりをもって多少シリアスな作品をつくっても、それはそれなりに受け入れられたと思うんですが、今は混迷の時代に入ってしまっただけに、逆にアニメーションのような絵空事にも単純なお楽しみだけが求められるようになってしまった。複雑な状況とかシリアスなものは、もう現実だけで十分なんです。だからシリアスものはどうしても苦戦してしまう。

それでも「ガンダム」というしがらみがなければもう少し楽なのかもしれませんが……、やはり「ガンダム」である以上、もっと広くいえば、ロボットを少年なら少年なりが操縦して戦わねばならない作品である以上、どうしても捨てられない一線がある。そのあたりのしがらみがいちばんつらいですね。

それと別な問題として、僕も年齢的にペイ・ラインを意識せざるをえなくなってしまったということもあるんです。ところが、制作現場を支える人間の能力が10年前と今とでは明らかに違うんですよ。しかも、ただ単に仕事をこなせる能力が違うだけではなくて、志向性にしてからが違う。そのうえ、時の流れとして、どうしても人件費は高騰せざるをえないわけですし、かといって削減方法も見えてこない。

一時期真剣にCGの導入も考えたんですが、言い訳じゃないけど、やはりこういう仕事は年寄りにできるものではないな、と痛感させられただけでした。ただひとつ言えるのは、今向かっている方向とは全く違う方向性でCGを導入することを考えるべきなのではということです。つまり、あんな精密な画面をつくるのではなくて、もっとセル・アニメ寄りのCGをつくっていくべきなのではと。実際「美女と野獣」のCGはすごいんですが、あれは日本のアニメーションが求める画面とは全然違うものですよね。画面の密度はもっと落ちてもいいんですよ。それよりも、今日本のアニメ制作現場に必要なのは、もっとフレキシビリティーに富んだシステムなんです。たとえば、いろいろな場面のデータ・ベースがあって、それを呼び出して、さらにそれに加工を加えることで必要なシーンをつくることができるといった。

もし、そういうのができると、最低限、監督と作監、それに美監がいれば1本のアニメーションをつくることができるようになりますよね。ただそのためには、もっと制作現場とプログラマーの間のインターフェスが必要だと思うんですが、でも実際にはなかなかそこまでの余裕がない、というのが現実で……、いつかは、という気持ちはあるんですが。


久々のTVアニメーションの制作に多忙な毎日を送る富野監督。いろいろな意味でNTとのかかわりが最も深い富野監督の舌鋒は、時に鋭く、時に辛辣にアニメーション、アニメ制作現場、そしてNTの現状を貫いた

ただ、いろいろと難しい問題、つらい状況はあるかもしれませんが、少なくとも、今つくっている作品が長期的には必ず理解されるだろう、という思いはあります。確かに、たとえばこういうタイトルの本（NT）の読者に新しいコンセプトを提示しなければならない、というのは、単に難しいだけではなくて、常につきまとう不安や不信との戦いでもあるわけで、その意味で（混迷の）今の時代は本当に難しいですね。でも、だからこそ最後には自分のやっていることを信じて、そう、とにかく元気のあるフィルムをつくる、という一線を守っていきたいですね。

ところで、今月でNTも100号を迎えるということですが、お祝いのことばとともにひと言だけ苦言を呈させてもらえば、最近のNTはやはり志が低くなってきているのではないでしょうか。特に、創刊当時の〝何か新しいことをやってみよう〟という雰囲気から比べると、今はどうしても活力に欠けるきらいがあります。もちろん、アニメ・ブーム自体一種のピークにあった創刊時とは違って、今はジャンルそのものが陰りの時代に入っていて、一概に編集の方々を責めることもできないかもしれませんが、それにしても、状況は状況として、何かやらねば！という意識をもってもらわないと。たとえ状況が不透明でも〝とにかくやってみる〟という、そういう心構えが活力を生み出すんです。逆に〝受け〟だけを狙って、データの結果どおりに誌面をつくっていく、というのは、方法としてはいちばん楽なんですが、活力は失われてしまいます。

これは外野の意見といわれてしまいますが、受ける、受けない、というのはあくまで結果論であって、そんなことを考え出すと、それはもうとたんに守りになってしまう。でも僕らが期待するのは、そんな守りの雑誌ではなくて、編集者の心意気というか、顔の見えるような雑誌なんです。そういうページが、わずかでもいいから雑誌の中に欲しい。

ともすると、アニメ雑誌というのが単なる作品紹介に終わってしまう傾向にある中で、もっと独自の、広い視点でアニメを見つめてほしい。僕がNTに望むのはその点です。

1986→1987

NT DATA from '86年4月号~'87年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 機動戦士ガンダムZZ……………………86p
2 時の旅人 ……………………………27p
3 めぞん一刻 …………………………24p
4 マシンロボクロノスの大逆襲 …………21p
5 タッチ ………………………………20p
6 火の鳥 ………………………………17p
7 機甲戦記ドラグナー ……………………14p
8 ドラゴンボール…………………………8p
8 ウィンダリア……………………………8p
8 スケバン刑事II …………………………8p

「ZZ」が2位以下の3倍強と圧倒的。表紙がガンダムだと売れる、という説も定着したころか。「火の鳥」「時旅」はNT編集で単行本・ムックも出ました。「火の鳥」は予算があっても素材が少ない、「時旅」は素材はあっても予算が少ない、どちらもけっこう苦労したみたい。「スケバン」はII・南野だけでなく斉藤由貴のころから編集部でも人気の作品、みんなけっこう適度にミーハーでした。「レイズナー」打ち切りは誌上でもしばらく話題になったっす

◆連載コミック・小説

Maharaja
作・橋本正枝(4~3月号)
The Five Star Stories
作・永野護(4~3月号)
ファウ・ファウ物語
文・富野由悠季/絵・大森英敏
(4~12月号㊝)

藤井画伯の挿絵でスタート、大森氏に変更の「ファウ・ファウ」終了。アニメキャラ以外の絵も、ファウ・ファウが絵に出てこないというのも少し早すぎた?

◆なんだこの企画!?

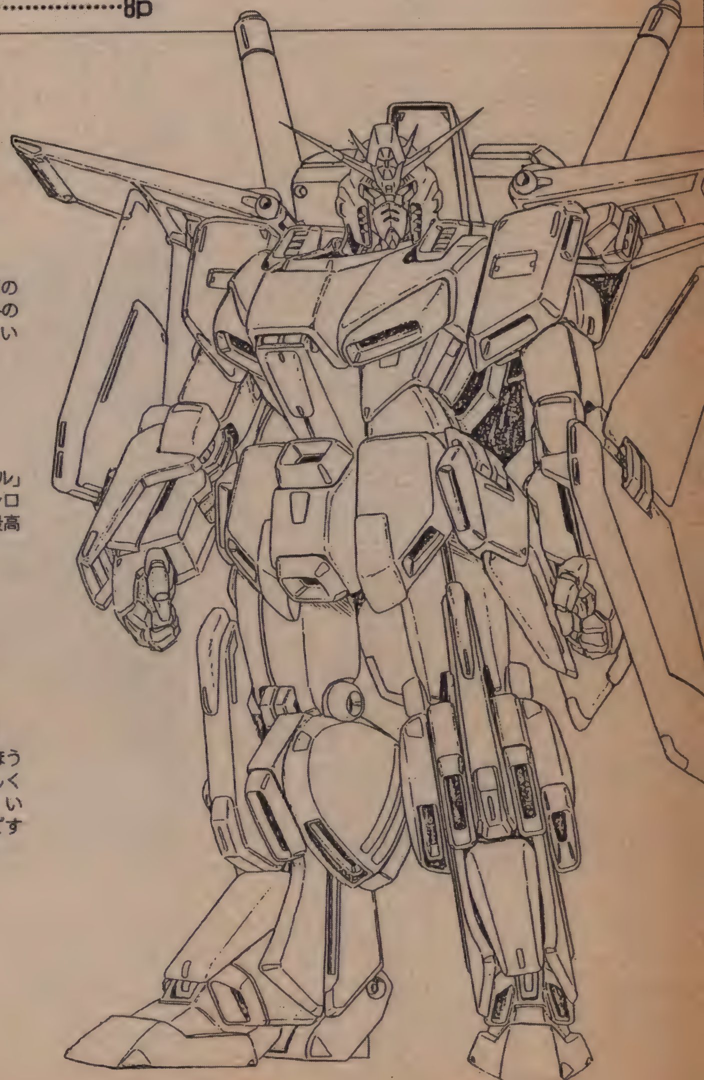
ANIME HEAD LINE
「めぞん一刻」ほか

「めぞん」魅惑のくちびる、「ドラゴンボール」パンパンの謎、と見出しに注目!「マシンロボ」の〝くりいむレモンと呼ばないで〟が最高

◆別冊付録

ガンダムZZ BOOK
(4月号・52p)
ファイブスター物語設定資料集
(9月号・36p)
1987カレンダーノート
(ニュータイプ手帳・1月号・100p)

伝説のF.S.S.付録……でも造りは「ZZ」のほうが豪華……まさかマモセンセ、これが悔しくてキャラクターズやらクロニクルやらを、いや、怖いから考えるのはやめよう(冗談ですってば……)。でもそれらの本の原点ダス

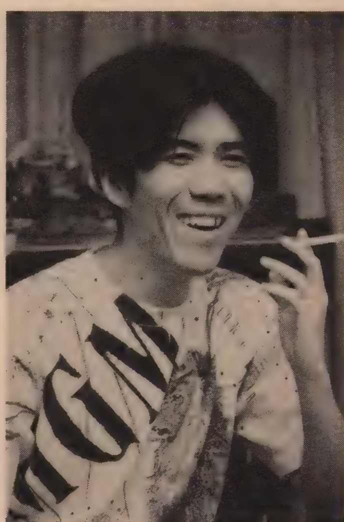


永野護

現状に甘んずることなく、時代の最先端を見つめつづけるクリエーター

最初のころのF.S.S.って、アニメ界への当てつけだったんですよ、どうだ、こんなの描けないだろ、動かせないだろ、こんなのスポンサードできないだろ、ザマーみやがれ、おもちゃにもできないだろこれはーとか、設定複雑で分かんねーだろ、へへーン、って、それで始まったから、F.S.S.の最初の1年間って、イヤミ以外の何ものでもなかったんですよね。それをイヤミに受け取ったかどうかは別で。もちろん描きたいっていうのはあった、でも、それは自分の創作的な欲望で、実際にK・O・G描く作業って苦痛ですよね、苦痛に耐えてF.S.S.描いたパワーっていうのは実は70%ぐらいてめえらバカヤロウですから。ところが今、F.S.S.って一定以上の人気もって、しいていえば、大台に乗った安定感があるから、今度は逆に苦しむっていう、自分との闘いになりますよね。ガレージキットも文句つけようがないところまで行って、一定以上の水準になったから、みんな手慣れて作っちゃうじゃないですか、やっぱり試行錯誤してこうでもないああでもないってやったのがいちばん味がありますよね。ヤクト・ミラージュをそこで出したのは、そういう感じで作られるのもそろそろヤダなっていう。ヤクト・ミラージュって作れないレベルじゃないけど、苦労が多いなーっていう、そういうところから出したわけです。

　5年、10年たってからの反響を想定してるって、すごいキザな言い方なんだけども、5年、10年たって、初めてF.S.S.を見てくれた人たち、そういう人たちを念頭に、ああこの時代こういうことやってたの、この時代ここまでやってた、試行してたかって、そういうふうに見られたいと思って描いているのは確かです。今のファンの子はとりあえず見てワァでいいんだけど、10年後くらい、もっともっとテクノロジーが進んでMHとか時代遅れになった時代でも、評価を受けたいわけじゃないけども、そういうふうにしていきたいって。描いてて、やっぱ10年ぐらいしたら時代遅れになるっていうのは見えてくるわけですよ、飽きられる以前に。だから話でちょっとわかんないところとか出たら多分永野はそういうとこ狙ってんじゃないかなと、そう考えてもらっていいと思います。



ＮＴが創刊されたとき「Ｚガンダム」とともに核となったアニメ「エルガイム」。そしてその「エルガイム」で一躍注目を集めたメカ・デザイナー、永野護。しかし、そんな彼が見つめていたのはアニメを超えた世界だった！

　ロボットの復権？　アニメで？　このデザイナーが7年間遊ばされてるわけじゃない、未来あんのかな。なんで永野護って「エルガイム」以降テレビアニメのメカつくってないんだっていわれるところがすでに問題じゃないかという気もする。ただ、正直いって、いい条件でデザインの話がきても二の足踏むだろうっていう、その現状があるよね。今やってもだめかなあって。あえてロボットを持ち上げるんじゃなくキャラクターとしてうまく潜伏してれば、またニーズは出てくると思う。なんだかんだいってもね、この世にないでっかいロボットって人間の永遠の憧れみたいなものだから。メカも袋小路だよね。いってしまえばボクが出て以来誰も出てないじゃない、はっきりもう、ぶっちゃけていってしまえば。ボク以前のメカを、切ったり貼ったりしているだけ。もう変形とか合体って過去のもんだしさ。新しいの出てきたら、さあ、全力で潰そうって、そういう楽しみはないよね。それくらいスゴイのが出てこないのは、とってもよくない。メカ以前のレベルでボクが出た後の次のブームは、実はDQ、FFだったりするわけじゃん。結局みんなそっちに行ったんだよね、だからメカって今そこで止まってるんだよ。ボクが実際にアニメ関係でやっている仕事もCG関係ばっかだもんね。まだボツよくくらってるけど。今CGの仕事は受けられるだけ受けてトライしてる。幼児向け番組のお仕事、実験作であろうと。すげー簡単な物体なのよ、ホントに真四角なものがコロコロ動くだけって、そういうレベルなんだけど、やっぱ新鮮だし面白い。といっても1000ポリゴンを超えているけど。昔漠然と考えてたCGが、とりあえず今K・O・G動かせるっていうレベルまできたっていう。だから趣味で動かしてみようかって。計算に250日ぐらいかかるかもしんない、3万6000ポリゴンかかるっていわれて、要するに3万6000以上の面をもってることなのね、それなんとか動くんでねぇかってレベルまできたから、これはそろそろ近いかなって思ってる、ただ、お金いくらかかるかわかんない。

　アニメーションってマンガとは別モンだから、マンガと同じことをやっても全く意味がないから、だからF.S.S.の次の劇場版ってもしかしたらみんなの考えているのとは全然違うキャラクターになっちゃうおそれもある。ヘタすっと30年後ぐらいに全く新しいその時代の感覚でF.S.S.を映像化、ストーリーだけをもってきて映像化ってあるかもしれない。この時代の作家連中って絶えずそういうことを考えてないと。今あるもので作る、今ある手持ちのもので実験じゃなくて、なんとか可能性を、次はもっといいものをって、そういうスタンスで臨みたいなっていう気はしますよね。

　いつまでこんなエラソなこと、言ってられるかわかんないけどね。

1987→1988

NT DATA from '87年4月号～'88年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 機甲戦記ドラグナー ……………………70p
2 機動戦士ガンダム　逆襲のシャア ……52p
3 赤い光弾ジリオン ……………………22p
3 マシンロボクロノスの大逆襲
(レイナ) ……………………………………22p
5 聖闘士星矢 ……………………………20p
6 めぞん一刻 ……………………………19p
7 機動戦士ガンダムZZ……………………14p
8 ファイブスター物語 …………………10p
9 うる星やつら ……………………………8p
9 オネアミスの翼 …………………………8p

ガンダム作品以外初の1位となった「ドラグナー」。毎回の描き下ろしセル、そのクオリティーの高さ、放送のない地域の子たちは「ドラグナー」ってとてつもないアニメだと思ってたに違いない。ちょっと罪つくり、とゆー噂も一部には。5位「聖闘士星矢」もデータ的にすごい作品。裏番組に何がきても不動、アニメ界御三家の一角「まんが日本～」の視聴率が下がりはじめたのはこの作品からだと思う。さすが車田正美、さすが美形キャラ

◆連載コミック・小説

Maharaja
作・橋本正枝(4～12月号)
The Five Star Stories
作・永野護(4～3月号)
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦(1～3月号)
ガイア・ギア
文・富野由悠季／絵・北爪宏幸
佐山善則　伊東守(4～3月号)

「ガイア・ギア」スタートと連携したGUNDAM SAGAは圧巻のNT真骨頂特集。SAGA 2、3と続く人気企画になった

◆なんだこの企画!?

新人類的友情講座、
超新人類的恋愛講座

タイトルも「モテモテお友だちマニュアル」に「恋人づくりマニュアル」。物議はかもしたけれど、その後彼らはカルトを築いた!?

◆別冊付録

NEWTYPE コミック春♡体験号
(4月号・134p)
1988カレンダーノート
(ニュータイプ手帳・1月号・100p)
1988イラストレーションカレンダー
(1月号・16p)

コミックGENKi・GENKiの素の原点、タイトルがまたまた～の「春♡体験号」、先生方のコメント・編集後記がふるってマス。本誌やりながらの別冊付録、㊊氏、㊍嬢、㊋嬢のパワーがすごい。アレ、同時進行のカレンダー、手帳も同じスタッフか？　スゴッ!!



水野良

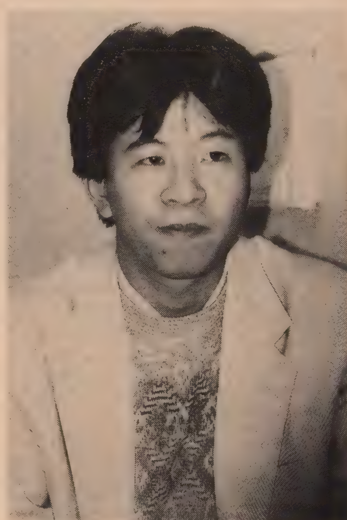
「ロードス島戦記」がいよいよ全7巻で完結し、今は次回作の構想中

まず僕自身の現状からお話しますと、今は「ロードス島戦記」が第7巻で完結し、次回作の「新ロードス島戦記」に向けて構想を練っている、といったところです。もっとも「新――」とはいっても、これは別に「ロードス」の続編というわけではなくて、時代としてはむしろ逆に30〜40年ほど前にさかのぼった〝英雄戦争〟の物語なんです。英雄王ファーンや暗黒皇帝ベルドといったおなじみのキャラの若かりし頃を書いてゆくわけですが、主人公はフラウスという名の女性の神官戦士になります。細かい内容等は今はまだ何も言えませんが、とにかくこれまでとはまた違う新しいロードスの世界を提示していくつもりです。特にこの〝英雄戦争〟に関しては「㊙スーパーファミコン」誌上で山田章博さんがすごい漫画を連載されているので、そういった意味でも、小説のほうではまた別の展開をやってみたいですね。

オリジナルの「ロードス島戦記」に関しては、今、新OVAシリーズの企画が動き出したところです。原作はシリーズ第2巻の「炎の魔神」で、全6巻ぐらいの構成でOVA化していく予定です。この第2巻はどちらかというと、シリーズの中でも番外編的な物語なんですが、不思議とストーリー、キャラクターともに読者には人気があるようで、今回のOVA化はそういった声にこたえるといった意味もあるんです。それに、この物語は一応1巻だけで独立した形になっていますので、でき得るなら、小説の世界をそのまま描きながらなおかつアニメを見ただけでも分かってもらえるような作品にしてみたい、という思いもあります。幸い、今回はシリーズ構成にゆとりがあるので、世界観も含めて、細かいところまできちんと描き込んでいきたい、と考えています。

僕は一昔前のアニメ・ファンなんですが、今のアニメーションの状況って、あまり活気が感じられないように思えるのですが、実際のところどうなんでしょうね。僕が年をとったので、そう思うのかもしれませんね。僕なんか劇場公開の初日とか、徹夜で映画館に並んだものだけど、今のアニメ・ファンはこんなことしているのかな？ やったからって、別に偉いわけじゃないんですけどね。でも、仲間たちとアニメ話で盛りあがって、本当に楽しかったな。

僕がファンだったころのアニメーションでは、独自の架空世界をつくることが必須の条件だったように思います。「ヤマト」しかり、「ダンバイン」しかり、「ガンダム」しかりね。僕たちは、その架空世界にあこがれを抱いて、作品にのめりこんでいったんです。



小説家、ゲームデザイナーとして多方面にわたって活躍を続ける水野良。代表作「ロードス島戦記」は先頃全7巻で完結したが、「ザ・スニーカー」(角川書店) にディードリット主役の外伝を掲載するなどまだまだ動きは盛ん

最近は〝2〟ものや、リバイバルものが多くて、もう少しオリジナリティのある作品が出てほしいな、と思います。

新しいものをつくりだしてゆくパワーを期待したいんですよ。〝まだ誰もつくっていないものをつくる〟って意欲ですね。

偉そうに言いましたが、僕自身、オリジナリティのある作品を書いてゆかねば、と自戒しています。僕なんかより若い人で、すごい作品を書く小説家がいっぱいいますから。本当に、うかうかしてられませんよ。

今は、ファンタジーを中心に書いていますが、これからは、もっと違うジャンル、たとえば、歴史小説とか時代小説にもチャレンジしてみたいですね。最近は、その関係の本を読んで、少しずつ勉強しているんです。でもこういったジャンルには、それこそ膨大な知識の蓄積が必要ですから、その一朝一夕には……、やっぱりこれは最後の目標です。

そこで考えているのが、戦国時代の雰囲気を残したファンタジーです。世界そのものはあくまで架空のもので、そこに戦国時代の要素を持ち込む。そういった小説を実験的に書いてみたいと思っているんです。

きっとこれはおもしろいと思いますよ。たとえば「三国志」をモデルにした小説なんかそうですが、英雄を描くにしても、それこそ架空ならばこそ生きるキャラクターというのもあるでしょうし、架空の戦国史をつくるといったおもしろさもある。一方で、お城の構造とか戦法等、凝るところはきちんと凝ったりして……。小説ももちろんそうですが、こういったものはアニメにしてもおもしろいんじゃないでしょうか。

話が小説のほうにばかり行ってしまいましたが、僕自身はやはり根本的にはゲームの人間だと思っていますから、ゲームのほうでもどんどんいろいろなことをやってみたいですねぇ。特にこの2つは、小説というジャンルが長い歴史の中でそれなりの形式が形づくられていて、何か表現するにしても、その中で極めてゆかなければならないのに対し、ゲームはまだまだ歴史も浅く比較的束縛を受けない。というように全く性質を異にしているわけで、そういった両極端をやれるというのは、クリエーターとしては本当に楽しいし、やりがいもあるんですよ。

やはり、世界を広くもつ、というのは大切なことだと思います。自分の好きなジャンル以外にも、もっと目を向けてほしい。確かに、好きな世界にのめり込むのは自然な行為かもしれませんが、ほかの世界を知ることで、好きな世界がいっそう見えてくることもあるんですから。

1988→1989

NT DATA from '88年4月号〜'89年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 超音戦士ボーグマン……47p
2 ファイブスター物語……44p
3 宇宙皇子……34p
4 逆襲のシャア……28p
5 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争……16p
6 花のあすか組！……9p
7 剣狼伝説レイナⅠ・Ⅱ……8p
7 機動警察パトレイバー……8p
7 鉄拳チンミ……8p
7 気まぐれオレンジ★ロード……8p

TVシリーズが2年連続1位、ビデオでも劇場作品でもなく、しかも角川アニメ「ファイブスター」「宇宙皇子」を抑えてというのが大きなポイント。読者から寄せられるはがきに答えての対話形式のページづくりが、わずかでも「ボーグマン」を盛り上げる一因になっていたとすれば、それは編集者冥利につきるというもんでしょう。劇場情報があるとはいえ休載がやたら多かったこの時期、復活を信じて待ちつづけた「F.S.S.」読者もエライ！

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護（4・9〜11月号）
Maharaja
作・橋本正枝（6月号）
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦（4〜3月号）
シルクロード戦記 DARK ANGEL
作・麻宮騎亜（7・8月号）
B型同盟
作・高河ゆん（12・1・3月号）
怪傑！MARI頭巾
作・いのまたむつみ（2月号）
ガイア・ギア
文・富野由悠季　絵・北爪宏幸　伊東守
（4〜3月号）

「F.S.S.」休載を受けて、人気作家続々登場。まさに禍福如糾纏、違った転禍為福、なんのこっちゃ!?

◆なんだこの企画!?

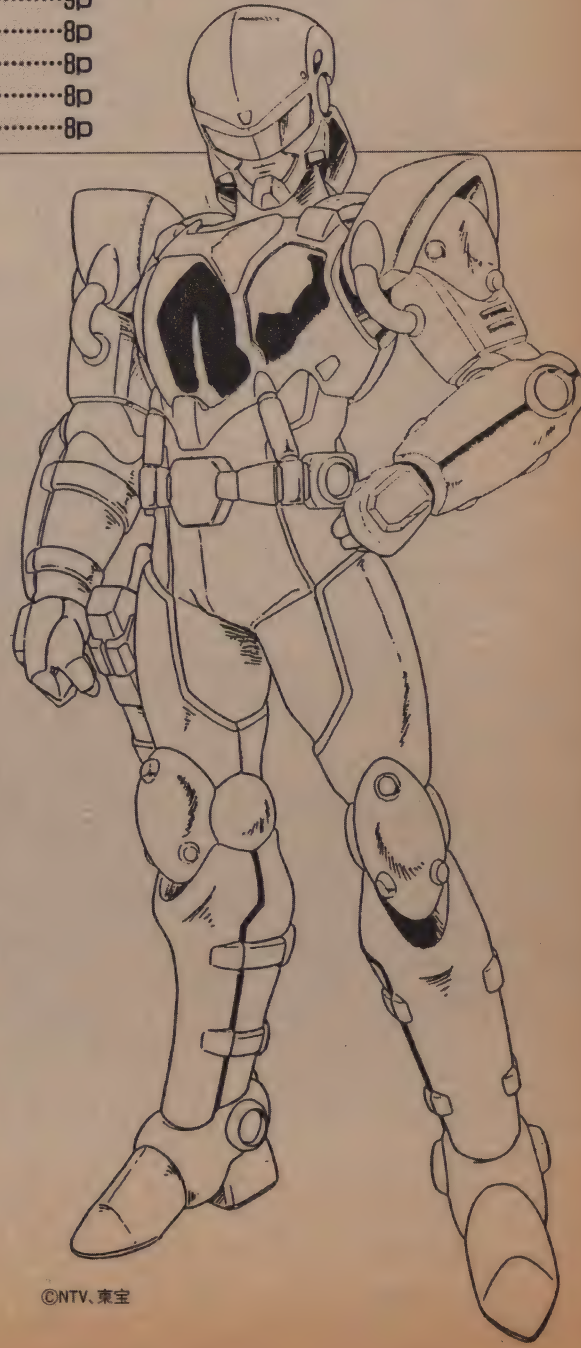
先手必勝!!お友だち講座

昨年に引き続いての井上2代目編集長パワー爆裂企画って感じですか？　でもこの後、この手の企画少なくなってちょっちさびしい

◆別冊付録

コミックGENKi（4月号・132p）
パトレイバー&マシンロボ・コミック（5月号・84p）
コミックGENKi（8月号・132p）
コミックGENKi（11月号・132p）
コミックGENKi（1月号・132p）
1989イラストレーションカレンダー（1月号・16p）

GENKi は初代編集長お気に入りのことば、編集後記とかにしょっちゅう出てたと思うゾ。で、コミック付録第2弾の表紙は、当時原稿が取れないと半ば伝説化してたあの江ロセンちゃんだったりする……!!



高畑勲

今のこの日本という生きた世界の中に息づく物語をアニメーションに

自分の仕事と時代との関わり等について聞かれても、実のところよく分かりません。もちろん、現に時代の流れの中で生きている以上、その影響を受けるのは当然ですし、まず企画が「いま」抜きには成り立たないでしょう。

でも、だからといって、いつも時代の要求や好みに合わせて作品作りをしているつもりはありません。

むしろ、自分の気持ちから離れたところで無理してしまったりしないように、出来るだけ素直にやっているつもりなんです。

このところ日本のものばかりですね。何故ですか、とよく聞かれたりしますが、これも日本のものの方が素直にできるからなんです。若い時のような、外国、特に西洋への憧れも、無国籍的脱出願望も自分の中にないんですね。外国へ行けば、自分が日本人であるということをいやというほど意識させられますし、外国の生活や文化を描こうとすれば、自信のなさというか、居心地の悪さを感じてしまうにきまっているんです。だから、できるならば日本を舞台にしたいと思いますが、ありがたいことに幸運やいろんな人のおかげで、いまのところなんとかその方針でやれています。

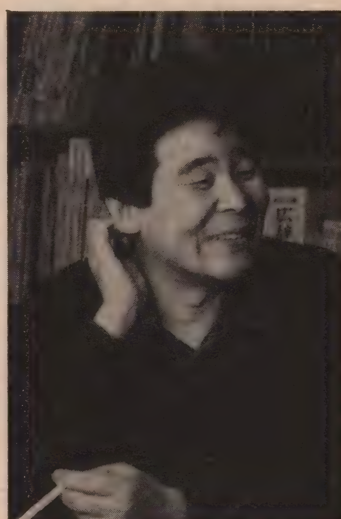
いまジブリでやらせてもらっている作品も、現代の日本のタヌキの話です。

ぼくらの世代はたぶんいまの若者より欧米かぶれでしょう。親の世代は敗戦で自信を失い、ぼくらは何かというと「あちらでは」と聞かされて育ったんです。日本文化や伝統もほとんど習いませんでした。その中にある素晴らしさも教えられなかったんです。自分たちの体の中に受け継がれてきたはずのものを意識し、きちんと認識しなおすことも国際化とおなじくらい大切じゃないかと思うけれど、ぼく自身、実際は日本のことを何も知らないし何も分かっていない。

実写の映画の人にとっては、例外を除けば日本を舞台にして、日本人を登場させ、日本国内の題材でやるのがあたりまえです。ところがアニメーションは、ファンタジー性がその特質であるために、このあたりがじつにいいかげんなままやってきたんです。

そんなこともあって、自分も日本のことを学びながら、少しずつでも日本のものをやりたいと。

もちろん、これまでたくさん学んできたように、西洋にも、他の国々にも学ばなくてはならないことはいまも山ほどあります。感心すること、羨ましいこと、比べてこちらが恥ずかしいことがいっぱいあります。でも、だからこちらがあちらへ精神的に身を移して、気ままな憧れに身をゆだねるんじゃなくて、その素晴らしいところをなんとかこちらも取り込めないかと、現実的に考えなきゃならないと思うんですね。自国の文化遺産や伝統についてもそれは同じことです。



現在次回作の制作に多忙な毎日を送る高畑監督。「セロ弾きのゴーシュ」「じゃリン子チエ」「火垂るの墓」「おもひでぽろぽろ」それに先頃LD・VCが発売された「柳川堀割物語」に続いて今回も日本を舞台の作品になるとのこと

アイヌ民族の「ユーカラ」をアニメーション化したいというのも、ただ文学的に高いからというだけでなく、いまぼくらの学ぶべき英知がそこにはっきりあって、呪術的な感受性を失ったぼくらをも直接納得させ感動させてくれる力があると思うからです。

たくさん作りたいのではなくて、本質的なユーカラをひとつかふたつ。ぼくはアイヌではないからさっきの話と矛盾しているようですが、アイヌ民族は日本人を構成する一民族ですから、諸外国よりなにより、第一番にその素晴らしい遺産を日本人の共有財産にしなければならないはずだと思うんです。

「ユーカラ」というのはすごいらしい、なんて知識を持っている人も、ほとんど読んでない。ほんとうに「すごい」とその人たちに言わせたいですね。

アニメーションのこれからは、なんて質問に答えられるわけがないでしょう。ただ、ひとつ言えることはこのアニメーションという表現形式はじつに幅の広い、無限の可能性を秘めたジャンルだということです。行き詰まりとか、限界とかがあるはずがない。世界中でこれまでやってきたものは、どんなに素晴らしいものでも、その可能性のほんの一部にすぎない。

もっと現実的な日本のアニメーションの現実と近い将来については、かえって難しくて分かりません。

才能と気力と体力のある人たちが出てきて、つよい仲間意識で結ばれれば、かならずその人たちを生かして面白い作品を世に出していく力や人もまた現われるのではないでしょうか。そう信じたいですし、そう信じるしかないですね。

ただ、年をとったせいか、自分のまわりで仕事をしている力量のある人たちの生活ベースがもっとゆとりのあるものになれば、とそのことが気にかかります。自分はそういう人たちに支えられて作品作りをして、終わればかなり休んだり、学んだりいろんなことに好奇心を燃やせるのに、描く人たちは次々と仕事仕事仕事。新しい発想のための精神的ゆとりや学習のための時間が少なすぎるし、気持ちもそちらへ向かいにくくなる。

申し訳ない気がするんです。なんとかならないでしょうかねえ。

1989→1990

NT DATA from '89年4月号～'90年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1	天空戦記シュラト	43p
2	機動警察パトレイバー	40p
3	獣神ライガー	26p
4	らんま1/2	24p
5	ガンヘッド	20p
6	ファイブスター物語	16p
7	機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争	12p
8	ロードス島戦記	8p
8	シティーハンター	8p
10	サイレントメビウス	6p

新番情報で「インド哲学アニメ？　何それ？」って言ってた作品がこれだもの、アニメは、いや映像作品は見なきゃわからんと。3年間で羽原、菊池、奥田と、キャラの魅力も作品を引っ張る大きな力、それをあらためて実感という感じダスな。「パトレイバー」はマンガ連載・ビデオからTV、劇場版へと大ヒットアニメの道を着々と歩んでついに2位に躍進。この年度はけっこうガンダム色の薄れた時期かもしれない

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護(10～3月号)
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦(4・5・7～9・2・3月号)
B型同盟
作・高河ゆん(4・5月号)
ガンヘッド
作・麻宮騎亜(4～8月号㊑)
エンジェル・コップ
作・北崎拓(6～9月号㊑)
妖刀伝
作・大貫健一(9～3月号)
ガイア・ギア
文・富野由悠季／絵・北爪宏幸　伊東守
(4～3月号)

半年以上待たせていきなリオッサン登場かよオイ、の10月号。美樹本先生の乱調は先の先生の病気がうつった、わけではないっすよね？

◆なんだこの企画!?

AUTUMN FEELINGS

アニメキャラによる誌上ファッションショー。他誌でやったら多分変なだけだと思うけど、けっこううまくまとめてるっすね

◆別冊付録

コミックGENKi(4月号・132p)
手塚治虫メモリアルBOOK(5月号・44p)
コミックGENKi(8月号・132p)
コミックGENKiの素(11月号・132p)
1990カレンダーノート
(ニュータイプ手帳・1月号・100p)
1990イラストレーションカレンダー(1月号・16p)
マハラジャSPECIAL BOOK(2月号・36p)

NT創刊前に手塚先生がおっしゃったそうです。科学万博のように大きな催しがあるときは、その前後で時代がガラリと変わる、創刊は筑波博の後にしてはと――先生の予想は一部外れ、NTは快進撃を始める――それからわずか4年、NTはもうひとりの師匠を失ったわけです。この年GENKi待望の独立、付録のGENKiはGENKiの素に



天野喜孝

みずからの思いのままに物語を、世界を追求する異色のイラストレーター

他の人が考えたこと、誰か人からアニメの仕事を頼まれてというより、やるんだったら自分でやりたいものを見つけたいですね。もちろんスポンサーなり、第三者がいなけりゃ駄目ですけど。自分で何か出てくるものっていうのかなぁ、たとえばイラストを動かしたり、コンピューターもどんどん進んできたでしょ、自分が描いた、自分で納得した絵が100％そのまま動いたりとか、そういうことが可能になってくるかもわからないじゃないですか。

もともとディズニーが好きで、ずーっと憧れてて、それでアニメの世界に入ったんですから、だからアニメに対する思いはすっごいあります。「美女と野獣」とか見ちゃうと、ああ、やっぱりアニメっていいなと思うんですよ。

でも今の日本のシステムでやるのはすごく難しいでしょうね。宮崎さんのとこぐらいじゃないでしょうか、ほんとにオリジナルでできるっていうのは。何かつくりたいっていう前に、システムからつくっていかないと難しいのかなって、そういう気がして。その力は僕にはないから。とりあえず今自分でできる範囲っていうか、それをやるしかないのかなっていう。その範囲がアニメーションなんかもいっしょに含まれればそれが自分で把握できて責任取れる範囲だったらやりますけど。今はとてもそこまでの許容量はないですしね。

ファンタジー系って描きやすいし、描いててそれなりに楽しい。イメージも広がるんですけど、何か違うこと、違う世界をやってみたいっていう、絵を描くことには違いないんですけど、どうせ描くんだったら違うことをやってみたいなって。それが描けるかどうかって描いてみなきゃわかんないとこあるんですけど、それがいいんですよね。大丈夫かな、描けるかなっていう不安感みたいなものが。その緊張感みたいなもののある仕事ってそそられますね。慣れて描けちゃう世界ってあるじゃないですか、それはある程度は大事なんですけど、けっこう怖いことかもしれない。

みんなそれぞれ自分の好みの絵を描けばいいと思うんですよ。基本的に絵を描く人って、ひとりひとり自分のいちばんいいイメージがあってそれを追求してると思うんですよね。それが誰かのマネだったり、途上ではそういうことはあっても、マネで満足できなくなるから、自分のカラーみたいなものが出てくる、そういうときが勝負だと思うし。だからそういうものが出てる人に関してはもう何も言えないですよね。マネするときはどんどんマネしていいと思うしね。僕もそうでしたから。いろんなうまい人がいて、あぁいいなと思って、じゃあ描いてみようかって繰り返してやってきましたから。そういう意味でいろんな素晴らしい人がいっぱいいたし。けれどそれはやってくうちにもういいかなってだんだん取り払われてきて、そぎ落とされてくると思うんですよ。だから影響を受ける人も今はないですね。



ファイナル・ファンタジーを代表とするファンタジー・イラストをはじめ、常に独自の世界を追求しつづける天野喜孝。この8月には、氏のイラストをもとにつくられたステンド・グラスを飾る妖精美術館もオープン予定

仕事は西欧が多いけど、別にシルクロードのほうも好きだし、日本もなんとなく否定できないものがありますよね。どんなものに影響されても最終的には日本になっちゃうのかなっていう。ブレンドしたみたいなね。日本ていうのは意識しなくても出てきちゃうんですよね、きっと。たとえばアフリカで育った人は原色っぽい色彩になっちゃうと思うんですよ。ちょっと極端ですけど。そういう感じで、日本で育って、環境も、今の情報も全部含まれて、それで最終的に日本になると思うんですよ。だから特に意識はしてないと思うんですけど。むしろ離れたいみたいなところがあるんで、で、離れてどこ行くんだっていってももっと深いところに日本が出ちゃうような気がするし。ただ好きですね、いいなって思いますよね、淡い色彩とか。

結局ファンタジーって追求してっちゃうと神話になるじゃないですか。だったらそのもともとの神話を描いたほうがてっとり早いんじゃないかなっていうのはありますよね。世界のいろんな神話、ギリシャとかケルトとかそういったものをボクなりに描いたら面白いかなっていうのは何年か前からあったんですけど、多分それはおいおい時期がくれば描いていくような気がしますね。

最近ね、ロマンチックな絵とか、もちろんギリシャ神話とかでもそういうのがありますけど、やっぱり人間のお話だと思うし、やっぱり男と女だし。そういう部分、なんかロマンチックな部分っていうのを描きたいなって思ったりするんですよ。それがギリシャ神話の中でも何でもいいんですけどね。男と女のロマンチックな部分、激しかったりソフトだったり。そういうボヤーッとしたものを絵で具体化してみたいな。たとえばムンクなんかでも初期の思春期だとか、何かこう抱き合ってる、ああいうのがいいなぁと思うんですよ。技術的にどうのこうのいうより感情がパッと出てくるような絵が描けたらいいなって。テーマとかっていうよりも、まあ、それがテーマっていえばテーマなんですけど。神話っていうのもロマンチックっていうか、もっと個人的なところで描いてみたいなっていう、まあ、それは何でもいいんですけど、どんなお話の中にあっても。

1990→1991

NT DATA from '90年4月号～'91年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1	ふしぎの海のナディア	52p
2	機動戦士ガンダムF91	38p
3	機動警察パトレイバー	32p
4	らんま1/2	18p
5	ロードス島戦記	15p
6	サイレントメビウス	6p
6	THE八犬伝	6p
6	ちびまる子ちゃん	6p
6	ウルトラマングレート	6p
10	老人Z	5p

順位・作品のページ配分ともにとてもバランスのとれた年度。例えば各年度のランキング、ページ数で1冊のNTがあって1冊だけ選べって言われたら、記者は迷わずこの年度を買います。「ナディア」大特集、続く「F91」「パトレイバー」特集、「らんま」に加え角川のページもカッチリ、NTの人気とはあまり関係ないけど、大ヒット「まるちゃん」もちゃんと、さらに「F.S.S.」「DARK ANGEL」「マリオネット」の連載、どうダス、買うっしょ？

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護(4～6・10～3月号)
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦(4～3月号)
妖刀伝
作・大貫健一(4～9月号㊙)
聖獣伝承 DARK ANGEL
作・麻宮騎亜(9～3月号)
ガイア・ギア
文・富野由悠季／絵・北爪宏幸　伊東守
(4～9・11～3月号)

1年間しっかりと連載を果たした先生、夏場は香港行ったりと遊びまくった(ウソウソ)先生、ずらりと見るとけっこう楽しい。けど連載陣にお休みや休暇があるという本誌はやっぱりニュータイプ？

◆なんだこの企画!?

黒い魔神グリフォン

変な企画とゆーよりおもしろ企画ダス。特に「パトレイバー」実写でやるとしたらのコーナーが◎。原作者も制作スタッフも読者も編集も一緒になって遊んでます。

◆別冊付録

コミックGENKiの素(4月号・132p)
PARTY SONG BOOK(5月号・36p)
コミックGENKiの素(8月号・132p)
コミックGENKiの素(11月号・132p)
1991カレンダーノート
(ニュータイプ手帳・1月号・100p)
1991イラストレーションカレンダー
(1月号・16p)

「おどるポンポコリン」の大ヒットもあってかNT初のソングブック登場。カラオケボックスの中にはアニメ専門店・専門ルームまで出たもんね。ここは一発、アトムから劇場、ビデオまで全曲網羅した一冊を……カラオケがなけりゃ意味がないか……



ゆうきまさみ

状況はままならないが、それでもまだ思わぬ作品を作れるアニメに期待

100号ですかぁ、もうそんなになるんですねぇ。僕は創刊当時から関わっていたんですが、「はてしない物語」は88回目か、ありゃ！ずいぶん休んでるな。まとめると1年分も休んでる。こーゆーことじゃいけませんね。

でも、実を言うとこんなに続くとは思ってませんでした。ちょうどNTが創刊された当時は、アニメ誌全体がパワーダウンしていた時期で、実際NTが出てから廃刊した雑誌もあったわけですから。

それはまぁ、雑誌ばかりでなく、アニメそのものについても言えますよね。僕なんかが見ると、いわゆるアニメブームのピークは劇場版「銀河鉄道999」の第1作目が公開された頃なんです。この年は劇場作品ばかりでなく、TVの方でも「機動戦士ガンダム」や「赤毛のアン」など、今も語り草になる作品がいくつもありましたし、「999」の主題歌が大ヒットするなどして、広い範囲でアニメってもんが人の目に触れてたと思うんです。

そりゃまぁ例によって、アニメファンは、映画の公開日に徹夜で劇場前に行列を作ってましたし、今も見かけますけど、どうも人数が違うような気がする。当時は〝社会現象〟なんて言われてましたから。実は僕も〝社会現象〟の一員でして、「ヤマト」の劇場公開のときに映画館の前にならんでました、ハイ。

で、当時のそういうむやみな熱気と、それにあおられたように生み出されたいくつもの作品を見て来た者の目で見ると、現在の状況には、若干の寂しさというものを感じます。実際には、コンピュータやテレビゲームの世界で、新しい才能が次々と生まれているのかもしれませんが、メディアが広がってしまったために、ひとつひとつの密度が薄まってしまったように思います。

TVアニメも元気がないですね。最近のTVアニメは、昔と較べると、確かに絵のレベルは全体的に上がって、少なくとも小汚い作画のモノはなくなっているようですが、「他人のやっていることは知らん」というスタンスで作られたような作品ばかり増えているような気がして（そういう作品もあるべきだとは思うのだけれど）、競い合って、結果的に全体が盛り上がってしまう、というあのばかばかしいエネルギーはもう出て来ないんじゃないかと、まあ思ってます。

本当はね、TVアニメに元気がないと困るんですよ。僕らの後継者たる子供たちが最初に見るものなんですから。テレビゲームに獲られっぱなしじゃあ、将来どんなにすばらしい作品を作っても、そのときにはもうお客さんはいませんよ。下手すりゃそうした作品を生み出す人もいなくなっちゃうかもしれないけど…そうなったらじじいに徹して「昔はよかったよなあ」なんて繰り言を言ってましょうか？

TVアニメが駄目ならOVAはどうかというと、これにも首をかしげざるを得ません。僕も関わった問題ですから大きなことは言えないけれど、関わったからこそ分かったこともあって、どういうことかと言うと、「これはなかなか商売にはならんわ」ってことです。たくさん売りたくて単価を下げようとすれば、予算が付きませんから、枚数も使えず作画レベルもそこそこ、メインターゲットに設定されるマニアのお眼鏡にはかなわないことになります。

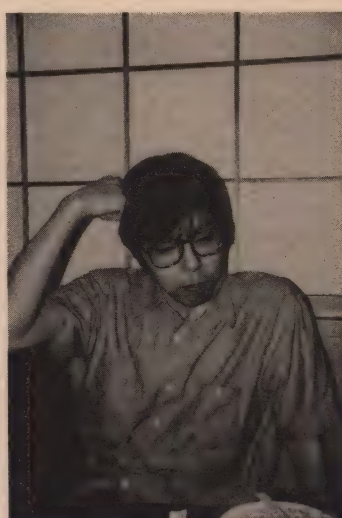
しかもどれだけ単価を下げたところで、数千円にはなってしまいますから、フリーのお客さんに買ってもらえるものじゃない。マンガの単行本なら10冊以上買える値段なんですから。フリーのお客さんをつかまえられるかどうかにOVAの運命がかかっていると思うんですがどうでしょう？そのために有名な原作物を引っ張りだしたりしていますが、オリジナルは作りにくくなっているようですね。有名な原作物は、本来TVアニメでやるものだったんですが…。こちらも徐々に裾野を狭めているなあ、というのが正直な感想です。

アニメの場合、ジャンルを広げるべく実験を試みるにしても、あまりにも人手と予算、それに時間がかかりすぎます。実写の映画なら、たとえばすごい早撮りの監督が100万円の予算と1週間のスケジュールで撮ってしまうような題材の作品ですら、数ケ月の期間とン千万円の予算が必要だったりするわけですから。これはもう、圧倒的に不利な条件ですね。いっそアニメは高くつくんだって宣伝しちゃったらどうですかね？これは冗談ですけど。

いろいろ文句をならべちゃったなあ。

それでもなお、僕は結構期待してるんですよ。実写映画では通らないような企画か、アニメなら通るということもありますからね。近頃のOVAなんか見ていると、作画レベルなどもの凄く上がっていて、もはや身体の部分（アニメーター）に関しては心配無用のようです。いちばんの問題は頭の部分でして、有能なプロデューサー、脚本家、そして監督が育てば、何か凄いものが生まれるんじゃないかと予感しています。

マンガ家は、作品の出来不出来に関しての責任が本人にかかってきますからむしろ気が楽なんですが、アニメではその責任をアニメーターにおっかぶせるわけにはいきません。「頭」の人達の責任は大きいですよ。



「究極超人あ〜る」「機動警察パトレイバー」それに「はてしない物語」等でNTには、知らぬ人とてないゆうきまさみ。実はこの方NT創刊時からのレギュラー執筆者でもあったりする。多忙な中、最近はMACに熱中とか

NT DATA from 1991→1992
'91年4月号～'92年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 サイレントメビウス(2) ……………………30p
2 ふしぎの海のナディア ……………………25p
3 アルスラーン戦記(II) ……………………17p
4 ロードス島戦記 ……………………………16p
5 機動戦士ガンダムF91 ……………………12p
6 魍魎戦記MADARA…………………………11p
7 らんま1/2 ……………………………………9p
7 老人Z …………………………………………9p
9 機動警察パトレイバー ……………………8p
9 機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY …………8p

「DARK ANGEL」の連載もあるし、とにかく麻宮先生の名前を聞かない月はない、菊池キャラを見ない月はない、という感じの年だった……ような気がする。んで、1位は順当というところか。角川アニメということもあるけどOVAがけっこう上位に食い込むようになったのは新傾向か。新傾向といえば「ダークエンジェル見聞録」「三国志事典・天之書」といった特集がポチポチ見られて、編集長が代われば雑誌も変わるってのが徐々に見えてマス

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護(4～11・3月号)
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦(4～3月号)
聖獣伝承 DARK ANGEL
作・麻宮騎亜(4～3月号)
ROUTE 20 歯車のある街
作・貞本義行(12～3月号)
ガイア・ギア
文・富野由悠季／絵・北爪宏幸　伊東守
(4～12月号(終))

挿絵だけでなくキャラやメカ設定も見せる物語「ガイア・ギア」が4年9か月で連載終了。「ドラマガ」の先を行くやり方だったんだね

◆なんだこの企画!?

ゆうきまさみ回帰現象

「あ～る」の3か月続いた紹介ページ。こんな変なこと――〝企画につまって〟どんどんやってほしい

◆別冊付録

コミックGENKiの素(4月号・100p)
KARAOKE SONG BOOK(5月号・36p)
ポスターBOOK '85―'91(8月号・20p)
アニメテレカBOOK(9月号・36p)
コミックGENKiの素(11月号・100p)
1992カレンダーノート
(ニュータイプ手帳・1月号・100p)
1992イラストレーションカレンダー
(1月号・16p)
ファイブスター物語設定資料集1992―1996
(2月号・44p)

「マモ先生、前のとナンバーが違ってる」「ウン」「マモ先生、前のと表記が違ってる」「ウン、わかってる」「…………」、5年に一度の恐怖の付録……(冗談ですってばー)



貞本義行

次回作「蒼きウル」では、もう一度自分に対するイメージを崩してみたい

　近頃のアニメ界の話をするならば、まず、僕の職業柄一番身近なアニメーターの話題から始めましょうか。実際、今元気のある人たちを見ると、TVでは枚数制限などがあるせいなのか、ビデオや劇場では思いきり動かしたいっていう欲求を持っているように感じるんです。でもそれは、「作画に凝る事＝動かす方向」でしかアニメを考えていないんじゃないかって思うんですよ。

　できるだけカッコ良くリアルに動かして、凄いって言われたい気持ちは判るんですが、その刺激、実は僕たちはもう20歳の頃に受けている訳です。たとえば金田さんとか板野さんとか、それこそ庵野さんの爆発シーンとか。だから少々うまくキャラクターが動いたところで、僕にはそれほど刺激がないんです。OVAでは特にそんな気がしますよね。演出家も、ただきれいに凝った絵を見せたいとしか考えていないんじゃないかとまで思うんです。

　企画・脚本・演出と、もっと練り込むことも出来る筈なんですが、それをしない。その為の努力を怠っているというか、「大人の仕事」になっていないとでも言うのでしょうか？

　僕たちが大学生の頃は、『ガンダム』や『イデオン』を見てもたいして恥ずかしくなかったんですが、最近人気のOVAはちょっと……。

　たしかにアニメーターに関しては、技術的に凄いなって思うこともありますけど、そもそもアニメーターは動かす以前に絵描きなんだから、逆に動かさない絵っていうのもあるんじゃないか、と。これは、誤解されると困るんだけど、そういう考え方もあるよって言いたいんです。

　正直言って、今の劇場アニメってジブリ作品と、その他大勢みたいな感じになっていますよね。これが実写の方になると、ハリウッドを始め、いろんなジャンルの面白い映画があるというのにね。でも、ことアニメーション映画になったら……。

　関東圏で2館開けて、地方ではやっているんだか、いないんだか判らない、その程度の作品しかないのは寂しいし、アニメーション映画そのものが斜陽になる一方だと感じているのは僕だけじゃないと思うんです。

　だから、他のスタジオがやらないのなら、うちがやろうと。やる気が大切なんです。それさえあれば出来るんだってところから、今回の劇場企画も決まったんです。今、やるならばこれしかない、と。

　『王立宇宙軍』があって『ナディア』が来て、ハッキリ言うと、何か後ろめたさみたいなものが、僕の心の中にはあったんですよ。『ナディア』みたいな作品ならば、僕たちがやらなくても他のスタジオにもっと得意な人たちがいるんじゃないかと思ったり。そんな事考えると、真面目に出来ないっていうか、どこかしら外しちゃう部分があって。まぁそういう部分が受けたのでしょうけど。

　その一方で、何かもっとみんなが真面目になって描けるような世界、そういうのがいいなぁって思ったんです。僕自身『ナディア』をやっている間は楽しかったんですが、さすがに2年ぐらいやっていると、何か精神性の高みを描くような、そういうものの中に踏み込んでいくような作品をやりたいな、と。それも『ナディア』のように、経験論だけで出来てしまう作品ではなく、かつての『王立宇宙軍』のように目の前がまっ白になって、いったいどうすりゃいいんだと苦しみながら、勉強しつつやれるところがある作品を次はやりたいなって思っていたんですよね。

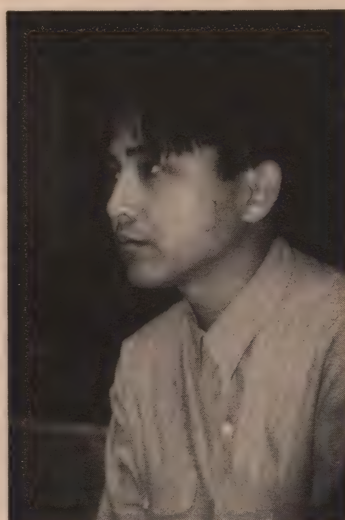
　いざフタを開けてみると、実はそう思っていたのは僕だけじゃなく、赤井さんや山賀さん、『ナディア』をやってた庵野さん自身も少なからず同じようなことを思っていたことが判り、そこら辺で意志統一みたいなものが出来てきた訳です。

　そんな中で『蒼きウル』という劇場企画への取り組み方は、過去にケリをつけると共に、それと「もがいて」みることになったんです。たとえば「30歳になって凄いことをやりたい」とか「自分を変えたい」とか、何か人を驚かせるものをやりたいと思った時、自分の中にそれがネタとしてあればいいんだけど、何か自信が持てなくて、けれどもやりたい気持ちだけはあるっていう。それはガイナックスに集まってるスタッフのほとんどが持っている感覚なんですよね。たぶん30代前半の共通の気持ちっていうか、そういうものから逃げるんじゃなくて、一応もがいてみよう、あがいてみよう、真っ向から立ち向かって闘ってみようと、そんな感覚をスクリーンに出せればいいなって。作っているスタイル自体が「もがき」だってことなんです。

　これは映画のテーマというよりも、僕たちの仕事のテーマとしてそれが重要なのであって、たぶんそういった中から僕たちの気持ちがスクリーンににじみ出てくるのではないかっていう考え方ですね。

　映画そのものとしては、飛行機アクションを絡めたハードボイルドもので、過去につきあっていた女を助けに行くような、それこそ自分の過去にケリをつけに行くみたいな感じの物語でして。

　でも実は、そういったストーリーよりも、ガイナックスならではの作り方といいますか、制作側の作り方自体に今回の作品のテーマがあるんじゃないかなって、僕は思うんです。



「オネアミスの翼」「ナディア」と常に新世代アニメーターの先端を走り続けてきた貞本義行。次回劇場作('95年公開予定)ではさらに新しい世界を展開してくれそう。また先頃、角川書店から初の個人画集「ALPHA」も刊行

NT DATA from 1992→1993
'92年4月号〜'93年3月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1 美少女戦士セーラームーン …………31P
2 機動警察パトレイバー ………………26P
3 機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY……20P
4 宇宙の騎士テッカマンブレード ……18P
5 無責任艦長タイラー …………………16P
6 暗黒の破壊神BASTARD!! ……12P
6 らんま1/2……………………………12P
8 サイレントメビウス2 ………………11P
8 アルスラーン戦記II …………………11P
8 風の大陸 ………………………………11P

近所のガキ(女の子2人組)が自転車に乗った同級生らしい男の子を指さして「アッ、タキシード仮面だ」とかゆうておった。うーん、ポール・マッカートニー&ウイングスは知らなくてもビートルズは知っている現象に近づいてきたなこれは(変なたとえ)。夜店のお面が出るのも早かったしな……。しかし、マ○アニメのころから知ってる吉岡平先生の作品がついにアニメ化、しかもそれがNTの誌面を飾るなんて……なんか感慨ぶかいネ

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護(4〜11・3月号)
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦(4〜3月号)
聖獣伝承 DARK ANGEL
作・麻宮騎亜(4〜3月号)
上海丐人賊 岗鬼城酔猫事変
作・草彅琢仁(12〜2月号㊎)
ROUTE 20 歯車のある街
作・貞本義行(4月号㊎)
6億kmの燐光
文・宇童ケン/絵・カトキハジメ
(5〜12月号㊎)
equal ガネシス
文・高橋良輔/絵・村瀬修功
(2・3月号)

先を感じさせる、ことしが楽しみな連載がポコポコ出てきた年ダスね。執筆陣、ほかにお仕事かかえてるってのがつらいとこ?

◆なんだこの企画!?

タキシード仮面のひとりごと

変な企画が少ない、さびしい。そん中でこれ、昔のアニメ誌ではよく見てたけど、最近少なかったやり方。この手があったナ、今度パクろ

◆別冊付録

コミックGENKiの素(4月号・100P)
OMATSURI SONG BOOK(5月号・44P)
サイレントメビウス2設定資料集(8月号・36P)
全話LDオリジナルイラストコレクション(9月号・36P)
コミックGENKiの素(11月号・100P)
ANIMATIONARY1993(ニュータイプ小事典・1月号・100P)
イラストレーションカレンダー1993(1月号・16P)
The Cover Art of F.S.S.(2月号・36P)

なーんか最近付録がよくて、本誌のページ数が足りなくなったか、それとも値上げの前触れか?(ジョーダンですってばー)けど、本誌はそんなにいじらず、付録をつけてってゆーのをゴーカに感じるのは年のせい?



呉智英

マンガとアニメーション、この似て非なる世界の問題点を探る

僕のようにマンガを語る側の人間から見て、アニメについて考えるときに留意してもらいたいのは、この両者が必ずしもイコールではないということ。まず文法が違う。たとえばアニメは映画の一種で、物語はシーン、カットから構成されているが、マンガはコマによって構成されている。つまりアニメ、映画が時間軸で成立しているのに対し、マンガは画、空間によって成立しているのだ。

だからマンガをアニメにするというのは基本的に小説を映画にするのと同じと考えられる。ただ違うのは、マンガの場合、すでにキャラクターが絵で描かれているので応用がききやすい、ということだけで、内容的には全く別物になってしまうという点では両者共通である。

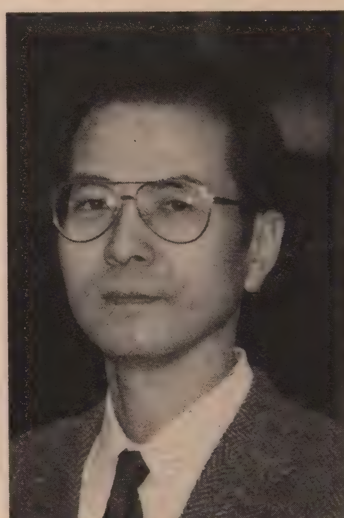
また、つくり方の問題でいえば、アニメの場合どうしても多くの人の手を経るプロデュース・プロダクションにならざるをえないのに対し、マンガは最低限ひとりで、それこそ紙と鉛筆さえあればつくれるということがある。その分、当然の結果としてマンガのほうがより作家性の強い作品を送り出せるということになる。

そういった点で、マンガとアニメとは、似て非なる存在だ、といえるだろう。

ただ、もちろん両者に共通する要素、傾向があるのも確かで、たとえば受け手の成年化等はその代表かもしれない。もっとも、全年齢層を包括するのはかなり難しい問題である。それは、マンガに関しては、ある程度媒体が明確なので、系統的に概観することもできたのだが、アニメは、TVにしても映画にしても媒体の性格が明確ではないからだ。

たとえばマンガに関していうと、最初「マガジン」とか「サンデー」といった少年誌だけだったのが、'60年代の後半ぐらいに成年誌が、'79年に「ヤングジャンプ」や「スピリッツ」などのヤング誌が、そして'80年代の終わりにはさらにその上の年齢層をターゲットにした雑誌が、といった形で、およそ10年周期で年齢層を異にする媒体が生み出されてきているのがわかる。しかしアニメの場合、確かに年齢層が広がってきてはいるのだが、必ずしもそれがマンガと軌を一にするものとはいえない。ただこうした流れの中でひとつだけいえるのは、確かにそれぞれの年代に合った作品が出てくるようになってきた代わりに、全年齢層にクロスオーバーするものが少なくなってきた、ということ。少なくともかつては、子供向けの作品を大人が読んでそこに年齢層を超えたおもしろさを見いだす、といった驚きがあった。もちろん、大人向け、子供向けといった分け方が正しいかどうかは議論の余地の残るところであるが、いわゆる子供を対象とした作品に大人が驚けるのであれば、それはそのほうがよいのではないだろうか。しかし、今そういう越境していく驚き、おもしろさは確実になくなってきている。

これは、より大きな枠組でとらえれば、いわゆる媒体がターゲットを絞り込んできている最近の傾向の表われのひとつといえるだろう。もちろんそういった状況を現出した要因はさまざまで、どれと特定できるものでもない。だが、より根源的な要因を考えた場合まず挙げられるのは、マンガというメディアそのものが大きく膨張したということである。



マンガを中心に幅広い評論活動を続ける呉智英（くれともひで）。「朝までテレビ」等で御存知の読者は多いと思うが、最新刊「サルの正義」（双葉社刊）でもその鋭い舌鋒は相変わらず。ユニークな視点を繰り広げている

媒体が効率よくお客をとろうとするときまず考えられるのは、ターゲットを絞り込んで狙うといった方法である。ただしこのやり方では確実に一定の層はとらえられても、必然的に全体に占めるパーセンテージは小さくなってしまう。しかし今日のようにマンガが隆盛を迎えると、たとえパーセンテージは小さくなっても、底辺そのものが大きいために、結果として得られるパイもそれなりに商売が成立するぐらいに大きくなってくる。実際、現在のマンガ誌は、先ほど述べたように年齢層が4～5段階に分かれているうえ、さらに男女別、傾向別と細分化されているが、それなりに講読層を獲得している。

今マンガの底辺はかつてなかったほど広がりメディアの中でも大きな一角を占めるようになってきた。その過程で、他のメディアが抱えてきたのと同じような問題、たとえば作品が読者のアンケート結果をフィードバックしてつくったような最大公約数的なものになってしまうといった問題をマンガも抱えるようになってきた。もちろん、メディアが大きくなる中でこういった問題はどうしても避けえないものではあるし、またそうでもしなければ今日の隆盛はなかったのかもしれないが、それでも実験的な作品が弾かれてしまう状況には不安を感じずにはいられない。

あと、これはアニメも含めて、マンガの隆盛が文化の崩壊を招く、といった見方には僕は賛成できない。確かに今の若者は一般教養のない人間が多い。しかし、活字を通したインテリジェンスは厳然と生きつづけると思う。たとえば、歴史をマンガにするにしても、内容に関しては活字で読んでいくわけで、すでに数千年にも及ぶ歴史をもつ"文字文化"がそう簡単に廃れてしまうとは考えられない。ことばについても、部分的には無知からくる崩壊はあっても、存立そのものが大きく変わるのには少なくとも数百年の時を要するはずである。とにかく、今でも最も廉価で効率のよい情報源は依然"本"なのだから。

NT DATA from 1993→

'93年4月号〜7月号

◆作品別年間紹介ページランキング

1	機動戦士Vガンダム	25P
2	美少女戦士セーラームーンR	16P
3	無責任艦長タイラー	14P
3	ああっ女神さまっ	14P
5	GS美神(ゴーストスイーパー)	6P

とりあえず'93年度は4か月分で5位までのデータです！

な、何だ「ガンダム」「タイラー」を除けば女の子キャラ、女性主人公だらけではないか。そうか'93年度はヒロインの時代なのだな——なんてことをたった4か月間のデータで言っちゃあいけません。でも当たってる？

◆連載コミック・小説

The Five Star Stories
作・永野護（4月号〜）
マリオネットジェネレーション
作・美樹本晴彦（4月号〜）
聖獣伝承 DARK ANGEL
作・麻宮騎亜（4月号〜）
equal ガネシス
文・高橋良輔／絵・村瀬修功（4月号〜）

またまた暴走が始まったか？とゆー感じの昨年度末でしたが、大丈夫だったみたいね。「DARK」の展開も何もかも、まだこれからヨ……

◆なんだこの企画!?

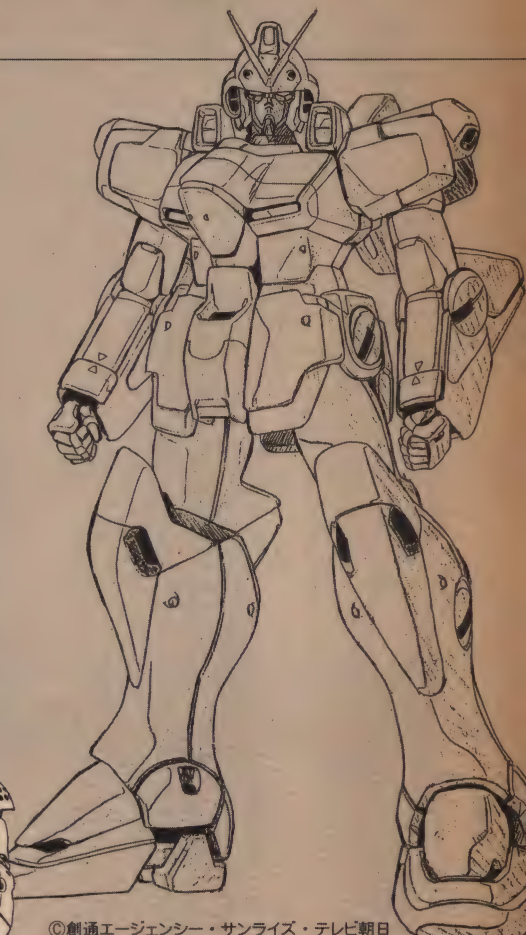
まだ特にないのー（㊋醜聞!!千里を駆ける）

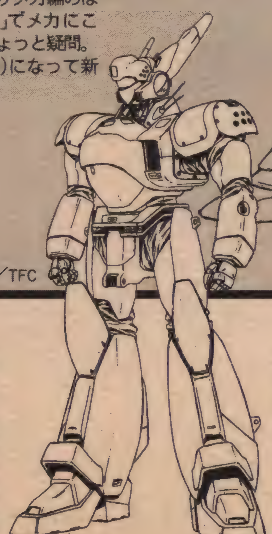
次点くらいのやつ、5月号のタイラーの19ページの上、23ページの内部解剖図、オッ、浮きセルだ。こんなもんかな、ちょっとさびしい

◆別冊付録

お宝コミックGENKi-Ⓡ（4月号・100P）
パトレイバー2002設定資料集（5月号・36P）
NT100th Perfect File（7月号・68P）

「ガンダム100%」ではキャラよりメカ編のほうが売れたけど「パトレイバー」でメカにこだわんなきゃいけないのかはちょっと疑問。GENKiの素はⓇ（大笑ⒸCLAMP）になって新装開店！





◆作品別総合紹介ページランキング

1	機動警察パトレイバー	115P
2	機動戦士ガンダムZZ	100P
3	機動戦士Zガンダム	91P
4	機甲戦記ドラグナー	84P
5	機動戦士ガンダム 逆襲のシャア	80P
5	ふしぎの海のナディア	80P
7	ファイブスター物語	72P
8	らんま1/2	63P
9	機動戦士ガンダムF91	50P
10	超音戦士ボーグマン	47P
10	美少女戦士セーラームーン	47P

「ガンダム」でくくれば圧倒的で、これはNTではまたまた当然。Vガンダムもこのペースで行けばベスト5入りは確実ですな。でも、年度別で1度も1位になってない「パト」が総合1位というのもおもしろい結果。ビデオ、テレビに劇場版が2本もあるから、といえばそれまでだけど、ほかにもそんな作品はあったよ。やっぱ物語+キャラ、かな？　それにしてもナディア、F.S.S.、らんま以外はすべて頭に機動（甲）か戦士（記）というのも情けないというか…

NT DATA from 1985→1993

宮崎駿

才能さえ出てくれば現状は打破できる! でも今は、その才能がない!!

アニメーション業界といえるほどの世界があるとすれば、今いちばん足りないのは新しい才能です。お金のことも、作品の内容についても、才能があれば道がひらける。少なくともその可能性は前にもまして強いと思います。

新鮮な見ごたえのある作品を見たいというニーズは確実にある。

映画館がどうの、TVの本数がどうの、レンタル店が減っただの、と、流通の状況についてはいい話はないのですが、それも、今は従来の流通機構に変化が起きて、まだ次の形が見えていない時期なんだ、と考えたほうがいい。

つくり手から受け手へのルートそのものにも創意が必要な時が来たんだと思う。

これは、どこかの会社がたくさんお金を出せばとか、TVの発注額を増やせとか、国が援助してくれれば良い作品が生まれるといった発想とは、まったく逆の考え方です。

問題は新しい才能が出現していないことです。

ひとつの才能の出現は、影響を周辺に広げて、眠っていた才能を呼びさますはずですが、その刺激がないのだと思う。

では、なぜその才能が生まれてこないのか……。

これは、日本全体の課題と考えたほうがいいのではないか、と思うしかない。だって、他のジャンルにもたいした才能が出現してないでしょう。

文学にも、コミックにも、音楽にも、それだけじゃない、自動車のデザインのようなものにすら才能のひらめきはないでしょう。

話をアニメーションの世界にもどして考えると、今、一番深刻な問題は演出の人材不足です。脚本や企画についてはもちろんだけど、かつてなく演出の志望者は多いのに、演出がいません。

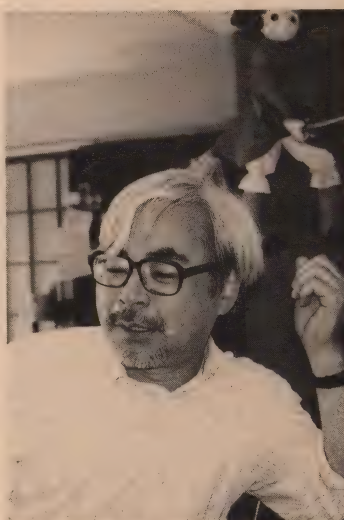
構造をもった演出が生まれないのです。

構造と僕は勝手に呼んでいるのですが、これは作品をつくるときのある想い――主観というのか――を、歴史や文化、社会といったややこしく大きな客観の中に投げ返し、その空間の中で主観をとらえ直して、映像に構築していく能力だと思うのです。ところが、その力がない人が多いのです。

自分の好みや、心の穴を埋めるのに熱心で、その好みや穴がどうして生まれたのか、と考える人がいないんです。

例を挙げると、少女マンガがある時期、新しい描き手の出現で力を持ったことがある。

萩尾望都とか大島弓子とかという人たちですが。



現在アニメは小休止で「風の谷のナウシカ」の連載に集中している宮崎駿。次回作に向けての構想もボチボチ練っている最中というが、今はそれよりも昨年買ったイギリス製の3輪自動車に夢中!毎日故障と必死に戦っている

その作品群に感化されて、アニメーションや映画を志した世代がいます。するどい感性によって描かれた少女マンガは魅力があります。ですが、その感性の多くは、外の世界を排除してでき上がっている。

少女マンガの絵が白いのには理由があるのです。あれは、世界はすべて心象風景だと決めたことによって成立している。

その作品群にかきたてられて、そのフィルム化をどこかで夢見た人たちの作品を見ると、正直ガッカリするのです。

映画は空間と時間をつくることです。しかし、その空間が実にまずしい。世界が奥深い、広大なものだという謙虚さがないのです。

ですから、何を描きたいかという気持ちはわかっても、結局、自分の貧弱な自我の子守り歌をつくって終わってしまう。

あとは、アニメーターにも人材が出ませんね。

かつては、何年かに一度ずつ、こいつは!! という人に出会ったものですが。

最近は、それらしい人も、スケールが小さくなって、大きな野心より、自分の守備範囲を小さく決めて、その中で自分を主張したがる傾向があります。

僕の知っている範囲で昔の例を挙げると、近藤喜文や友永和秀なんかに新人として出会ったとき、つい、ニカニカしたもんですが。

ここんとこ出会えません。こいつはいくかな、と思ってたのに、小さくまとまろうとして、つまらなくなっていく。

それに、アニメーターを生かすも殺すも、演出しだいですから。

自分を棚に上げて言ってるのですが、いまんとこ、見通しは、霧の中です。

アニメの次回作については、いろいろと企画はあがっているのですが、まだどれが煮詰まるかわからない状態です。ただひとつだけ、今自分やスタジオジブリにかかっている〝良質な作品をつくる〟というぶ厚いオブラートをひんむいてみたい。これだけです。このことだけは、次の映画の中でも絶対にやってみたいところです。

それと、「ナウシカ」のほうも早くケリをつけないと。もう、連載が始まって足掛け12年にもなるんですから。とりあえず連載を終わらせて、映画が終わっても、「ナウシカ」のことが頭から離れない、といった状況から抜け出す。

そしてあとは、去年買った三輪自動車(スリーホイーラ)に乗って、不良老人への道をまっしぐら! って感じで行ってみたいですね。

制作NTエンタープライズ
協力WGBN

NTスペシャル
どこへ行く
世紀末のアニメーション

第1回 変容するキャラクター

ポスト・アニメ・ブームの時代

'85-'87

空前のアニメ・ブームが終わろうとしていたころNTは創刊された。しかし、ブームの中で培われたエネルギーはアニメ全体の水準を底上げし、この時期、中小の佳作がたくさんつくられるようになる。そしてその傾向はOVAに引き継がれるのだった。

性格の悪いキャラクターらの登場
この時期、かつては敵役の専売特許だった"嫌な性格"がヒロインにも広まる。例：リイクニ、音無響子(？)等多数

再興、そして新世代の台頭

'88-'90

アニメの低迷を救ったのは、かつて自身アニメ・ファンだった新世代のつくり手らだった。そして、キャラクター・デザイナーも、近藤勝也、結城信輝、菊池通隆、奥田万つ里ら、新しい感覚をもった層が従来なかった路線を打ち出すようになる。

"わたし、頑張ってます"型キャラ
タカヤノリ子、キキ、泉野明など、一途に頑張る姿が清々しいキャラが人気を集めたのはやはり時代の要請なのか？

バブルの膨張と崩壊

'91-'92

バブルの膨張と崩壊はアニメには全く何の影響も及ぼさなかった。相変わらずナディアは嫌な人間だし、ニナは本当に酷い奴、一方でウサギのノーテンキはメガトン級(死語)。と思ってたら、スポンサーが減ってTVアニメも減ってしまった！ ヤレヤレ。

頭にくるほど性格悪いキャラ
リイクニ以来脈々と受け継がれていた性格の悪いキャラはナディア、そしてニナで一気に大輪の華を咲かせる!?

果てしないクオリティ競争の中で リアル化への道をひた走るアニメ・キャラ

つらつら考えるに、NTの表紙ほど時代の諸相から遠く駆け離れた存在はないのではないだろうか。そう、複数の顔をもちながらも、確実に大きな流れの中に身を任せている世相という名の怪物。その行く所、常に破壊と殺戮が付きまとい、残された荒野には千年にも及ぶ静寂が黒い太陽とともに訪れるという。あまりにも傲慢な、あまりにも我儘な暴君。

しかし、NTはもっと我儘で傲慢だった。どんな強圧にも屈しない根っからのレジスタント。世が「サ○ライトルー○ー」に現を抜かせば「ガ○ダム」で意地を通し、「セ○ムン」ブームが過熱しても、最後の最後まで表紙にはしなかった――。

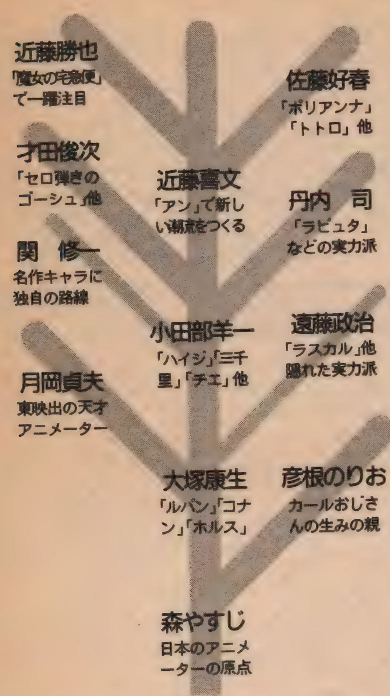
とまあ、およそドキュメンタリーらしくない書きだしで始まったこの冒頭部分で言いたかったのは、要はNTの表紙というものが直接にアニメの流れを表わすものではない、ということ。ただ、もちろん全く無関係というわけでもなく、やはりそれなりに人気作をトレースしているのも確か。だから100枚の表紙を眺めるだけでも一応はこの8年に及ぶアニメの歴史を把握できるだろう。

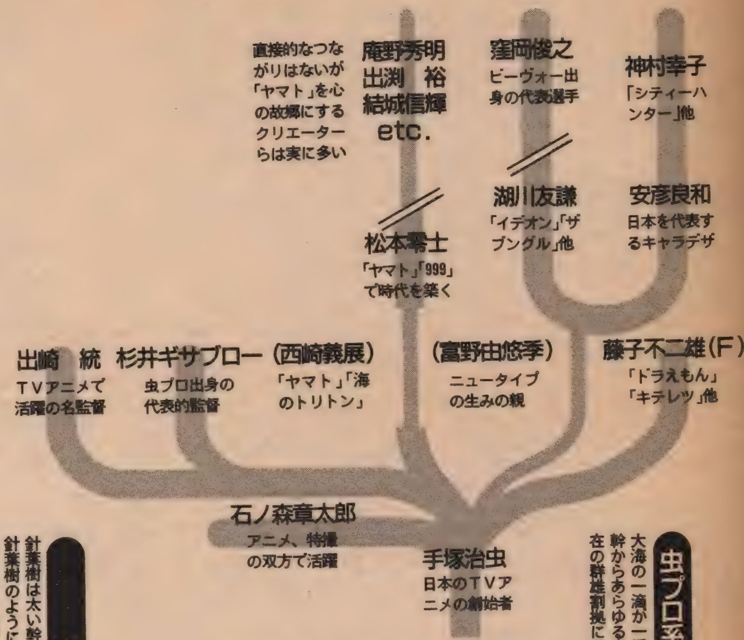
閑話休題。この8年、NTが100冊の歴史を編む中でキャラクター・デザインが見せた変容の様は、まさにあった。かつてアニメ・キャラは、1日をもって100年となすがごとくで大な量の動画を描かねばならないといった物理的制約の中で、可能な限りシンプルに、というのを第一の命題としてデザインされていた。しかしOVAがアニメの一方の大きな支柱として確固たる地位を得るようになるに及んで、無軌道なクオリティ競争に突入した制作側は、その矛先をついにキャラにも向けるようになったのである。つまり、簡単に言えば、かつてはシンプルだったアニメのキャラが、特にここ数年は以前では考えられなかったほど複雑になってきたということである。

恐らくこうした傾向を決定的にしたのは「ロードス島戦記」だろう。全編これ描き下ろしイラスト、といった高密度画面でファンを驚かせた「ロードス」だったが、最近はその水準があたり前になろうとしている。

もっとも、クオリティの高さと内容のおもしろさは、基本的には別次元の問題である。実際、懐古主義ではなく、かつての(真の意味での)名作を見ると、シンプルなキャラが生き生きと動き回る姿に現在ではもう失ってしまった楽しさを感じることがある。

ただ、一度回りだした歯車はなかなか止まらないものである。これからもキャラは、デザインも含めてますますリアル化への傾向を強めて行くことだろう。果たしてその先に終点はあるのか。今はまだ見えない。





虫プロ系・広葉樹型(カオス型?)

大海の一滴が一瞬の内に広がっていくように、広葉樹は1本の幹からあらゆる方向へとその枝葉を伸ばす。上に示したのは現在の群雄割拠に致るアニメの流れを乱暴にまとめたものである

日本のアニメーションの最大の特徴はTVアニメにあるといえよう。今でこそあたり前になってしまったが、かつて週に1本、それも30分のアニメをつくるのは物理的に不可能と考えられていたのだ。しかし、「アトム」の大成功によりこの定説は覆された。そして以降、アニメはTVの大きな柱となるとともに、視聴者にとっても身近な存在になるのであった。また、こうして多量のアニメがつくられることにより表現の幅は広がり、さまざまな個性をもった才能を生み出す土壌もつくられるのであった。

東映系・針葉樹型

針葉樹は太い幹に支えられてどこまでも高く伸びていく。その針葉樹のように、森やすじの生み出した流れは、さまざまな支流をつくりながらどこまでも伸びゆき、ひとつの世界をつくる。

日本のアニメも、他の国々のアニメと同じように最初は劇場用の短編から始まった。そしてディズニーの後を追うように、東映動画を中心として劇場用長編がつくられるようになっていったのである。その時、制作の核となったのが不世出の名アニメーター、森やすじであった。森やすじが生み出した世界は、大塚康生、小田部羊一、近藤喜文と受け継がれていき、そして今もスタジオジブリ作品や数々の名作アニメの中に脈々と生きつづけているのである。

NT表紙・データ集

時代の流れとは無関係に混迷の中を生き抜くNT

上に示したのは、どちらかというと、NTが創刊される前の、TVアニメと劇場アニメという性格を異にする2つの表現媒体から出発したキャラの流れを大まかに模式したものである。現在はこの2つが互いに入り混じって、かなり複雑な様相を呈してきている。

というわけで、でもないのだが、この100号までの表紙登場キャラ、およびメカ、それに原画のベスト10をここに紹介しよう。

◆キャラクター／メカ

1.	泉野明	5回
1.	ナディア	5回
3.	ナイト・オブ・ゴールド	3回
3.	νガンダム	3回
3.	AV-98 イングラム	3回
6.	ガンダムF91	2回
6.	ガンダムRX78GP03	2回
6.	Vガンダム	2回
6.	香津美・リキュール	2回
6.	ラキシス、6. 火の鳥	2回

◆原画

1.	永野護	10回
2.	菊池通隆	8回
3.	出渕裕	7回
4.	結城信輝	6回
5.	北爪宏幸	5回
6.	いのまたむつみ	4回
6.	佐山善則	4回
8.	梅津泰臣	3回
8.	安彦良和	3回

以下、2回登場は多数につき略

制作NTエンタープライズ
協力WGBN

NTスペシャル

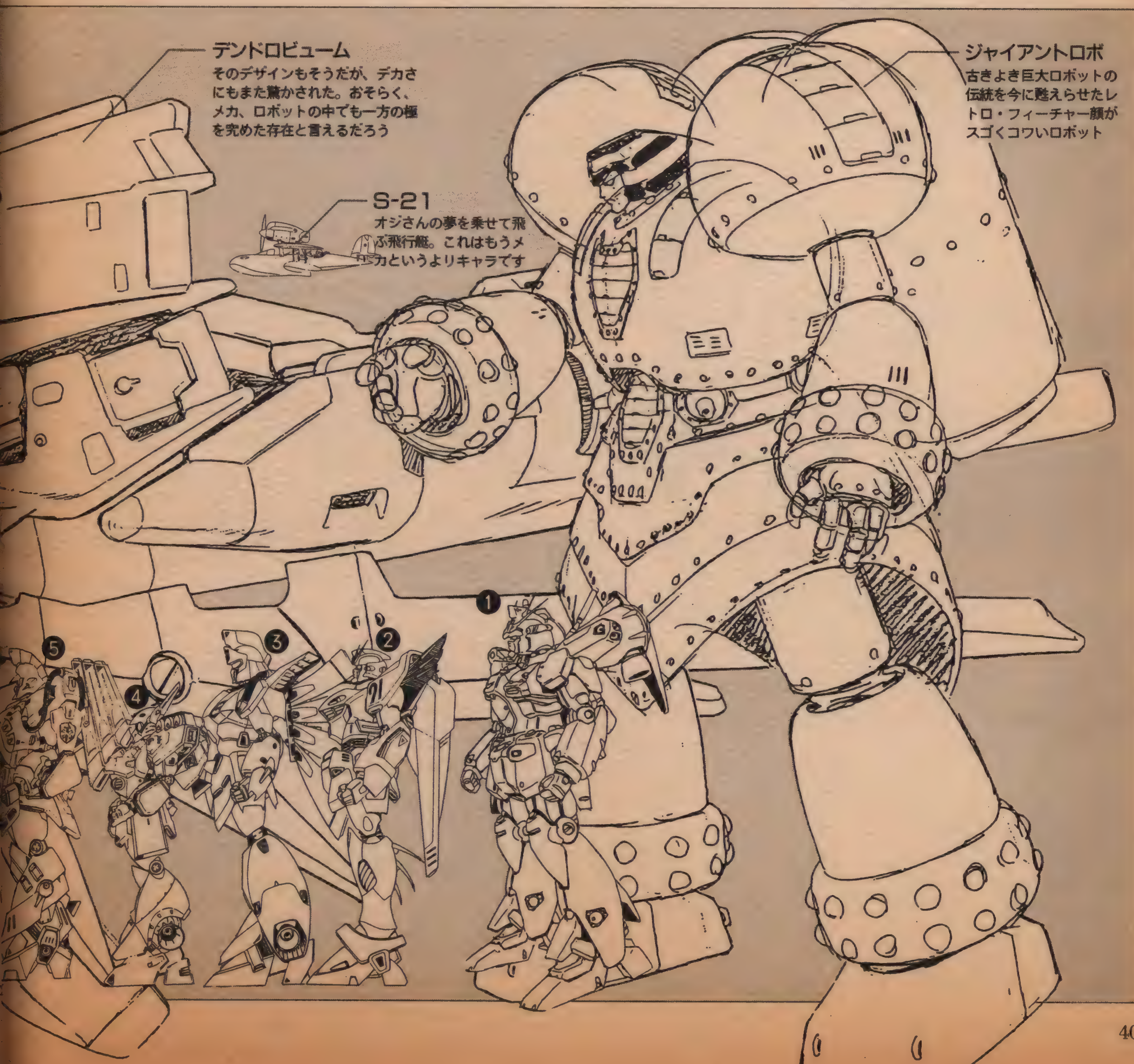
どこへ行く
世紀末のアニメーション

第2回 メカの変遷

それは大いなる発展か サバイバル・レースか

巨大ロボットは日本が世界に誇れる立派な伝統文化である。たとえば古人が大仏という名目で巨大なガレージ・キットをつくり上げたように(しかも国家事業として! オタクの一念は、最新式の重装甲をも通すといいますが、ホント、今も昔もオタクのパワーにはただ脱帽するばかりです)、茶汲み人形などとのたもうて変てこりんなギミックで人心を惑わしたりしたように、ロボット・フリークの血は千年の時を超えて脈々と受け継がれ、その中でどこの国にもかつて存在したことのない独自の文化をつくり上げてきたのだ。

　しかし、最近の研究では、この巨大ロボット文化も決して日本純血の



オリジナルではなく、多分に外国の影響を受けた複合文化であることが指摘されている。それどころか、先鋭的な研究者の中には、巨大ロボットの源それ自体が外来であるという〝巨大ロボット渡来文化〟説を唱えるグループもあるという。特にその根拠となっているのは、今から20年ほど前に大泉の東映動画で発見された長編まんが映画「空飛ぶゆうれい船」である。渡来系学派はその中に登場する巨大ロボットが明らかに仏出土の「やぶにらみの暴君」に登場するロボットの傍系だと主張しているのだ。

しかしこの説にはひとつだけ大きな欠陥がある。つまり、「ゆうれい船」のロボットは、巨大ロボット文化の中では、主流どころか支流にもなりきれなかったごく末端の存在だということである。もちろん明らかに渡来系と思われるロボットはほかにもたくさんある。だが確かに、まだ主流と言われるロボット達が渡来系だという明白な証拠は発見されていない。はたして本当に巨大ロボットのルーツは彼の地に求められるのか、それとも日本という国の中に源流を見出せるのか、全ては今後の調査、研究に委ねられていると言えるだろう。

さて、古代史を探るという問題は別として、巨大ロボットという流れそのものが現在どういった状況にあるのか、そして今後どのような進化の過程を辿るのだろうか、という問題に関する研究もまた、今日の大きな課題のひとつである。それは、結論から言うと、巨大化と複雑化という大きな2つの流れになるのだが、ただし、両者は、根底をなす条件は双方とも同じなのだ。もちろん、その条件とは、厳しい生存競争を生き抜く、ということである。

この〝生存競争〟を理解するために、ここでひとつ簡単なケースを考えてみよう。そのためには、まず視聴者が何をもってメカを魅力的とするかを仮定する必要があるわけだが、当然それは生理的な〝カッコよさ〟以外の何者でもなく、理性的な判断は今は一切考慮に入れないことにする。そう、要は難しい理屈よりも、〝受けりゃ勝ち！〟なのだ。

こうなると、道はおのずと見えてくる。たとえば、デザインが似てるなら、当然、勝つのは少しでも大きなほう、となるだろう。線だって、1本でも多いほうが、ファンだってうれしいに違いない。いや、デカくて複雑ならもっとすごいのでは……。

こうして大いなる勘違い……じゃなくて、進化の道は始まる。ただ一方で、このような発展が〝血ヘドを吐きながら続けるマラソン〟であるといった見方があるのも確かだ。実際、ロボットの進化の行く末が恐竜のそれと同じにはならないと言えるだろうか。しかしそれでも生き残るためには極端に走らざるを得ない。今ロボット文化は大きな転機にある。といったところでこの章を結ぼう。



ノイエ・ジール
デンドロビュームと並ぶ超超巨大メカ。まさにメカ大好き人間の執念が結集したデザインである



ブラウン管上を支配した進化したロボットたち

❶RX-78GP01-Fb(MS)
❷ガンダムF91(MS)
❸XM-07ビギナ・ギナ(MS)
❹XM-02デナン・ゲー(MS)
❺XM-04ベルガ・ダラス(MS)
❻SEJ TYPE-J9グリフォン(レイバー)
❼AV-78イングラム(レイバー)
❽アスカ96MPL(レイバー)
❾人間、おそらく泉野明という機種と思われる

制作NTエンタープライズ
協力WBGN

NTスペシャル

どこへ行く
世紀末のアニメーション

第3回 曲がり角のアニメ誌

より新しい表現、内容を求めて、新たな道へ踏み入ろうとするアニメ誌

遊牧民を称して〝○○の寄生虫〟と呼ぶ表現のしかたがある。たとえばラクダを飼っている遊牧民なら〝ラクダの寄生虫〟、トナカイを飼っている場合には〝トナカイの寄生虫〟といった具合にである。

実に言いえて妙ではないだろうか。生活の手段のほとんどすべてを飼っている動物らによっている遊牧民達。その生活の方法に（確かにことばは悪いかもしれないが）、寄生という表現はまさにピッタリである。

ところでその伝から行くと、アニメというジャンルにベタベタにへばり付き、そこからおいしい血を、それこそ蛭のごとく吸いつづけている我々アニメ誌は、まさしく〝アニメの寄生虫〟と呼ぶことができるかもしれない。いや、〝かもしれない〟ではない、呼ぶことができるのだ。

しかし、となると、我々もまた、やはり遊牧の民ということになるのではないか。確かに、イラストレーターからイラストレーターへ、ライターからライターへと原稿を求めて日々さまよいつづける。そしていつしか定住を忘れ、漂泊の民と化したアニメ誌編集は、今やその8割以上が帰る家も、親に合わせる顔もないという。これを〝アニメ遊牧民〟と呼ばずして何と呼ぼう。

しかし、そんなアニメ誌にとって今は必ずしもいい時代ではないようだ。それは、NTをはじめとする軽薄アニメ誌の報道姿勢に対し、当局が重い腰を上げ、次々と弾圧を加えはじめたからである。〝これはダメ！〟〝表紙は不可〟〝掲載は2ページまで〟〝この情報はまだ出せない〟etc…。

かつての古きよき無法の時代はどこへ行ってしまったのか！ あの忌わしい焚書坑アニメ誌の悪夢（そんなのあったっけ）が再び甦るのか！

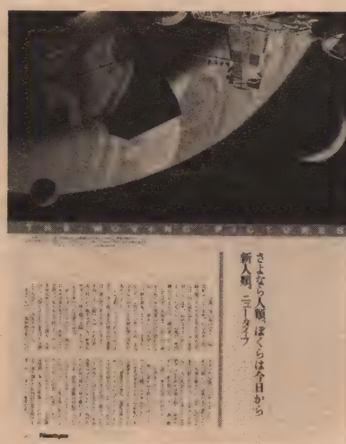
だが、一度動き出した歴史の歯車は、もう二度と止めることができない。確実に変わりゆく時代の中で、アニメ誌にも新しいスタイルが求められるようになってきているのだ。

今、「あー、今月もネタがない！」という呻き声があふれる編集部の中から、次の時代のアニメ誌が生まれようとしている。それが実際にどのような形のものになるか、まだつまびらかではないが、ただひとつだけいえるのは、ただ作品の内容を紹介するだけの誌面はもう終わりを告げ、これからはもっと独自の視点で作品のもっている世界に光を当てていく、そんな誌面が主流になっていくのではないだろうか、ということである。

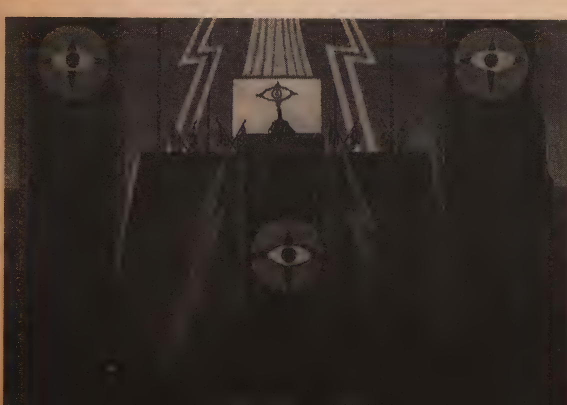
しかしどんなにアニメ誌が誌面つくりに工夫を凝らしても、かんじんのアニメそのものにエネルギーがない限りは絶対におもしろいものは生まれてこない。その点、これまでのようにただアニメから血を吸いつづけるだけではジャンルの活力もいつかはなくなってしまい、結果としてアニメ誌も活力のないつまらないものになってしまうだろう。

今日求められているのは、決してそういう状況を招かない、もっとアニメ誌がアニメというジャンルを生かすことのできるような雑誌のつくり方である。たとえば、受け手とつくり手の橋渡しをもっと積極的に進めるとか、問題は問題としてきちんと提示していく、とか……。

今、アニメーションとともに、アニメ誌もまたひとつの曲り角に来ている。しかしそれは決して行き止まりではない。新しい世界への入口なのだ。



創刊当時のNT
どんなものでもそうだが、誕生の瞬間が一番素晴らしくて、あとは徐々に落ちていくだけとか。どうりで……なんて言ってはダメね！



深く静かに潜行するアニメ誌に対し立ち上る人々
〝人心を惑わし、子供達を暗いオタクの道にひきずり込むアニメ誌に正義の鉄拳を！〟。良識ある人々は、アニメ誌による精神の荒廃を憂いて立ち上った。しかし、それは長く苦しい民族紛争の幕開けでしかなかった

年譜	アニメ界の動き	当時の社会情勢	
1982	**●「おじゃまんが山田くん」終了** 「ガンダム」の完結編「めぐりあい宇宙」公開。劇場版「イデオン」のイヴェントを母体に今日のアニメ業界の母体が作られる	**●フォークランド紛争勃発** 〝フォークランド紛争〟〝アンドロポフ書記長就任〟など世界の緊張高まる。日本でもタカ派の中曽根が総理に就任	この時期、社会情勢は緊張をはらみ、世界各地で大きな事件が続発した。まさに'70年代後半のソ連軍アフガン侵攻、ポーランドの連帯蜂起に続く〝戦後社会のうねり〟がピークに達した時期と言えよう。しかし、アニメはそんな社会の動きには全く無関心に独自の道を歩んでいた。
83	**●タイムボカンシリーズついに終了** アニメの大きな歴史がまたひとつ幕を閉じた。アニメ・ブーム尖鋭化の道へ。マニア、フリーク、オタク 3派の抗争激化	**●大韓航空機撃墜事件** 前年に引き続き緊張の 1年。アキノ氏暗殺、米軍グラナダ侵攻、そして大韓航空機撃墜、と暗いニュースが多かった	
84	**●劇場版アニメの大作、続々と公開** 「ナウシカ」「ビューティフルドリーマー」「マクロス」等々…通称〝オタク元年〟。ここからオタクの社会進出が始まる！	**●ロス五輪〝片肺大会〟に** ソ連書記長にチェルネンコ就任。ロス五輪をソ連、東欧圏がボイコット。モスクワ五輪に続き、〝片肺大会〟となる	
85	**●ガンダム復活、そしてNT創刊** アニメ誌が次々と消えゆく中でNT創刊。このころガイナックスが〝オタクの王道楽土〟を目指して潜伏活動に入る	**●米ソ、デタント** ソ連の新書記長ゴルバチョフ、新思考外交展開。ジュネーブ会談で米ソ首脳が 6年ぶりに握手。デタントが始まる	ゴルバチョフの登場にともなって、ペレストロイカ、グラスノスチといった民主化／自由化の波が東欧全体に広まる。その動きは冷戦構造をも崩壊させ、ついには米ソ間で核軍縮条約が締結されるまでになる。しかし、そんな社会の動きには関係なく、アニメはますます尖鋭化、オヤク化の度合いを強めていくのだった
86	**●「うる星やつら」最終回** 「ポリアンメ」が人気に。しかし主題歌のひどさにファンは激怒、米騒動起きる。宮崎アニメ、キネ旬ベスト10の常連に	**●チェルノブイリ原発大事故** チェルノブイリ原発の大事故で核への恐怖感広まる。一方レイキャビクの米ソ首脳会談で核兵器削減の道開かれる	
87	**●オタクの夢「オネアミスの翼」公開** 雌伏 2年、「オネアミスの翼」公開。よくぞここまで、という画面密度の高さにさしものアニメ・ファンも慄然とする	**●INF全廃条約調印** 米ソ両国の間でINF（中距離核戦力）全廃条約が調印されたことにより、史上初の核戦力削減がいよいよ実現になる	
88	**●「火垂るの墓」「トトロ」同時公開** 他にも「AKIRA」が何だか分からない内にヒット。TVでももっと何だか分からない〝トルーパー人気〟が大爆発！	**●ソ連軍アフガン撤退** 中ソ和解、ソ連軍のアフガニスタン撤退などデタントの動き鮮明に。その中でソウル五輪は12年ぶりに〝両肺大会〟に	
89	**●劇場版「パトレイバー」公開** 社会派アニメ劇場「パト」は稀に見る傑作だったが興行的には低調。一方「魔女宅」は記録的なヒット。何か釈然としない	**●ベルリンの壁崩壊** 東欧の民主化への動きが急激になる中で、東西冷戦の象徴だった〝ベルリンの壁〟が崩壊。一方で米軍、パナマに侵攻	ベルリンの壁崩壊でピークに達したデタントの波。しかし冷戦終結の後に待っていたのは、より複雑で見通しの効かない地域紛争の時代だった。バルト3国、アルメニア、湾岸戦争、ユーゴスラビア、etc…、しかしそんな社会の動きをアザ笑うかのように、この時期アニメのオタク化もピークに達する
90	**●NHKにあの「ナディア」が登場** やはりこの年は「ナディア」の年だった。特に島編に人気が集中！マリー全国的アイドルに！とは当時の担当の弁です	**●東西ドイツ統一** 東西ドイツの統一、ゴルバチョフ大統領就任と戦後秩序が新局面を迎える中で、湾岸危機勃発。世界の多極化鮮明に	
91	**●「おもひでぽろぽろ」ヒット** 問題作「おもひでぽろぽろ」に議論百出。アニメ界は全般に低調、これといったヒット作もなしに 1年が過ぎ去った	**●湾岸戦争の勃発とソ連邦消滅** 湾岸戦争、ソ連邦消滅と現代の世界を象徴する 2大事件発生。一方国内では、バブルが弾けて証券不祥事が次々発覚	
92	**●復古調(?)アニメ「セラムン」人気爆発** あまりに安直な設定に誰もが鼻で笑っていた「セーラームーン」が原因不明の超ヒット。関係者は一様に頭を抱える	**●PKO協力に自衛隊海外派遣** 国連の要請を受けてPKO協力法案成立。自衛隊員600人がカンボジア入り。毛利衛スペースシャトルに乗り宇宙へ	バブル崩壊、自衛隊海外派遣問題等で国内が揺らぐ中、アニメは「セーラームーン」が大人気。OVAはもっぱら〝2〟もの、マンガ原作ものばかりに

NT表紙・データ集

◆セルワーク

1. 中山久美子 ……………… 32回
2. アートミック ……………… 11回
3. ダーム ……………………… 7回
4. IGタツノコ ……………… 6回
5. サンライズ ………………… 5回
6. ガイナックス ……………… 4回
7. 鈴木孝子 …………………… 3回
7. マッドハウス ……………… 3回
7. 高島清子 …………………… 3回
10. 東映動画　他 …………… 2回

◆作品

1. The Five Star Stories …12回
2. 機動警察パトレイバー…… 8回
3. ガンダム・逆襲のシャア… 6回
4. 機動戦士Zガンダム …… 5回
4. ふしぎの海のナディア…… 5回
4. 機動戦士ガンダムF91 … 5回
7. 機動戦士ガンダムZZ … 4回
7. ロードス島戦記 ………… 4回
9. ガンダム0083、機甲戦記ドラグナー、サイレントメビウス…以上3回

NT表紙登場作品は、やはり「ガンダム」強し！

キャラクター／メカ、原画に続いて、登場作品、そしてセルワークのベスト10を並べてみた。そこで気付くのは、あたり前のことだが「ガンダム」シリーズの登場回数が多いこと。「ガイア・ギア」も含めて総計を取ると31回にもなり、「F.S.S.」すらも軽く引き離してしまう。あとこの他にもキャラの向きを調べてみたが、それは左向きが50回と断トツに多く、以下、正面(23回)、左下(10回)、右向き(9回)となっていた。

制作NTエンタープライズ
協力WBGN

NTスペシャル

どこへ行く世紀末のアニメーション

最終回

最近「ワタシはアニメが嫌いだ！」という不遜な発言を平気でするアニメ誌編集者が増えている。

かつてアニメーションがまだブームだったころ、誰もがアニメを愛し、アニメの未来を信じきっていた――もちろん嘘である。

社会が大きなうねりの中で変容し、暗黙の内に〝触れてはならない〟とされていた問題に光が当てられたとき、多くの人がそれを新しい社会現象ととらえた。古くて新しい問題である。

10年前〝新人類〟と呼ばれた若者たちは、今新しい世代とのイメージのギャップを切々と感じている。必ずしも歴史は繰り返すわけではないが、中には繰り返すものもあるのだ。

もう数千年にわたって若者は堕落しつづけているらしい。きっと今は、どうしようもない所まで落ち込んでしまっていることだろう(いや、もしかしたら本当にそうなのかも……)。

アニメーションは、誕生した瞬間から本質的に矛盾した運命を背負う表現媒体であった。つまり、商業的には極めて存立し難い媒体でありながら、その絶対的な作業量の多さから、必然的にプロダクション・システムという最も商業的な制作方法を取らねばならなかったのである。

この矛盾の壁に突き当たって過去多くのアニメ・プロダクションが空しく消え去って行った。一般的には成功例と見られているディズニー・アニメにしても、アニメーションだけを見るとほとんどがペイしていないのだ(まれに、20年、30年がかりでペイした作品もあるにはあるが…)。

その中で、日本のアニメーションがこれだけ乱造の状態を続けているという現象はまさに驚異に値しよう。しかして、その現象を生んだのがいわゆるマーチャンダイジングというシステムである。

しかし過度に鋭い刃はみずからを傷つけることがあるように、この版権システムもまたアニメーションというジャンルにさまざまな問題を持ち込む。たとえば製作と制作の問題。はたしてアニメーションはキャラクター商品の奴隷となってしまってよいのか、つくり手の意志はどこへ行ってしまったのか、等々……。もしかしたら、今アニメにおける最も大きな問題は制作状況の悪さよりも、スポンサー側の恣意なのかもしれない。

もっとも、いろいろと問題はあるにせよ、実際に信じられないほどの作品が制作されている現実は〝アニメ文化百花繚乱〟と形容するしかないだろう。それも、どこぞの文化大臣がのたもうたように、「文化とは本質的にもうからないものだ」との伝でいくなら、日本のアニメは、一部を除いて立派に文化として成立している、ということもできる。

もともと文化は、決して確実な投資の対象とはなりえないはずのもであった。それどころか、当たればそれこそ〝もうけもの〟で、ほとんどの場合外れるのが常だったはずである。

しかしいつしか状況は変化し、社会はそんな文化の不安定な側面に対して極めて不寛容になってしまった。子供の文化といわれるアニメーションにおいてさえ、今はそうである。

こうした状況が支配的になると、それこそジャンルそのものの潮流を変えてしまうような革命的な作品は生まれ難くなってしまう。それは、「ハイジ」「ヤマト」「ガンダム」などを見るまでもなく、新しい〝何か〟を生み出すような作品は、それ自身、過去に類例を見いだせない〝新しい〟作品だからである。そして、そうした新しい作品は、当然、何の数字的データも持ち合わせていないだけに、確実さを重視する目から見ると、不透明なものとしか映らない。

今、その不透明さを受け入れる力をアニメーションは失おうとしている。つまり、ジャンルがつまらなくなってきているのだ。

もちろん、こうした見方には反対の意見もあるだろう。今のアニメも十分におもしろいし、魅力ある作品も多い、とみる人もいると思う。

しかし少なくとも、まだ比較的何かができた時代のアニメーションがもっていた、ことばにならないけれどもなんとなく突き動かされるような、一種訳のわからない躍動感を、今のアニメがもっていないことは確かである。それが証拠に、現在アニメーションの将来に夢を抱いている人はほとんどいないし、発想なり行動なりの原点になる作品もない。

だが、それでもまだこのジャンルは決して死んではないと思う。重くのしかかる否定的状況の中で、新しい芽は確実に芽生え、そして、新しい花を咲かせようとしているのだ。

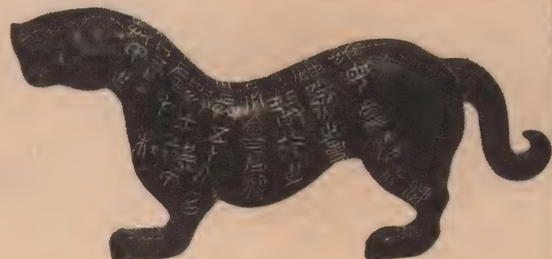


続編企画ばかりが目立つ中で、はたして、新しいアニメーションの動き、ムーブメントは生まれるうるのだろうか

NT

大字源

NEWTYPE編集部編



角川書店

編集のことば

1. 本事典は、アニメ専門用語ならびに百科全般にわたる事項、用語のうちで、「月刊ニュータイプ」に主に関連があると思われるものを広く収集し、その重要なものを網羅した。ことばの定義を簡明に与えることを主眼としたため、多少難解かつ説明不足のきらいもある。収載項目は、全部で108ある。

2. 現代語はもとより、古代、中世、近世にわたって、わが国のアニメ界とあらゆるアニメ用語を広く求め、そのうちもっとも基礎的と思われる語を選び、その語義・用法などを特に詳述した。

3. 語彙、語法は、編者の説を中心にして、諸家の説には目をつむった。

4. 収載範囲は、哲学、宗教、歴史、地理、政治、法律、体育、語学、文学、教育、自然科学、医学、産業などにはいっさいふれず、ひたすらアニメっ子のためのアニメっ子によるアニメっ子の事典とすることに、意を用いた。

5. 挿図は15点収め、解説文の理解を助けるよう配慮した……が、はたして⁉

凡例

1 活用法

アニメ仲間（どんな仲間?）と歓談中、ほかの人々が当然のことのように駆使しているアニメ用語（例「ーこんどのガンダムさあ〜……」の「ガンダム」など）について自分は知らないことばだが、その場の雰囲気でどーも聞きづらいなんてときに、家でこっそりひもとくのに便利。

2 区分、用例

語義がいくつかある場合は、語源およびアニメおよびニュータイプに近いものから列記した。

語義の理解を助けるため、つとめて用例を掲げ、「　」で示した。何度も繰り返し練習し、唇にたたき込め！　これでもうあなたはアニメっ子でバンザイ。

3 取扱い注意

本事典はプロ(何のだっての)仕様のため、トーシロウの方は気をつけて。こんなもの使って「たほいや」(CX系の深夜番組。「広辞苑」に載っている見慣れぬことばをクイズにする)ごっこなどをやり全部覚えてしまったら、もー大変。二度とあっちの世界には戻れないから要注意！

あ行

ああっめがみさまっ【ああっ女神さまっ】「コミック・アフタヌーン」(講談社)連載中の藤島康介の大ヒット作（本誌84頁参照)。三神が歌うCDも大人気(オマケについている三神の水着のきれっぱしが功を奏してか⁉)。現在、OVAでイチバン人気。

あいてむ【アイテム】コンパクトやペンダントや銃など、キャラクターが使用する小道具。番組でこれが使われた回の翌日からはオモチャの売れ行きがグッと伸びる。

あいどるてんしようこそようこ【アイドル天使ようこそようこ】'91年テレビ東京系で放送されていた人気アニメ。アイドルをめざす女の子のお話。主人公のようこの、ちょっと足りなそうなところや、ロリちっくな顔立ちに似合わぬ脚線美など、現在人気爆発の某アニメの原点が、ここに。

あしづかおさむ【足塚治虫】「素人勝抜き漫画合戦」の審査員のひとり。「もう何も申しません！　とにかく漫画はこの人が始めちゃったンすからあきれた人物だ。漫画の神様！」(by江口寿史)。このモデルとなった人物→てづかおさむ。

あにそん【アニ・ソン】①アニメ・ソングの略。②アニメ作品の主題歌や挿入歌。なぜか聴くと元気が出るものが多い。例外もある(「タイガーマスク」のエンディングなど)。③「どうしてカラオケ・ボックスには、あの名作シリーズの歌がないのだ⁉」と憤るファンも多いはず（特撮ものもね)。④ブロロロロー!!!

あにめ【アニメ】①アニメーションの略。ちょっとずつ違うように描かれた複数の絵を連続して見ることにより、動いているかのような錯覚をおこし、ひいてはそれに関連する商品（おもちゃ、ぬりえ、ペンダント、アニメ情報誌等）がむしょうにほしくなる悪魔の映像。②原理は、授業中にノートや教科書の隅に描くぱらぱら漫画と同じだ。③低迷する日本映画界では、へたな実写作品より稼いでしまうことが多いため、あまりに製作費がかかりすぎる実写や特撮企画の逃げ場所となっているという面も。

あにめーたー【アニメーター】①アニメーションをつくる人。②「アニメーターなどというものは、生かさず殺さずよ」「スポンサー様もお人が悪い」「フフッ。そういうオヌシも視聴率を稼いでおるではないか」「お互いワルですなあ」「うわはははは…」

あにめしょっぷ【アニメ・ショップ】アニメ関連商品を扱う店。日本のアニメが大好きで日本語を勉強して来日したフランス人のピエール君が訪れた場所としても有名。ただし、ピエール君の職業は謎。

あぬしー【アヌシー】①フランス東南部の小都市。②カンヌ映画祭からアニメーション部門が独立したアヌシー国際アニメーション・フェスティバルの開催地。世界各国から多数のアニメーション作家たちが集いにぎわう。

あふれこ【アフレコ】①アフター・レコーディングの略。テレビや映画で画面を先に撮影し、後から声や音を画面に合わせて録音すること。②「ドラゴンボールZ」の悟空・悟飯2役をこなす野沢雅子さんは悟空と悟飯の会話シーンも別録りせずにその場で一発OKの名人芸をもつ。

あるるん【あるるん】①劇場版「アルスラーン戦記」(田中芳樹原作）の主人公・アルスラーンの略。②語源は某キャラクター・デザイナー女史によるもの。③存在感ありすぎの部下に囲まれ影が薄い人。

いづぶちゆたか【出渕裕】日本初の「ウゴウゴ・ルーガ」出演メカ・デザイナー。一気に全国に名をとどろかす。

いろしてい【色指定】どこにどんな色を塗るのかを指示すること。あるいはその指示を書いたもの。アニメの絵の具にはそれぞれ番号があり、その番号を書くことにより指定する。

うぉるとでぃずにー【ウォルト・ディズニー】（1901～'66年）世界一有名なアメリカの漫画映画製作者。代表作「ミッキー・マウス」「白雪姫」「シンデレラ」等。近年のディズニー映画「美女と野獣」「アラジン」にもその精神は受け継がれ世界中でヒットを続けている。

うごうごるーが【ウゴウゴ・ルーガ】もう説明の必要もないほど浸透したフジテレビ系の早朝サイバー子供番組。ちょっと見ないでいると、ルーガちゃんが成長しちゃっててびっくり。

うちきり【打ち切り】①終わりにすること。中止。②番組が完了していないのに諸般の事情（主に視聴率、スポンサー側の思惑）により途中でむりやりな最終回で結末をつけられちゃうこと。まれに視聴者の強い要望で復活することも。

うちゅうせんかんやまと【宇宙戦艦ヤマト】①'74年にTV放映され、当時は裏番組の「アルプスの少女ハイジ」により視聴率的には苦戦を強いられたが、熱狂的ファンがつき一躍ブームに。その後、これで最後か、今度こそ最後か、という局面を乗り切り(?)現在に至る。アニメ界の「火の鳥」なるか!? ②スタッフ募集中。

うでげ【腕毛】加山雄三。

うわさ【噂】「ナウシカ2」「セーラームーン劇場版」「ブレードランナー2」「ターミネーター3」「エイリアン4」「ロボコップ4」

えいが【映画】①時間芸術の一形態。②なくても死にはしないが、ないとつまんないね。③「ビデオにして元とりゃいいか」（製作者）。④「ビデオで見りゃいいか」（客）

おかざきたけし【岡崎武士】「精霊使い（エレメンタラー）」(COMIC GENKi好評連載中)の作者。草彅氏のお友達。CLAMPさんともお友達。業界随一の事情通。

おたく【おたく】①相手の家の尊敬語。②相手の尊敬語。③ある物事に対し異常に熱中、執着している人。特にアニメや漫画が好きな人が、他人に呼びかけるときに「おたくはどんなアニメが好き?」なんてばか丁寧に話すところに源を発している。〃長髪で色白〃が特徴とされているが、パンク少年とは違う。

おたっきー【オタッキー】①「おたく君」の愛(?)称。②↓トレッキーとは「スター・トレック」の熱狂的マニアのこと。さらに、トレッカー、トレッキストと、紳士度と研究熱心度が増すにつれランクが変わる。日本にオタッカー、オタッキストが生まれるのはいつの日か。

おふれこ【オフレコ】①オフ・レコーディングの略。②内緒にしといてねの意味。③「いやぁ～、これはオフレコにしといてほしいんだけど…」などと、ちゃっかり言いふらすときに使う。

か行

かぜときのうた【風と木の詩】①竹宮恵子原作のOVA。②やるならガーッとやらんかい! ガーッと!!

かどかわはるき【角川春樹】角川書店社長。

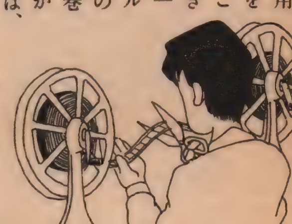
がれーじきっと【ガレージ・キット】モデルグラフィックスとホビージャパンを年間定期購読して参照。

がんだむ【ガンダム】一大ムーブメントを起こしたTVアニメ「機動戦士ガンダム」に出てくる白いモビル・スーツ（ロボットみたいなやつ）の名前。人気の高さから多くのシリーズがつくられ現在に至る。歌手の松岡英明も好き。

がんへっと【ガンヘッド】①世界初の実写特撮巨大ロボット・アクション映画。②主演は競泳用の海パンが似合う高嶋政宏。麻宮騎亜版の漫画あり。

きゃらくたーでざいん【キャラクター・デザイン】作品に登場する人物、動物等の外観を設定すること。ビジュアル的な完成度の高さが人気を左右するアニメにおいては、この段階で作品の成否が決まることがままあるため油断のならない仕事である。逆をいえば、魅力あるキャラクターをつくりさえすればそこそこの人気は約束されると言えよう。が、そこによりかかりすぎは禁モツだ!

きりだし【切り出し】アニメ制作会社やビデオ会社から買うなり借りるなりしてきたフィルムから、使用するコマを切り取ること。糸巻きのように一方のロールから一方のロールへ巻き取りながらの作業は、深夜、編集部でひとりでやってると、このほかわびしい。フィルムの巻数が多いと翌日右腕が上がらなくなることも。


〈切り出す人〉

くー【COO】「遠い海から来たCOO」（景山民夫／角川書店）のこと。ことし末アニメ化。現在、コミックGENKiに連載中（前田真宏）。

くーる【クール】①治療期間、治療の周期をあらわすことば。②テレビ番組の放送回数の単位。13回で1クール（約3か月）とする。1年間で4クールということになるが、覚えておいたところであまり役に立ちそうにない単位である。

くさなぎたくひと【草彅琢仁】↓「はくびしん」の項を参照。岡崎氏のお友達。

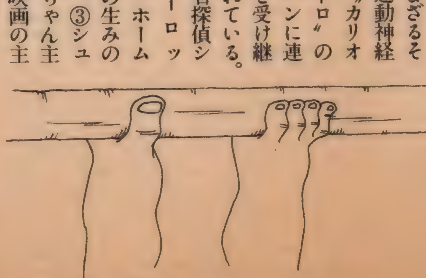
くらりす【クラリス】「ルパン三世カリオストロの城」のヒロイン。可憐でいながら芯はしっかりしているお姫様ぶりは、多くの〃おじさま〃ファンを魅了した。

くりーんあ(な)っぷ【クリーン・ア(ナ)ップ】①野球では3番、4番、5番打者のこと。②アニメではラフに描いた絵を原画に仕上げること。「ラフを火曜日に、それを――したものを木曜日にお願いします。…えっ、無理? そ、それでは、金曜日では、ええっ、それも無理!? …来週ですか……はぁ、じゃ、それでお願いします……（ふう）」

げんが【原画】①セル画に写す元となる絵のこと。えんぴつで描かれる。②セル画やフィルム素材が間に合わない場合にアニメ雑誌の穴埋めに使われることも。

げんさくもの【原作もの】アニメをつくるにあたって、既存の作品をもとにしてつくられるもの。うっかりへたぴーな脚本家に頼むよりも危険は少ないが、原作のよさがじぇんじぇん出せないと悲惨な結果にもなりやすい。

こなん【コナン】①'78年4月～10月にNHKで放送されたアニメ番組「未来少年コナン」のやんちゃな主人公。超人的な体力をもち、殺伐とした近未来社会をたくましく生きる。のび太くんでおなじみの小原乃梨子がりりしい男の子を好演。コナンのたくまざるその運動神経は、〃カリオストロ〃のルパンに連綿と受け継がれている。②名探偵シャーロック・ホームズの生みの親。③シュワちゃん主演映画の主人公。


〈足の指だけでぶら下がるコナン〉

こんて【コンテ】①クレヨンの一種。②映画コンティニュイティ（連続）の略。映画の撮影台本。場面の内容、台詞などを詳細かつ具体的に書いたもの。

さ行

さいしき【彩色】①色を塗ること。②原画がトレスされたセルに、色指定に従って色を塗ること。

さくがかんとく【作画監督】アニメにおける絵についての責任者（なんじゃそりゃ）。原画も描いたりする。


〈世界最古作画監督壁画〉

さざえさん【サザエさん】長寿アニメ。サザエさんて意外に若いんだよね（24歳）。

しあげ【仕上げ】彩色のこと。

しーぶい【CV】キャラクターズ・ボイスの略語。声優。ニュータイプの造語。

しちょうりつ【視聴率】①テレビが見られている割合。②1%あたり約100万人と言われている。③低い↓10%以下。高い↓30%以上。オバケ↓50%以上（「NHK紅白歌合戦」など）

しゃんはいかいじんぞく【上海丐人賊】①ニュータイプ'92年12月号～'93年2月号で3回連載された草彅琢仁の漫画。②COMIC GENKi 7月号（6月28日発売）から連載再開！乞うご期待。


〈東风〉

しょめいうんどう【署名運動】①お気に入りの作品が打ち切られそうになったり、キャラクターが殺されそうになったりしたときに、ファンが賛同者の署名を集め、テレビ局や制作会社に放送延長や助命のお願いを行なうこと。②最近は少なくなったなあ。

すすめでんぱしょうねん【進め！電波少年】映画が無理なら「電波少年」というアニメをつくってほしい～！（パチパチ）

すとつー【ストII】①カプコンから出ている人気ゲーム・ソフト「ストリートファイターII」の略。②自宅作業の多い作家陣などがえじきになりやすい、悪魔のソフト。③原稿待ちの編集者もつい熱中して作家に怒られることも。④ゲーセンに対戦型が出て以来、知らないうちに強い奴が参加してきて、あっという間に負けたりする。おちおち練習もできなくなった。

せいじんこみっく【成人コミック】ダダ、バルタン、メトロン、ヒッポリト…。

せーらーむーん【セーラームーン】女の子5人組がミニ・スカートでたたかう超人気お気軽、極楽アニメ。舞台劇にもなった。


〈埼玉県/富沢美智恵後援会勇者・？歳〉

せっしゃ【接写】①忍者ハットリ半蔵（って、それは「拙者」！）。②フィルムを直接カメラで撮影してしまう方法。

せっていしりょう【設定資料】作品の世界観を具体的に絵で表わしたもの。キャラクター、背景、メカ、美術（小物、インテリア等）をこれによって統一する。

せる【セル】①「ドラゴンボール」に登場する、ものごっつう強い悪者。②セルロイド（ニトロ・セルロースに樟脳を混ぜて製した半透明のプラスチック）の略（たぶん）。これに描かれた絵をセル画と呼ぶ。人気のためか、高値のためか、セル画を盗むというやつもいて、いかん。③昔のセルは、可燃性だったので、火がつくとロケットのように空を飛んだらしい（昔のセルを持っていても実験しちゃだめだぞ）。

せるさつ【セル撮】セル画を写真撮影すること。


〈飛ぶセル〉

そうかんごしゅうねんきねんにゅーたいぷだいぱーちー【創刊5周年記念ニュータイプ大パーティー】①読者招待もした文字どおりの盛大な催し。②豪華ゲストも多数来場。③料理（？）は水だけ。

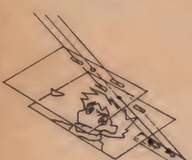
た行

だいにっぽんいんさつさま【大日本印刷様】世界有数の大印刷会社。ニュータイプも刷ってもらっている。担当の営業の人もナイス・ガイばかりだ！

だいにっぽんいんさつのおがたし【大日本印刷の尾形氏】ニュータイプ担当のナイス・ガイだ！

たいむぼかん【タイムボカン】竜の子プロ（現IGタツノコ）制作のヒーロー・ギャグ・アニメ。その後、シリーズ化され、悪玉3人トリオのフォーメーションを不動のものにした。OVAで復活！

たっぷ【タップ】①小堺一機が芸能人かくし芸大会で披露するダンス。②アニメのセルとセルを重ねるときに位置をあわせるために使う金物。


〈タップ〉

ちょうじゅこーなー【長寿コーナー】本誌創刊当時より現在まで続いているコーナーのこと。①アニメランド（アニメ、特撮番組の放送予定リスト）。最初のころは各地方ごとのデータ（ただし、これはタイトルと放映時間のみ）も載せていた。②読者コーナー（文字どおり読者のおたよりコーナー）。「READER'S FORUM」としてスタート。③NEWTYPE EXPRESS（アニメ最近情報）。創刊当時の最近（最新）情報は「第2回日本アニメフェスティバル・アトム賞『とんがり帽子のメモル』、最優秀作品賞『風の谷のナウシカ』」というのや、「アジア初の国際アニメーションフェスティバル、広島で開催」など、時代をほうふつとさせる記事が満載。④NEWTYPE PRESS（さまざまなジャンルの人がエッセイを寄せてくださってるコーナー）。「ゆうきまさみのはてしない物語」は、創刊時から現在まで、まさしくはてしなく続いている。あっぱれ。⑤ピープル・カレンダー（業界人近況）。一見地味だが人気が高いコーナー。原稿は描かないが、ここには書くという作家もいるくらい。

ちょうな【手斧】材木を粗く削るのに使う鍬形の大工道具。アニメには関係ない。

てこいれ【テコ入れ】①ある点に力を入れて助力し、順調な方向にものごとをもっていこうとする方法。おもに下落するのを食い止める場合に用いられる。②アニメでは、オープニングのリニューアルや新キャラクターの投入。雑誌では、表紙や判型（紙の大きさ、形）を大胆に変えることによりテコ入れする。しかし、こういうあがきをするようになると、もういけない。

てづかおさむ【手塚治虫】1928年11月3日生まれ。大阪府豊中市出身。「鉄腕アトム」「リボンの騎士」「火の鳥」「ジャングル大帝」「マグマ大使」「W3（ワンダー・スリー）」「どろろ」「ふしぎなメルモ」

「海のトリトン」「ブラック・ジャック」「三つ目がとおる」等、数多くの作品を残した漫画の神様。1989年、昭和の終わりとともに永眠。合掌。

どうが【動画】文字どおり動きを表わす絵。立っている人が座るシーンを例にとると、原画の人が立っているところと座っているところの2枚の絵を描いたとすると、その間の動きを動画の人が何枚かに分けて描く。昔は、木の葉が舞い落ちるところを描くのが動画の練習の始めだったというのは有名な話。日本のTVアニメの草分け「鉄腕アトム」はたった2枚（後ろ頭と正面の顔）でアトムを振り返らせたという。はたしてこれも動画と呼ぶか!?


〈ふりむき〉

とうかこう【透過光】特殊効果のひとつ。光が光ってるところを本当に光をあてて光らせる効果。色を塗っているわけではないので、セル画を見るとその光は存在していない。

とくさつ【特撮】①特殊撮影の略。②「五星戦隊ダイレンジャー」「特捜ロボジャンパーソン」などは特撮番組と呼ばれる。③特撮三種の神器→「特殊技術」「ギャル」「多々良純」

とれす【トレス】紙に描かれた原画をセルに写すこと。ハンド・トレスは手で、マシン・トレスは機械で行なう。セルさえ入ろうもんならコピー機でもできる。いろいろ便利だが、上手な人のハンド・トレスがいちばん美しいと言われている。

とれんでぃどらま【トレンディ・ドラマ】もはや死語と化し、ブームもすっかり去ってしまったが、まだやり残したジャンルがあるざんしょ。そう、今度はアニメ界を舞台にするざんす。やるざんす。無理ざんす?

どろろ【どろろ】手塚治虫原作の白黒アニメ（'69年）。その後、「どろろと百鬼丸」にタイトル変更。冨田勳作曲、藤田淑子が歌う主題歌がすばらしい。今、テレビで放送するとセリフの半分が消されてしまう…。

な行

なうしか【ナウシカ】①「風の谷のナウシカ」（宮崎駿／徳間書店）の主人公。月刊アニメージュに好評時たま連載中。必ず完結させてほしい。②そういえば、安田成美が「ナウシカ・ガール」に選ばれてたことをキミはおぼえているか!? おまけに主題歌まで歌ってたぞ!

にゅーたいぷ【ニュータイプ】①「機動戦士ガンダム」に出てくる特殊な能力をもつ新人類のこと。②ガンダムにあやかった名前をつけたアニメ情報誌。'93年7月号で通巻100号を数える。

にゅーたいぷくらぶ【ニュータイプ・クラブ】①ニュータイプ読者のために編集部が主催している会。②F.S.グッズやクラブ・オリジナル・グッズの制作、通販を行なう。③会報は年4回。会期は5月～翌年4月（1年間）。④会員同士の集会「お茶会」もある。⑤毎年1、2月号で会員を募集するので、興味のあるよい子はぜひどうぞ。

は行

はくびしん【白鼻心】食肉目の獣。台湾、中国南部地方の産で、狸に似て、顔に白い縦斑がある。イラストレーターの草彅琢仁氏の家にも棲息する。


〈想像図〉

はらだともよ【原田知世】本誌で「原田知世の不思議写真館～ワンダーショット」や「知世のときめきダイアリー」などのラブリーなコーナーをもつ。

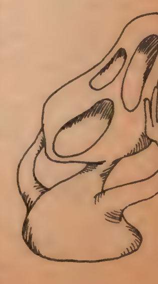
はりつき【張り付き】①「ひ～、もう間に合いませんがな!」というときに、編集者が作家を恨みがましい様子で見張ること。ときには複数の編集者がかち合うこともあるので気をつけたい（何に?）。②野村宏伸が遠藤周作にしていること。

ひいずるところのてんし【日出処の天子】①聖徳太子を主人公にした山岸凉子の人気漫画（「ララ」連載／白泉社）②アニメ化してほしいような、してほしくないような…。

ひがりがおか【光が丘】①東京都練馬区にある団地密集地帯。②その近未来的環境および景観により、たびたび特撮番組のロケ地として使われる。

ぴしっ【ピシッ】「巨人の星」（原作・梶原一騎、画・川崎のぼる／講談社）で、最終回近く、主人公・星飛雄馬の左腕の伸筋と屈筋が切れる音。これにより星飛雄馬の投手生命が終わる。が、その後、右投げの投手として復活!

ひめい【悲鳴】①返却しなければならないイラストをこすってしまい、画面を取り返しのつかないほど汚してしまったときに編集者が上げる声。②「聖闘士星矢」（劇場版）のセルをエレベーターの扉にはさんでクシャクシャにし、あまつさえエレベーターを止めてしまったときに、映画宣伝マンが上げた声。

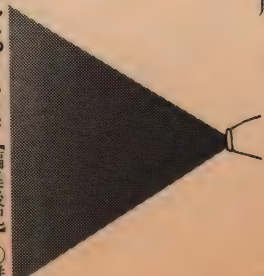

〈心の叫び〉

ふぁいぶすたー【ファイブスター】①本誌に連載中の漫画「ファイブスター物語（ストーリーズ）」（永野護）。②途中から読んでストーリーがわからない人は、単行本1～5巻を100回読め。

ぶすう【部数】本を刷る数。多ければ多いほどよい。が、返本されたら元も子もない。ちなみにニュータイプの部数はジャンプに遠く及ばない（ま、たいていの本は及ばないんだけどさ。ちぇっ）。

ふで【筆】画材。ときどきシャンプーで洗ってリンスしてやると長もちする（本当）。

ぶらし【ブラシ】エア・ブラシの略。空気圧によって絵の具を霧状に吹き付ける技法。ハイライトやグラデーション等に使用。


〈エア・ブラシ〉

へんしゅうこうき【編集後記】①雑誌などのうしろのほうのページに載っている編集者のうめき声。②疲れきっているときに書くことが多いためタガがはずれきった文章になりやすい。③唯一、自分のことばで書ける場所なのでハメをはずしたついでにギャグまではずしてしまうカッコ悪いコーナー。

へんぽん【返本】つくった本が売れ残って返ってくること。いやなこと。

ま行

まえだまひろ【前田真宏】①謎のおふらんす人。②「ミーは死んだザンス」が口ぐせ。③業界七不思議「宇宙戦艦ヤマト」の広告に名前がうっかり載っているがいったいぜんたい何をやるというのだろう。

まるしー【©】①copyright（著作権）の頭文字。万国著作権条約（1952年成立。日本加盟'56年）により協定された著作物の出版権。②へー。

まんがのもり【まんがの森】①漫画専門店。②東京都内5か所（新宿、高田馬場、吉祥寺、池袋、渋谷）に店舗がある。その豊富な品ぞろえに、目まいすらおぼえてしまうほど。

まんだらけ【まんだらけ】①漫画の古本専門店。②東京都中野区に4店舗近在している。本店(少年漫画)、レディス店(少女漫画)、マニア店（同人誌等)、スペシャル店（おもちゃ、ムック等）と、ジャンルごとに分かれており、絶版になったものもここならある！(ものもある)

みどろがぬま【ミドロが沼】「鉄腕アトム」のTVアニメでスタジオ・ゼロ（赤塚不二夫、石ノ森章太郎、鈴木伸一、つのだじろう、藤子不二雄らがいた）で制作した回。いろんな顔のアトムが入り乱れたという、今となっては貴重な作品。フィルムが残ってないのが惜しまれる。

みやざきはやお【宮崎駿】①日本一有名なアニメーター。代表作は「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」等。スタジオ・ジブリ代表。②早く「もののけ姫」をアニメ化してください。

むっく【ムック】①雑誌と書籍の間の出版物。雑誌形態の書籍。②ガチャピンの相棒（モップみたいなほう）。



〈コンビ〉

や行

やきつける【焼き付ける】①焼いて付けること。②「目に焼き付ける」（「ああっ女神さまっ」の悩殺せくしぃ水着ポスターをしっかり記憶しておくこと）



〈ぬおーーっっ！〉

やらずぼったくり【やらずぼったくり】（こんなことばはおぼえなくてもよい）

ゆがしまおんせん【湯ヶ島温泉】①「伊豆の踊子」ゆかりの、文学情緒あふれる温泉。②伊豆箱根鉄道修善寺駅からバス30分湯ヶ島温泉下車。③単純泉、含亡硝石膏泉。胃腸病、高血圧、リューマチなど。

よっちゃんいか【よっちゃんイカ】①正式名称は「よっちゃんのス漬けイカ」。

ら行

らっきょう【辣韮】①ユリ科ネギ属の多年草。②漬物にすると激うま。昔、TVドラマで、小学生くらいの女の子が同級生にいじめられ、らっきょうを机（ふた式の）の中にぎっしり詰められてしまう…というシーンがあり、全国のらっきょうフェチをうらやましさで悶絶させた。



〈らっきょう〉

りていく【リテイク】動画や撮影、アフレコなどのやり直し。キャラクターの動きが粗かったり、色の塗り間違いが見つかった場合など理由はさまざま。時間と製作費に余裕のないTVアニメでは、問題があっても「しょうがない。オン・エアしちゃえ」となることが多い。

るびーかいろ【ルビー・カイロ】①角川映画。②公開時には関係各位に「ルビー・型カイロ」(一見梅干しふう)が配られた。

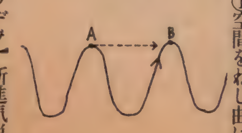
れすぽんす【レスポンス】①写真修整のときくりだす荒技。②例「ここんとこ、見えるとまずいんでーーかけてください」(編集)、「え、ものすごく高いんですよ。いいんですか」(大日本様)、「あ、やっぱ、いいです。見えても絶対まずいってことはないっすからね。アハ、アハ、アハハハ…」(編集)

れっくす【REX】①角川映画（本誌24頁参照)。②前売券好評発売中。

ろぼっとあにめ【ロボット・アニメ】①「機動戦士ガンダム」みたいなアニメ。②昔の「マジンガーZ」なんかは、壊れるとバネとかネジとかがびよよ～んと飛び出してきたりして、なかなかポエジーだった。③巨大ロボット・アニメの第1号は「鉄人28号」である。④「タンクタンクロー」はロボットか!?「ロボット三等兵」はアニメ化しないのか!? 謎は深まるばかり…。

わ行

わーぷ【ワープ】①空間をねじ曲げて、すっ飛んでいっちゃうこと。②詳しく知りたいというまじめなあなたは、こんな本を読んでたら、ノンノンノン。



〈原理〉

わだらぢを【和田ラヂヲ】新進気鋭の漫画家（本誌152頁参照)。

わりした【割下】①煮物を煮るためにあらかじめ、だし汁、しょうゆ、砂糖などを煮立てておいた汁。たれ。

わんふぇす【ワン・フェス】①ワンダー・フェスティバルの略。②年2回、1月と8月に開催されるガレージ・キットファンのお祭り。ガレージ・キットを売ったり買ったり、一堂に会した完成品を目のあたりに見ることができる。当日、会場でしかおめにかかれないものを求めて、モデルファンが集結する。ニュータイプ関係の作品（F.S.S.、ダークエンジェル、マリオネット等）のものもある。③レース・クイーンは来ない。

ん行

んちゃ【んちゃ】「Dr.スランプ・アラレちゃん」で、主人公のアラレちゃんが「こんにちは」等の意味で使うことば。

illustrated by KOIKE MONJA

Newtype
THE MOVING PICTURES MAGAZINE
POSTERS 94

1985

7 MOBILE SUIT Z GUNDAM

イラスト＝大河原邦男／「機動戦士Ｚガンダム」より●創刊４号目にして初めて付いたポスター付録の記念すべき第１弾。ニュータイプといえばガンダムといった当時のアニメファンのニーズにこたえ、他のどのアニメ誌よりも早くＺガンダムの全身図を大型ポスターという形で強烈なインパクトとともに提示した。ちなみにＺガンダムが番組に登場したのは、'85年７月27日に放映された第21話からだった



7 宇宙皇子・各務

イラスト＝いのまたむつみ／「宇宙皇子」より●初期の付録ポスターは両面印刷されているものもあった。第１弾のポスターの裏面は、当時まだ映画にもＯＶＡにもなっていなかったものの、アニメファンにも多くの愛読者をもっていた藤川桂介原作の書き下ろし異次元歴史ロマン・宇宙皇子を登場させた。ノベルズのイラストよりもはるかに大きなポスターサイズの皇子と各務の姿に喜んだファンも多かった



8 Sailla Mass 20 years old

イラスト＝安彦良和／「機動戦士Ｚガンダム」より●20歳になったセイラがみずから撮った写真で、アムロ宛に送られてきたもの…というコンセプト。１作目の「機動戦士ガンダム」と、２作目の「Ｚガンダム」の間の空白の７年間を埋める意味合いをもつポスターで、ガンダムファンの「セイラを見たい！」という夢をかなえた。Ｚガンダムのメーンキャラよりセイラが先にポスターになるとは、ＮＴらしい



8 Character Voice in Okinawa



撮影＝高橋康昭／モデル（右から順に）＝川村万梨阿、岡本麻弥、日高のり子、小幡洋子、太田貴子●ベルトーチカ・イルマ、エマ・シーン、浅倉南、マジカルエミ、クリィミーマミの人気キャラクターボイス(ＣＶ)５人を沖縄で特写するという本誌の巻頭企画に連動した付録ポスター。撮影はこの年の６月に行なわれたのだが、例年なら明けているハズの梅雨が続いていてこの写真もホンの一瞬の晴天に撮った

1 Zガンダムすごろく



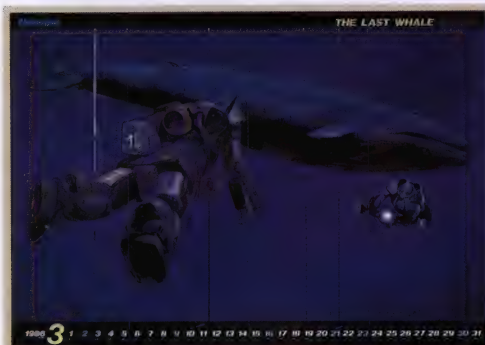
キャラクターデザイン＝北爪宏幸／すごろく製作＝スタジオ・ハード／「機動戦士Ζガンダム」より●お正月といえばすごろくというちょっと安易な企画から生み出された付録。すごろくに使用するコマは本誌のとじ込み付録・Ζガンダム着せ替え人形（Ζのキャラ…ってコトだぞ!!）についていてカミーユ、シャア、ジェリド、シロッコの４人。Ζのラストを予見させる(!?)なかなか上がれないすごろくであった

9 SUPER GUNDAM

イラスト＝大河原邦男／「機動戦士Ζガンダム」より●大好評だった７月号のΖガンダムポスターに続くガンダムメカポスター第２弾。Ζガンダムの登場により主役メカの座を奪われた(?)ガンダムMKⅡをサポートする強化ユニットがGディフェンサーだ。そのGディフェンサーとMKⅡが合体することによって完成するスーパーガンダムの勇姿。機動性も攻撃力もスーパーの名にふさわしく大幅にアップ!!



3 THE LAST WHALE



イラスト＝末弥純／「機動戦士Ζガンダム」より●宇宙世紀0083。南太平洋の水面下50mで最後の一匹となったシロナガスクジラの生態観察を行なう連邦軍のマリンハイザック。戦闘マシンとして以外のモビルスーツのあり方を見せるというコンセプトで描かれたイラストで文庫本の口絵としても使用された。ちなみに'86年２月号の次号予告にはフォウ・ムラサメポスターがつく！となっていたため質問も殺到!?

9 少女

イラスト＝美樹本晴彦／オリジナル作品●「超時空要塞マクロス」や「超時空世紀オーガス」で人気のキャラクターデザイナー・美樹本晴彦のニュータイプ初登場がこのポスター。本誌の表紙には「少女」と銘打たれている。あどけない表情と美しく長い髪。それでいてちょっぴりドキッとさせるしぐさ…。ニュータイプポスター史上(!?)初のオリジナル作品ということでそれにふさわしい力作となった。ドキドキ♡



4 MOBILE SUIT ZZ GUNDAM

イラスト＝小林誠／「機動戦士ガンダムΖΖ」より●ΖΖガンダムのメカデザイナー・小林誠によるΖΖ。Ζのときと同じく他のどのアニメ誌よりも早く大型ポスターにするというコンセプトで製作された。とはいうものの当時、ΖΖのデザインがなかなか決定せず、ポスター入稿日ギリギリになってようやくＦＡＸで届いたΖΖの決定稿を担当が持ち、小林誠宅を直撃して超特急で描いてもらったという裏話も



1986

1 INNER EXPLANATION OF Z

イラスト＝田中精美／「機動戦士Ζガンダム」より●INNER EXPLANATIONとは内部透視図のこと。二代目編集長㊦の「かつての少年誌の図解モノのページのノリで！」というコンセプトから生まれたポスターだ。引き出し線や英文メカ機能表示とあくまでもカッコよく美しく!! 田中精美の腕のサエとあいまってこれまた話題のポスターとなった。初めてカレンダーの日付もついている一枚



5 鼓動



イラスト＝高田明美／オリジナル作品●'85年７月号の本誌センターとじ込みカレンダーが好評だったことからそのイメージでポスターをという依頼のもとに描かれた作品。当時開催されたグループ展・ファンタシックスでも話題となった。裸婦画とはいえ、小鳥や波紋が醸し出す不思議な清涼感が漂う。タイトルの「鼓動」は'86年９月発行の画集・「高田明美画集・アートブック」に収録された時点で一般に知れ渡った

6 LED MIRAGE



イラスト＝川上恭弘／「ファイブスター物語」より●'86年4月号よりスタートした永野護のＳＦコミックス「ファイブスター物語」が早くも大人気。そこに登場する巨大人型メカ・モーターヘッドをポスターに…という企画が出たが原作者は連載で手一杯。そこで原作者からの希望でタミヤの戦車プラモなどのボックスアートで有名な川上恭弘のレッドミラージュの登場となった。テクニックのさえが光っている

7 PANZER WORLD Galient



イラスト＝出渕裕／「機甲界ガリアン」より●作品のほうはすでにテレビ放映も終了していたが、これが出渕裕のガリアンの決定版だ!!というポスターをつけようということから企画された一枚。もちろんＯＶＡ作品「機甲界ガリアン　ＰＡＲＴⅢ　鉄の紋章」の完成にも合わせてはあるのだが…。城郭から出陣していく巨大な人馬兵の姿を躍動感にあふれるタッチでみごとに描き上げ、読者大満足の傑作となっている

8 TOMOYO HARADA 1986 CONCERT TOUR



撮影＝吉田茂一／原田知世1986コンサートツアーより●'85年8月号のＣＶイン沖縄以来の実写ポスターは予想どおりの原田知世。角川映画「時をかける少女」以来の熱狂的なファンが●スタッフにもいたらしい。当時は本誌でも「原田知世のときめきダイアリー」という連載コラムが掲載されており、人気のほどがうかがえる。富士見書房より'86年11月に発売された「原田知世写真集」のパブリシティーも兼る

9 出撃



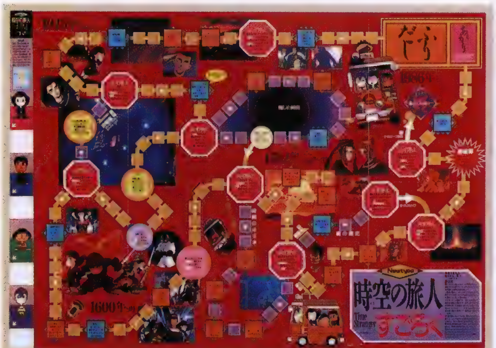
イラスト＝伊東守／「ファイブスター物語」より●ニュータイプ付録ポスター担当回数ナンバー１のイラストレーター・伊東守の初登場作品。モーターヘッドキャリアから出撃していくクロスミラージュの勇姿を描いている。'86年６月号付録の川上恭弘バージョンのレッドミラージュ同様、Ｆ.Ｓ.Ｓ.の別の世界を見せてくれた。ちなみに本編のストーリーにはこのような出撃シーンはありませんのでよろしく！

10 GUNDAM TEAM



イラスト＝小林誠／「機動戦士ガンダムＺＺ」より●「ＺＺガンダム」の最強チーム＝ガンダムチームの集結ポスター。モビルスーツ支援メカのメガライダーにまたがったガンダムMKⅡと百式を中心に、ＺＺガンダムとウェイブライダー形態のＺガンダムが登場している。各メカが小林誠独特のアレンジで重厚さを増しており、画風とあいまって不思議な迫力と奥行きを感じさせる傑作ポスターとなっている

1 時空の旅人すごろく



イラスト＝小池伸一／「時空の旅人」より●'86年1月号のZガンダムに続く「お正月はすごろくだ!」シリーズ第2弾。今回は'86年12月に公開された角川アニメ「時空の旅人」をモチーフとしている。Zのときと違いコマは本誌とじ込みでなくすごろくに付いていた。やたら止まるところが多くなかなか上がれないと問題に…。時空の放浪者になる人も続出し、人生ゲームなみのキビシイすごろくと呼ばれた

2 Maharaja



イラスト＝橋本正枝／「マハラジャ」より●'86年1月号より連載が開始されたお元気コミックス・マハラジャ。その初期の登場人物がほとんど勢ぞろいしているお元気ポスター。タイトルの横に「新人類本舗製絶対元気的絵巻」とあるように、青龍に乗っていまにも飛び出してきそうなマハラの姿が印象的。イラストのまわりに配された獅子や龍や孔雀などがいかにも絵巻物的でいい味を出しているのも見逃せない

3 DRAGONAR-1

イラスト＝大河原邦男／「機甲戦記ドラグナー」より●「Z」「ZZ」に続くサンライズ作品ということでニュータイプ誌上でもイチオシしていたSFアニメ「ドラグナー」。その主役メカの描き下ろしイラストポスター。当時ブームのきざしを見せていたF1に注目し、デザインを多少車っぽくアレンジしてもらったドラグナー1。ポスター自体もこれまでの白地から車のポスターふうにデザイン処理してもらってある



11 宇宙皇子・各務

イラスト＝いのまたむつみ／「宇宙皇子」より●好評にこたえての「宇宙皇子」ポスター第2弾。担当との打ち合わせにより物語の一場面ではなく、当時人気だった「北斗の拳」のイラストのような、キャッチーなポスターを…というコンセプトで描かれた。皇子と各務のポーズはもちろんのこと、バックにあしらった風神、雷神、そして麒麟など大胆なピンクの色使いともども狙いどおりのポスターとなった



12 Four Murasame



イラスト＝北爪宏幸／「機動戦士Zガンダム」より●「NEWTYPEMATE OF THIS MONTH Miss December」とあるように、完全にプレイボーイ誌のプレイメイトを意識したコンセプトのポスター。待ちに待った北爪宏幸のフォウ・ムラサメポスターがここまでインパクトの強いモノになるとは読者も予想だにすることができなかったようで、発売後はものすごい反響を呼んだ1枚

1987 1 INNER EXPLANATION OF ZZ

イラスト＝伊東守／「機動戦士ガンダムZZ」より●'86年1月号のZガンダム透視図に続くZZガンダムの内部メカ透視図。ZZを左向きに立たせて左半身にメカ透視図を集中させて、見やすくなるように描かれている。引き出し線と英文メカ機能表示はそのままだが、前回と異なり1月のカレンダーはついていない。手にしているのは二連装メガビームライフルのみだがフルアーマーZZの内部図も見たかった



4 黄金の騎士



イラスト＝川上恭弘／「ファイブスター物語」より●'86年6月号のレッドミラージュに次ぐ川上恭弘モーターヘッドシリーズ第2弾。今回は第1話のラストで華々しく登場した黄金のモーターヘッド＝ナイト・オブ・ゴールドの勇姿。漆黒の空をバックにスパッドを抜いたナイト・オブ・ゴールド。背中には折りたたんだバスターランチャーも見える。黄金の騎士の名にふさわしい迫力イラストに仕上がっている

5 エルピー・プル



イラスト＝北爪宏幸／「機動戦士ガンダムＺＺ」より●'86年12月号のフォウ・ムラサメから半年もたたないうちに今度はプルの×××がおがめる(←下品／)のかと期待させた読者をみごとに肩すかしさせたプルポスター。アイドル路線でさわやかに明るくかわゆく…を前面に押し出してファンの心を洗い清めた作品（ホント!?)。いずれにしろ大人気で、'91年1月号のテレカ全員サービスでテレカにもなっている

6 DANCE



イラスト＝永野護／「ファイブスター物語」より●巨大なナイト・オブ・ゴールドの顔の前で踊るようにジャンプするラキシス。ほぼ同時に発売された「ファイブスター物語」の単行本1巻の表紙をそのままポスターにしたもの。本の判型の関係ですべては見られなかった表紙イラストもポスターになると完璧にすべてを見られるということで好評。以後、2巻の表紙を除いて単行本表紙ポスターは恒例となった

7 DRAGONAR-1



イラスト＝伊東守／「機甲戦記ドラグナー」より●舞台を宇宙から地球へ移したストーリーに合わせて、ドラグナー1を輸送する戦闘空母の甲板描写を行なったポスター。人物との対比でドラグナー3機の巨大さが視覚的に実感できる。現用兵器としてイメージできる空母と、未来兵器のメタルアーマーが同時に存在するＳＦマインドとしてのセンスオブワンダーにあふれる作品で、伊東守の手腕の冴えがすばらしい

8 MOBILE SUIT Re-GZ



イラスト＝小林誠&小林治（スーパー・コバヤシ・ブラザーズ）／「機動戦士ガンダム逆襲のシャア」より●'88年3月の公開と発表されたばかりの「逆襲のシャア」からメインモビルスーツのひとつ、リ・ガズィを早くもポスター化したもの。アムロの乗るモビルスーツだが、本当の主役のνガンダムはまだポスター化（というより誌面で紹介する）の許可が下りなかったためにこのリ・ガズィの登場となる

9 Laina



イラスト＝羽原信義&伊東守／「マシンロボ クロノスの大逆襲」より●マシンロボのヒロイン、レイナ・ストール。設定ではロボット生命体なのだがニュータイプ誌上ではもう女の子キャラとして人気爆発／ あのボディーはスーツという解釈で様々な衣装を着て登場。その極めつきがこのポスター。羽原信義の原画と伊東守のカラーリングで完成した。人気は高く、某社からガレージキットも売り出されたほど

1988

1 MOBILE SUIT ν GUNDAM PERFECT VERSION



イラスト＝伊東守／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●パーフェクトバージョンのＲＸ-93　νガンダム。映画の劇場公開前にはこの背中に装備されているフィン・ファンネルは秘密にされていたためここでようやくお披露目となった。フィン・ファンネルとはνガンダムの背中のバックパックにマウントされた放熱板状のビームポッドで、射出して相手を攻撃することや対ビームバリアーとして使用

10 MOBILE SUIT RX-93 ν GUNDAM



イラスト＝伊東守／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●この10月号から誌上公開が許可されたＲＸ-93　νガンダムをさっそくポスター化して読者に紹介。地球連邦軍側の主力メカ３機種が勢ぞろいしている。バックウェポンシステムを装備してモビルアーマー形態になっているリ・ガズィとジェガンをバックの宇宙ともどもブルー系で描き、νガンダムをきわだたせている伊東守のテクニックがすばらしい

2 D.Weapons



モデリング＝小林誠／「機甲戦記ドラグナー」より●イラストレーターでありながらモデラーでもある小林誠の、まさに面目躍如といったポスター。ニュータイプ100%コレクション⑧「機甲戦記ドラグナー２」でドラグナーのオリジナル３Ｄストーリーを展開した作品からの流用。アニメの設定をアレンジした３機のＤ兵器がまだ明けきってない早朝の空をバックに出撃していくさまがみごとにジオラマ化された

11 逆襲



イラスト＝末弥純／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●映画本編では宇宙空間での戦闘シーンしか見られなかったサザビーを末弥純のテクニックで地上戦のイメージで再現。モビルスーツでありながら「西部戦線異状なし」の兵士のごとく人間くさい(？)作品となっている。後方の２機のモビルスーツはネオ・ジオン軍の主力汎用モビルスーツのギラ・ドーガ。マシンガンを背負っている姿はまさに兵士!?

3 I am Murderer.



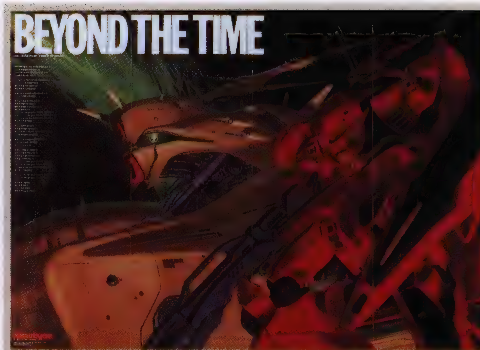
イラスト＝北爪宏幸／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●黒バックを背に白く浮かび上がる石膏像の美女３人…。上からララァ・スン、クェス・パラヤ、そしてハマーン・カーン。その前にたたずむ男はみずからを人殺しとうそぶく男シャア・アズナブルだった。女性の呪縛から逃れきれないシャアの心情を描いたポスターともとれる一枚で、この号より始まった「ＡＲＴ探検隊」と連動して作業工程も紹介

12 WHITENUTS



イラスト＝後藤隆幸／「赤い光弾ジリオン」より●タツノコプロ製作のＳＦアクションアニメ「ジリオン」。主役の３人、ＪＪ、アップル、チャンプに加えて、チームのマスコット的存在のエイミが登場。コスチュームはアニメの設定をまったく無視した後藤隆幸オリジナル。おしゃれにファッション誌っぽくという担当の要請にみごとにこたえてくれた。ＪＪのメガネやチャンプの帽子がポイントといったところ

4 BEYOND THE TIME



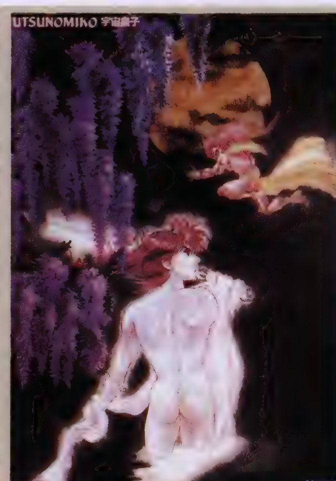
イラスト＝伊東守／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●クェス・パラヤの乗るネオ・ジオン軍のニュータイプ専用重モビルアーマー＝α・アジールとシャアのサザビー。付録ポスターで初めての試みとして「逆襲のシャア」の主題歌だったTMネットワークの「BEYOND THE TIME」の歌詞を掲載している。だがこのパターンは後にも先にもこの1回のみであった。αの巨大さが印象的だった

5 アムロ・レイ



イラスト＝北爪宏幸／「機動戦士ガンダム　逆襲のシャア」より●'88年3月12日に映画も無事公開され、'87年8月号から始まり合計7枚も付録となった「逆襲のシャア」関係ポスターの最後を飾ったのがこのアムロ・レイ。白いノーマルスーツでスポットライトの中を歩いてくる彼の姿はまさに孤独のヒーロー。少年だったアムロが青年となり、シャアとの長年の因縁に終止符を打つべく出撃していく姿のよう…

6 UTSUNOMIKO 宇宙皇子



イラスト＝いのまたむつみ／「宇宙皇子」より●劇場アニメ化が決定したことを記念して3度目の付録ポスター化となった皇子さま。夜の暗闇の黒としだれ藤の紫のコントラストがなんとも幻想的なうえに妖しいまでに美しい皇子の後ろ姿（しかもヌード!!）がファンのド胆を抜いた。夜空の満月に黒い雲と風神がかかり作品をさらに絵巻物ふうに仕上げている。身を清め、剣を手に戦いの決意をする皇子の姿…

7 オーラバトラー



イラスト＝高荷義之／「聖戦士ダンバイン」より●OVAとしてオリジナル作品がつくられた「ダンバイン」に連動して（？）付録となった高荷義之版ダンバインの世界。本格的ファンタジーの香りを感じさせる迫力の画風がアニメファンには驚きをもって迎えられた。竜を倒す騎士＝ドラゴンスレイヤーのイメージをダンバインに込め、巨大ダンジョン内で竜を剣で打ち倒すその姿。「ART探検隊」とも連動

8 BORG GET ON/



イラスト＝伊東守／「超音戦士ボーグマン」より●アニス・ファームのヒロイン人気がブームに火をつけた観のある「ボーグマン」も、ニュータイプで最初にポスターとなったときにはリョウとダストジードの対決シーンだったとは意外!?手前のダストジードが強大な敵としてリョウの前に立ちふさがっているイメージ。「BORG GET ON／」とはリョウたちがバルテクターを装着するときのキーワードである

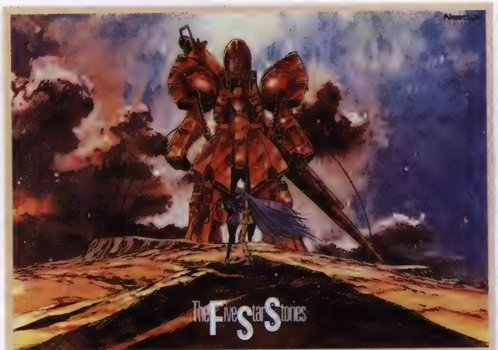
9 Asuka-gumi



撮影＝大塚俊一／「花のあすか組／」より●'88年8月に発行されたニュータイプ100%コレクション⑬「花のあすか組／TVバージョン」から流用された写真による3度目の実写ポスター。「スケバン刑事」「少女コマンドーいづみ」といったフジテレビの少女アクション路線の最後を飾った作品で、左から香月はるみ（石田ひかり）、九楽あすか（小高恵美）、堂本ミコ（小沢なつき）の3人。原作は高口里純のコミック

1989

2 ナイト・オブ・ゴールド



イラスト＝劇場版オリジナル原画／「劇場版ファイブスター物語」より●角川アニメ「ファイブスター物語」のラストシーン。ついに姿を現わした黄金の電気騎士＝ナイト・オブ・ゴールドを前にしてキスをするソープとラキシス。劇場版の大判セルとはいえ、本編で使用された原画がそのままＢ２サイズのポスターに使用できてしまうところからも「ファイブスター物語」の作画レベルの高さをうかがい知れる

3 MOBILE POLICE PATLABOR AV98

イラスト＝出渕裕&高田明美／「機動警察パトレイバー」より●ニュータイプ初の試みとしてメカ＝出渕裕、キャラ＝高田明美という黄金コンビにより描かれた野明とＡＶ98イングラムポスター。まずラフ案を出渕裕が担当。それに合わせて高田明美が野明を描き、その後、出渕裕が再びイングラムを描き、ハーモニー処理で仕上げられたという手間がかかることこの上ない作品。野明の健康的なお色気(？)がイイ♡



4 宇宙皇子

イラスト＝いのまたむつみ／「宇宙皇子」より●「ファイブスター物語」とともに角川アニメとして劇場公開された「宇宙皇子」を記念しての皇子さまポスター第４弾。これまでのポスターとはガラリと雰囲気を変えた意欲作で、皇子が真冬、いまだ雪解けやらぬ森の中で４匹の白い手長ザルとたわむれる姿を描いている。なぜ白ザルなのかは不明だが全体を白のイメージで統一したそのコンセプトはすばらしい



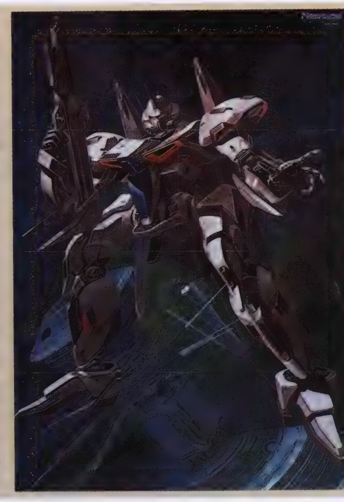
10 PATLABOR



イラスト＝高田明美／「機動警察パトレイバー」より●コミックス、ＯＶＡ、テレビ、そして劇場版とマルチメディア展開を（現在も！）しつづけている「パトレイバー」を題材として初めてついた付録ポスターがこれ。野明もいま見るとホントに幼い感じがして作品の息の長さを感じてしまう。菜園の草むしりでも終えてひと息といった、いかにも特車２課のメンバーらしいシチュエーションではある

11 ガイア・ギア α

イラスト＝伊東守／「ガイア・ギア」より●ニュータイプ誌上で「ファウファウ物語」に続いて連載されていた富野由悠季の書き下ろしＳＦ小説「ガイア・ギア」で主人公のアフランシ・シャアが乗るマンマシーン。メカデザイナーの伊東守自身が描き下ろしたポスターでメカファンに喜ばれた。作品の方は後にラジオドラマやＣＤ、さらにはガレージキットにもなった。ガイア・ギアとは空と大地を結ぶカギの意味



12 アニス・ファーム



イラスト＝菊池通隆／「超音戦士ボーグマン」より●これまたファンの話題になったアニス・ファームのヌードポスター。スケジュールの都合で大判のイラストを描いてもらえなかったために撮影シチュエーションにこってみた。クリスマスカードとともに大切な人にこの写真をそっと贈るというちょっとドキドキモノのお遊び。当然のことながら(？)このポスターも某社からガレージキットとして販売されていた

5 ファイブスター物語



イラスト＝結城信輝／「ファイブスター物語」より●劇場版「ファイブスター物語」の作画監督とキャラクターデザインを担当した人気アニメーター、結城信輝のオリジナルポスター。'89年4月号の次号予告ではファティマポスターと銘打たれていたが、実際は結城信輝のイメージを最優先させた作品となり、巨大な白い羽根をもったラキシスが月夜にはばたくような作品。不思議な結城ワールドを感じさせる

6 綾之介・左近・龍馬



イラスト＝大貫健一／「妖刀伝」より●ＯＶＡとして人気シリーズとなったアニメのコミックスをニュータイプで連載するにあたり（'89年9月号～）読者の要望にこたえる形で実現したポスター。もちろんコミックスを描いていた大貫健一によるもので独特の線や色使いでＯＶＡとは別の世界を見せてくれた。手前から順に綾之介、左近、龍馬と、妖刀を持つ3人の若者。鮮やかに描ききったそのテクニックは◎

7 NT-1



ＣＧワーク＝ビルドアップ／「機動戦士ガンダム　ポケットの中の戦争」より●このころようやく一般のアニメファンの間でも注目され始めていたＣＧ（コンピュータ・グラフィックス）を前号の表紙に続いて使用した意欲作。ＣＧワークをしたビルドアップは映像クリエイティブ集団で、このガンダムＮＴ−1はその技術をすべて投入して描かれた。このＣＧは自由に回り込むことが可能で、この角度がベスト!!

8 MBR-5RAIB



イラスト＝開田裕治／「ＧＵＮＨＥＤ」より●'89年の7月に東宝系で劇場公開されたＳＦ映画「ガンヘッド」の主役メカをポスター化したもので、映画版に登場したブルックリンの改造したバージョンではなく、自走する無改造バージョン。イメージとしては中南米あたりで活躍するガンヘッドといったところで、映画の作品世界をさらに広げてみようという試みから描かれた。上空には最新の戦闘ヘリも登場した

9 天空界八部衆



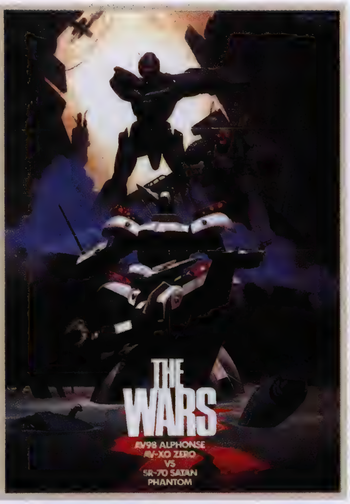
イラスト＝奥田万つ里／「天空戦記シュラト」より●タツノコプロの新たな魅力を生み出した異色アニメの「シュラト」。これに登場する天空界八部衆を曼陀羅風のポスターにしたもので、キャラクターデザインを担当した奥田万つ里自身の手による作品。番組スタート時から、依頼していた作品ではあったが、キャラデザの仕事がつまっていたためなかなか実現できなかった。テレカにもなり人気の高い一枚だ

10 ゴジラVSビオランテ



イラスト＝生頼範義／「ゴジラVSビオランテ」より●いまや年末の恒例作品となった東宝怪獣映画のビッグヒットシリーズ＝ゴジラを定番化させた人気作「ゴジラVSビオランテ」。劇場公開前に生頼範義によって描かれた宣伝ポスターをそのままニュータイプポスターにしたというちょっとお手軽な異色作（!?）。とはいえイラストのレベルはさすがに高く、ゴジラを超える大怪獣ビオランテを強く印象づけた

4 THE WARS



イラスト＝開田裕治／「機動警察パトレイバー」より●「レイバーのタッグ戦を見てみたい」というコンセプトから描かれた一枚。激戦のすえ現われた最後の敵、ファントムとサターンの2機を相手に戦闘態勢に入るイングラムとゼロ。フランク・フラゼッタふうに…というアイデアをみごとにポスター化した開田裕治のテクニックに拍手!!水面に広がる油や、ファントムの無気味な笑顔(!)と隠し味もいっぱい

11 ガンヘッド



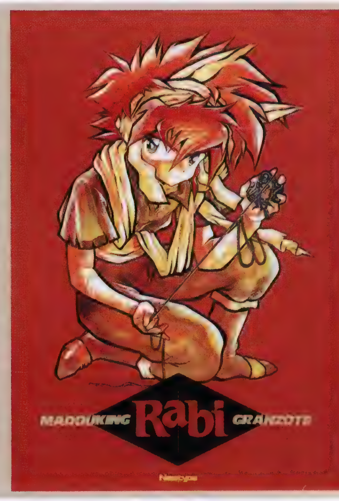
イラスト＝菊池通隆／「GUNHED」より●映画公開に合わせてニュータイプ誌上でコミックスが連載されていた「ガンヘッド」。コミックスを描いていた麻宮騎亜は「小説版ガンヘッド」のイラストも手掛けていたことから、その両方のキャラクターを総出演させた菊池版のガンヘッドポスターの登場となった。ガンヘッド自体のデザインは小説版のもの。このポスターも「ART探検隊」で作業工程を紹介した

5 GRIFFON



イラスト＝橘田幸雄／「機動警察パトレイバー」より●レイバーを使ってポップなポスターをというコンセプトから、スポーツイラストで人気の橘田幸雄にグリフォンのイラストを依頼。デザインのすばらしい、それでいてアニメファンには目新しいイメージのメカポスターができ上がった。ピースコンを多用したテクニックは、「重戦機エルガイム」の番宣ポスターなどで以前から注目されていたもの

12 Rabi



イラスト＝芦田豊雄／「魔動王グランゾート」より●男性アニメファンに圧倒的人気のニュータイプに、女の子に人気のキャラをポスター付録にしてみたらという考えから白羽の矢を立てられたのが、このラビだった。イラストは当然、「グランゾート」のキャラクターデザインを担当していた芦田豊雄に依頼。独特の力強いラインで描かれた野性味あふれるラビ（テレビシリーズより男っぽいと評判!?）となった

6 那羅王レンゲ



イラスト＝菊池通隆／「天空戦記シュラト」より●菊池通隆といえばボーグマンか、ガンヘッド…と考えるのが普通だが「天空戦記シュラト」の那羅王レンゲのポスターを描くとは…と、意表をつくニュータイプポスター。キャラの人気に菊池人気も加わってけっこう話題となった一枚。水に太もも(わ!!)までひたり、物思いにふけるレンゲ。周りに無造作に散らばっている彼女のシャクティの意味するものは？

3 Twins YUI&MAI

1990



イラスト＝内田順久＆伊東守／「獣神ライガー」より●永井豪原作でサンライズ制作というロボットアニメファン待望の作品となった「獣神ライガー」から双子の美人姉妹・神代ゆいと神代まいが登場。プライベートタイムにくつろぐ2人…といったカンジだが、内田順久の繊細なラインと、伊東守の巧みなカラーリングによって実際のアニメ設定よりイロっぽくなってしまった。当然、読者は大喜びでした。ハイ

7 SVII NOA IZUMI



イラスト＝高田明美／「機動警察パトレイバー」より●これまでにまだ泉野明だけのポスターがなかったことから、「これぞ野明！」というイメージで高田明美が描き下ろした一枚。ラフなジーンズ姿でトランクひとつを持ち、ふらりと旅に出かける野明。真っ赤なネッカチーフを首に巻いているところがいかにも野明らしい。'90年8月号で行なったテレカ全員サービスにおいて早くもテレカとなってしまった人気作

8 Nadia in Summer



イラスト＝貞本義行／「ふしぎの海のナディア」より●'90年のヒロインといえばナディア！しかも季節は夏！となれば当然つきます♡ナディア水着ポスター!!着ている水着は第12話でジャンがのぞいた(！)もの。ビーチパラソルの下でスキューバの疲れからひと休み…。夏の強い日ざしや青い空と海などなど、貞本義行の実力が十分発揮されたさわやかさいっぱいの一枚。え、正面から見たい!?それなら本誌参照!!

9 THE BABY SITTER



イラスト＝永野護／「ファイブスター物語」より●コーラスIII世のなきがらをあやすかのようにつきそうラキシスとクローソーの悲しみ…。「ファイブスター物語」の単行本3巻の表紙をそのままポスター化したもの。「ファイブスター物語」のポスターはニュータイプの付録としてしか手に入らないこともあって人気が高い。NEWTYPEのロゴのみが入ることが多いが、これは右上にタイトルが入っている

10 妖刀伝



イラスト＝末弥純／「妖刀伝」より●大貫健一のコミックス版妖刀伝のラストに登場する巨大怪物。デザインを担当した末弥純みずからがポスター化した一枚。月をバックに（調べてみるとニュータイプの付録ポスターには異常に月が出てくるようだ）谷間に立ちふさがる怪物の図。手前の綾之介たちとの対比で巨大感がよく表われている。残念ながらコミックスの中では登場場面が短く、ほとんど暴れていない

11 ロードス島戦記



イラスト＝出渕裕／「ロードス島戦記」より●剣を手にりりしく立つ戦士パーン。ディードは剣士の姿でなく、ドレスをまとい少女らしくパーンにもたれかかっている…。出渕裕によるロードス島戦記イラストの決定版のひとつともいえるようなアールヌーボー調(!?)の一枚。妖しげなカーラの瞳にゾクゾク。原画の色をなかなか再現できず色校正にてまどったといういわく付き。これも全プレテレカになった

12 THE MOBILE POLICE PATLABOR



イラスト＝橘田幸雄／「機動警察パトレイバー」より●'90年5月号に続く橘田幸雄のデザインマジックが楽しめるパトレイバーポスター。グリフォン、エイブラハム、1号機、珍しい3号機、そしてサターンにゼロとカラーインクで描かれた6機のレイバーが色の淡さと余白の白の効果的なレイアウトでカッコよく、しかも収まりよく斬新なイメージを与えてくれている。アニメファンは抽象画を理解できたか!?

1991

2 THE 八犬伝



イラスト＝山形厚史／「THE 八犬伝」より●仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の8つの珠をそれぞれ持つ八犬士が活躍するおなじみの時代娯楽小説をOVA化した「THE 八犬伝」のアニメキャラバージョンポスター。イラストレーターの山形厚史はキャラクター設定を担当している。タイトルと8つの珠をうまくデザインした作品で、イラスト自体も炎、血、羽、波といったさまざまなイメージを内包

3 MOBILE SUIT GUNDAM F91



イラスト＝大河原邦男／「機動戦士ガンダムF91」より●'91年3月に公開された劇場用作品「ガンダムF91」は前作の「逆襲のシャア」と比べると2度しかポスター化されていないが、そのうちの1枚。劇中にMS博物館が登場してくるということで、そのワンシーンをイラスト化したもの。F91がかつてのRX78ガンダムよりもひとまわり小型化されていることもこのポスターで印象づけようという狙いがあった

4 GUNDAM F91 VS LAFRESSIA



イラスト＝開田裕治／「機動戦士ガンダムF91」より●クロスボーンバンガード軍の最後の切り札・ラフレシアと戦うF91。作品の劇場公開までは㊙とされていたこのモビルアーマーをポスターにして見せるというのがコンセプト。設定のラフレシアよりも多少巨大に描くことでその強大さをアピールしている。劇中ではラフレシアと戦うF91はかなり損傷しているのだが、そこはイメージを広げるための技!!

5 MADARA



イラスト＝田島昭宇／「魍魎戦記MADARA」より●OVA化された人気コミック「MADARA」の原作コミックスを描く田島昭宇の描き下ろしイラストを、アートエマルジョンという特殊印刷技術で石の断面にプリントし、それを撮影してポスターにしたもの。石に焼きつけられた思い出…とでもいったふうな不思議な作品として仕上がっている。文章にすると簡単だが、実際は何度も失敗を繰り返し完成した

6 Happy Wonderer



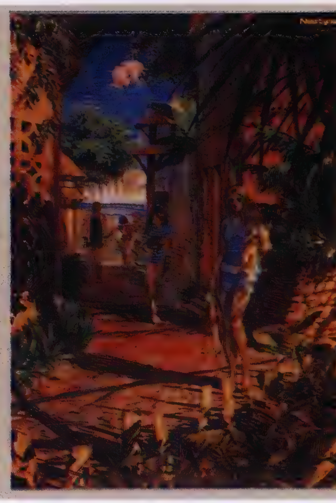
イラスト＝貞本義行／「ふしぎの海のナディア」より●番組終了後も劇場版新作がつくられるなどして人気が落ちなかったナディア。そのナディアとジャンの結婚式を見せたいというコンセプトから描かれた1枚。ただの教会での結婚式でなく、バイクで新婚旅行に出かけるという、いかにも2人ならありそうなシチュエーションにファンは大満足。なおこのポスターはガイナックスの社長室に今も飾られている…

7 FUTURE GPX CYBER FORMULA



イラスト＝いのまたむつみ／「新世紀GPX サイバーフォーミュラ」より●レースものでありながら、キャラの魅力で女の子のファンを多く獲得した「サイバーフォーミュラ」。主人公の風見ハヤトとヒロインの菅生あすか。あすかはレースクイーンっぽくハイレグでポスターに登場させたかったがサンライズ側よりまったがかかり、おとなしめのこのコスチュームとなった。(ちょっと残念／)胸モトの♡は素肌

8 エレクトラ水着SHOT



イラスト＝前田真宏／「ふしぎの海のナディア」より●エレクトラ水着ショット!!という予告で期待したファンをちょっとア然とさせたポスター。派手な色使いでエキゾチックな雰囲気は満点なのだがエレクトラさんは…。番組でナディアやグランディスさんが見せてくれたよーなセクシー水着でなくてちょっち残念といったところか？でもよく見るとスケてるんだぞー。ま、それはともかく光と影の描き方は◎

9 RX-78 GP01



イラスト＝カトキハジメ／「機動戦士ガンダム0083」より●ニュータイプの付録ポスター史上、初めてセル画をハーモニー処理仕上げした意欲作。OVA「0083」の第10話「激突戦域」でソロモンの海を舞台に戦うコウの1号機とガトーの2号機。その勝負は両者痛み分け…。2機のガンダムを捨てて脱出するコウとガトー。その後、月の引力に引かれて落ちていく1号機。ここまでやるかの描き込みに、もう脱帽！

10 ARSLĀN LEGEND



イラスト＝神村幸子／「アルスラーン戦記」より●角川アニメの「アルスラーン戦記」が劇場公開された直後の付録ポスター。田中芳樹の原作小説版では天野喜孝がイラストを描いているが、これはアニメのキャラクターデザインを担当した神村幸子のイラスト。ブルーのバックにイエローの花のコントラストがクールな雰囲気を高めている。アルスラーンが着ている衣装はアニメの設定とは別のオリジナルである

11 Krishna



イラスト＝北爪宏幸／「ガイア・ギア」より●'91年12月号で完結することとなった富野由悠季原作のＳＦ小説「ガイア・ギア」。その完結記念で付録ポスターをつけることとなり、'89年11月号付録ポスターがガイア・ギアαのメカポスターだったことからクリシュナに白羽の矢が立った（ヒロインだし…）。男モノのＹシャツだけをまとったクリシュナ…。ややありがちな設定だがそこはやはり北爪セクシーポスター

12 JUNE STEP



イラスト＝永野護／「ファイブスター物語」より●100％コミック第５巻の表紙を付録ポスター化したもので同シリーズ第３弾。左手に扇を持ったあざやかな青の着物を着た女性はファティマ・静（オリジナルの衣装だがスカートの部分にらしさがある）。純和風のイメージに統一された作品で、雨にけぶる竹林（「JUNE STEP」というタイトルはそこからきている？）の奥のガケにはバンドールの顔が…

1992

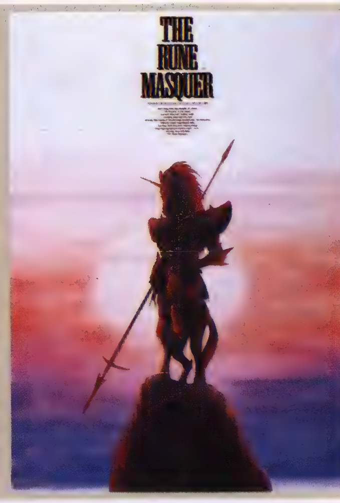
2 パトレイバー怪獣変化



イラスト＝開田裕治／「機動警察パトレイバー」より●第２期ＯＶＡシリーズ第15話「星から来た女」に登場したイングラマンとグリフォンの対決シーン。ウルトラマンとゼットンの対決シーンをほうふつさせるのもあたり前（もともとこの話はウルトラマンの最終回パロなのだし…）だが、バンダイから出ているウルトラセブンのＬＤでジャケットを描いている開田裕治にそのタッチで…と頼む方も頼む方かも

3 THE RUNE MASQUER

イラスト＝出渕裕／「機神幻想ルーンマスカー」より●出渕裕の初めてのコミックス「ルーンマスカー」からイグラットの守護神・スレイプニールの勇姿。このポスターはスレイプニール本体と背景を別々に描き、背景だけをアウトフォーカスに複写し、その上にスレイプニールを印刷する製版合成によってつくられた。マーカーで逆光の中の暗い陰影と輪郭の赤みを自然に描いたその技術には目をみはらされる



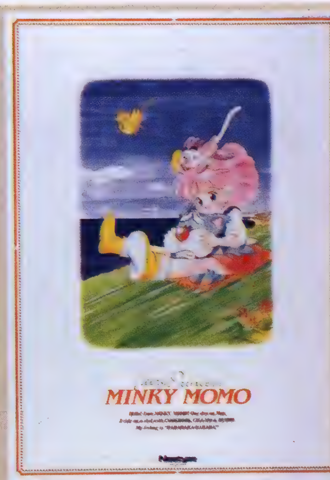
4 ティーエ

イラスト＝いのまたむつみ／「風の大陸」より●'92年11月に公開された角川アニメ「風の大陸」に先がけて描かれたポスター。原作は竹河聖の小説でアニメ化にあたっては結城信輝がキャラクターデザインを担当していた。しかし、ここでは原作の小説にイラストを描いていたいのまたむつみにアウル・トバティーエを描いてもらった。まるで油絵のような大胆な絵具使いがこれまでの作品とひと味違ったよさを発揮

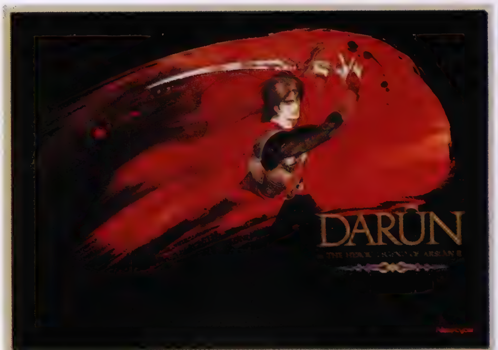


5 Fairy Princess MINKY MOMO

イラスト＝とみながまり／「魔法のプリンセス　ミンキーモモ」より●8年ぶりにテレビシリーズとして復活した「ミンキーモモ」でオープニングの原画やキャラクターデザインを担当するとみながまり描き下ろしの元気なミンキーモモを…というコンセプトでつくられたポスター。海の見える丘から草スキーですべり降りるモモと、お供のルピピ、チャーモ、クックブックの3匹。気分はもうダバダバダバダ



6 DARŪN



イラスト＝神村幸子／「アルスラーン戦記II」より●'91年10月号付録ポスターに続く「アルスラーン戦記」ポスターは、アルスラーンの第一の部下であるダリューンが登場。'92年7月公開の角川アニメとして製作された「——II」では彼が活躍することから選ばれた。バックの黒と血をイメージするマントの赤が強いインパクトを与える作品。前作のアルスラーンと同様、ダリューンの衣装は神村幸子のオリジナル

7 Katsumi Liqueur

イラスト＝菊池通隆／「サイレントメビウス2」より●麻宮騎亜原作の人気コミックが2度目の角川アニメ化によってようやくファンのリクエストにこたえた菊池通隆による香津美リキュールポスターとなった。作品とは特に無関係のオリジナルイラストで、羽根飾りのついた帽子に大きく胸元の開いたドレス、手にはパラソルとレトロ調の衣装をまとった香津美をセピアカラーで描写。バックのデザインもみごと



8 FREE KICK



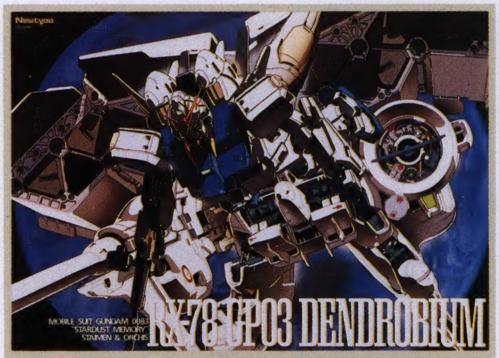
イラスト＝はばらのぶよし／「あしたへフリーキック」より●異色サッカーアニメ…というより学園青春アニメとしても人気が高かった番組からヒロインのみずほ、エレナ、そして美麗の水着ショット。久々の仕掛けポスターで、左側の水着がスナップ写真のみずほが着ているもの…という設定。でも女の子のファンとしては右下で半分カットされている隼とみずほのツーショット写真のほうが気になったりして!?

12 TEARS TO REDS



イラスト＝永野護／「ファイブスター物語」より●100%コミック「ファイブスター物語」第5巻表紙のポスター。第1～4巻になかった赤を基調とした作品で、登場しているキャラクターは驚くことなかれカレンのイメージで描かれたもの。アマテラスとラキシスの間に生まれたAKD最後の女帝カレン。これまでの表紙はリキテックスなどで描かれていたが、これのみアクリル・ガッシュだけを使用したという

9 RX-78 GP03 DENDROBIUM



イラスト＝カトキハジメ／「機動戦士ガンダム0083」より●'91年9月号に続くカトキハジメの0083ポスター第2弾。GP03の全貌を見せる力作で、巨大装備アームドベースのオーキスから分離していくステイメンを描いたもの（2機が合体したものがデンドロビウム）。ニュータイプの付録ポスターとしては初めてマルチプレーン撮影を行なった意欲作でこれまでにない奥行きを感じさせる作品となっている

1993

2 GIANT ROBO



イラスト＝池田久美子＆高橋剛史／「ジャイアント・ロボ」より●今川泰宏監督の手腕と貞本義行キャラが新たな横山光輝ワールドを誕生させた!! '92年のOVA超ヒット作「ジャイアント・ロボ」の勇姿をポスター化。メガトンパンチを繰り出す瞬間のロボと、その肩に乗ってロボを操縦する草間大作＆GOサインを出すヒロインの銀鈴。大きくスリットの入ったチャイナドレス姿に銀鈴ファンももう大満足!!

10 TOKYO BABYLON



イラスト＝CLAMP／「東京BABYLON」より●現代の東京を舞台に、そこに巻き起こるさまざまな怪異事件を解決する皇一族13代目頭主・昴流の活躍を描くCLAMPの人気コミックス「東京BABYLON」。新宿の街（実写をモノクロ写真で使っている）を飾る北都、昴流、そして星史郎の巨大パネル…。ファンならずともできることなら一度ホントに見てみたい気もするようなシチュエーションの一枚

3 ELEMENTALORS



イラスト＝岡崎武士／「精霊使い」より●コミックGENKiで大人気連載中のアクションファンタジーコミック「精霊使い」から、秋桜久と麻美のセクシーポスター。PCMラジオドラマ化を記念しての作品で、本誌のHOW to ARTのページでもそのイラストの仕上げ工程を紹介している。2人を取り込んでいる巨大なホーンのリアルな質感が見どころ。女性らしい丸みを表現したテクニックもさすが

11 TEKKAMAN



イラスト＝佐山善則／「宇宙の騎士テッカマンブレード」より●テッカマンエビル、テッカマンブレード、そしてテッカマンレイピア。この運命の3兄弟をみごとにレイアウトした佐山善則のテクニックに拍手!! エビルのランサーとブレードのブレード、そしてレイピアのレイピアが三角形を形成し、それをレイピアの伸びた髪が丸く包み込んだような配置の妙を楽しんでほしい。淡い色調も不思議な魅力を醸し出す

7 MOBILE SUIT VICTORY GUNDAM



イラスト＝カトキハジメ／「機動戦士Vガンダム」より●ニュータイプ100号目を記念する付録ポスターといえばやはりガンダム!Vガンダムの上でシャクティを抱きかかえるウッソ。地球の太陽と緑を感じさせるポスターを…ということでVガンダムのボディーに木木の緑が映り込んでいるような特殊効果を施してある。これまでに使ったことのないテクニック。いつも何かにチャレンジするカトキポスターだ

ニュータイプ創刊店頭ポスター



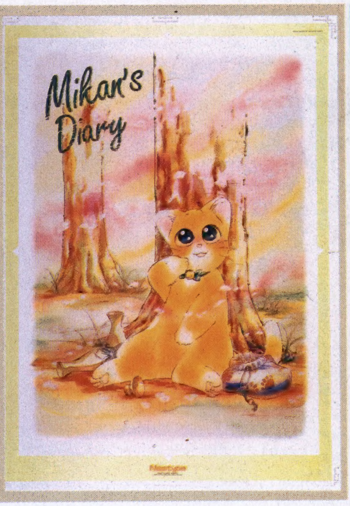
イラスト＝山崎正夫／「機動戦士Zガンダム」より●左手にシールドを構え、右手でビームサーベルを振り下ろすガンダムMKII。本来なら付録ポスターではないものなのだが、'85年3月のニュータイプ創刊時に書店張りの宣伝ポスターとしてつくられたもの。このポスターを創刊時、確かに近所の本屋で見た!!と断言できる人は少ないだろうが、'86年9月にプレゼントでテレカ化されていて見た人はいるかも

その他の店頭ポスター



イラスト＝北爪宏幸／「機動戦士Zガンダム」より●こちらも付録ポスターではない。'85年9月号の表紙をイラストのみならずロゴや特集タイトル、価格表示までそのままA2サイズのポスターにして発売日を下段に打ったもので書店への販売促進用。このポスター以外にも'85年6月号の「バイストン・ウェル」特集の際にもつくられたりしている。ちなみに創刊当時は「Zガンダム」の番組でCFも流れていた

4 Mikan's Diary



イラスト＝杉光登／「みかん絵日記」より●安孫子三和原作の人気動物コミックスをアニメ化した「みかん絵日記」。しゃべる猫、みかんのキャラクターボイスを、まる子、タルるートに続いてTARAKOが担当して話題となった。当初の企画として上がった等身大みかん(!)ポスターのハズだったが多少小さいかも!? 4月号の付録ということでお花見をしてお酒でホロ酔い気分のみかんの姿。なんとも微笑しい

5 TYLOR



イラスト＝平田智浩＆増田昭一／「無責任艦長タイラー」より●吉岡平原作のＳＦ小説をアニメ化した作品。「ナディア」路線を継ぐ作品としてニュータイプ誌上でも人気急上昇中。このポスターは宇宙戦艦そよかぜの艦橋に勢ぞろいしたメンバーの図。メーンモニターに地球艦隊を投影し、そのスクリーン面にタイラーたちの姿が反射で映り込んでいる（多重露光による）予定だったがキャラメーンに変更された

6 DARK



イラスト＝麻宮騎亜／コンピュータペインティング＝菊池通隆／「DARK ANGEL」より●連載開始('90年9月）より2年9か月目にしてようやく付録ポスターとなった「DARK ANGEL」。待ちに待ったポスターはコンピュータグラフィックスの濁。夕日の中で濁は大きく翼を広げる…。舞い散る羽根のひとつひとつがすばらしい立体感とともに見る者にインパクトを与えている。次はぜひ姜を!!

THANKS!

おかげさまで月刊ニュータイプは100号を迎えることができました。これまでの足跡を広く知って頂きたく、この別冊付録を製作しました。読者のみなさん、関係者の方々、たくさんの応援、「本当にありがとう〳」。次は…2001年10月発売の200号に向けてがんばります。

STAFF

●EDITOR IN CHIEF
OSAMU OHTA

●EDITORS
HIRONORI KOMORI
TOHRU NOZAKI
HIRONORI KATAYAMA
NAOKO OKADA
IKUKO SAYAMA
EIKO HARADA
KOHJI NAGOSHI
KAORU KANEYASU

●ART DIRECTOR
TETSUYA ASAKURA

●CONTRIBUTING EDITORS
KOHZOH MATSUMOTO
MASAYUKI IWAIDA
SHINSUKE NAKAJIMA
TOSHIKO HONDA
SHINOBU KUWAHARA
MISUZU KUBO
KAZUHIRO OKAMOTO
NOBUAKI NIKI
MASAHIRO NISHIMURA

●ART ASSOCIATES
YOSHIKAZU MOTO
KAZUMASA HAKAMADA
YUTAKA TAKEUCHI
SACHIKO SAKURAI
HIROMI MIZOHATA

●ASSISTANT
MICHIYO YOSHIMURA

●PRODUCTION MANAGERS
YUTAKA AZUMAYA
TAKAO YAMAGUCHI

●BUSINESS MANAGER
HIDEAKI KIGA

●PROOF READING
KENGO SUGIHARA
HIDEKI SUEMORI

●THANKS
SO MANY READERS



Newtype
THE MOVING PICTURES MAGAZINE
月刊ニュータイプ
7
月刊ニュータイプ7月号付録
第9巻第7号 1993年7月1日発行（毎月1回1日発行）
〒102 東京都千代田区富士見2－13－3 販売部03－3817－8529
発行人 井川浩 編集人 太田修 編集部03－3226－3853
角川書店

…to be continued

ニュータイプはこれからも頑張る

Ⓝ

Newtype Power

Newtype 101, July 1993 on sale. Newtype 150, August 1997 on sale.
Newtype 200, October 2001 on sale. Newtype 300, February 2010, on sale.
Newtype 400, June 2018 on sale. Newtype 500, October 2026, on sale.